

阿波おどりと地域社会との関わりに関する アンケート調査分析¹⁾

川 瀬 晃 弘
鷺 見 英 司

要旨

本稿は、徳島市民の阿波おどりと関わりとソーシャル・キャピタルの実態を学術的に調べることを目的として実施したアンケート調査の性別、年齢区分別クロス集計結果をまとめたものである。本質問紙調査の主な分析結果について、ソーシャル・キャピタルの観点から整理すると以下の通りである。まず、付き合い・交流では、徳島市民の家族と出かける頻度は高く、コロナ禍前には家族関係が密であったが、コロナ禍では家族でさえも男女共に、どの年齢階級でも出かける機会が減少し、コロナ禍において結束型ソーシャル・キャピタルである、つながりの毀損が確認された。スポーツや趣味、学習等の活動は高い頻度で実施されていたが、性・年齢に関係なくコロナ禍で減少したものの、比較的高水準が維持された。信頼については、新型コロナウイルスは人と人との接触を介して感染するため、他者への不信感を生み出し、特に見ず知らずの他人への信頼を毀損することが予想されたが、同じ地域の顔見知りの人（特定信頼）、同じ地域の他人で知らない人（一般信頼）、地域外の他人で知らない人（一般信頼）に対する信頼のすべてで、男女共に、またどの年齢階級でも低下したものの、コロナ禍前後で顕著な低下は確認されなかった。社会参加では、地域活動とボランティア活動の頻度はコロナ禍で特に60歳代以上での低下が大きいこと等が示された。

1. アンケート調査の概要

本アンケート調査（以下、本調査）は、徳島市民の阿波おどりと関わりとソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の実態を学術的に調べることを目的としている。本調査票は、現在と過去の阿波おどりと関わり、地域社会との関わり、個人属性に関する設問で構成されている。

本調査の概要についてまとめると、表 1-1 に示したように、まず、調査は2022年11月21日から12月22日にかけて、15歳から74歳までの徳島市民を対象として実施した。徳島市住民基本台帳・世帯数によれば、本調査で対象とした（上記の年齢に該当する）人口は

1) 本稿で用いるアンケート調査の実施にあたり、徳島市民の皆様、徳島市にぎわい交流課には多大なるご支援とご協力をいただいた。ここに記して心より感謝申し上げる。本調査は、日本大学経済学部産業経営研究所の助成（令和4年度研究プロジェクト）を受けている。

表 1-1. アンケート調査の概要

項 目	内 容
調査対象 実施時期 抽出方法	15 歳から 74 歳までの徳島市民 2022 年 11 月 21 日 - 12 月 22 日 住民基本台帳を用いたランダムサンプリング (年齢階級・居住地区を反映)
配布回収	郵送法
配布部数	5,000 票
回収部数	1,100 票
回 収 率	22.0%

181,461 人で、全人口の 72.6% である²⁾。つぎに、サンプリングは、2022 年 7 月 1 日時点の住民基本台帳から、年齢階級別（5 歳毎）に「15-19 歳」から「70-74 歳」までの 12 区分と徳島市内の 23 地区別の人口構成を反映して割り当て、5,000 サンプルを抽出した。調査票の配布・回収は郵送で行い、配布数 5,000 票に対して、回収数は 1,100 票で、全体の回収率は 22.0% であった。

表 1-2 には、年齢階級別の配布数と回収数及び回収率、回収されたサンプルの年齢階級別分布が示されている。ただし、10 歳代は 15-19 歳、70 歳代は 70-74 歳である。表 1-2 は回収数総数 1,100 票から年齢階級不明 10 票を除いた 1,090 票で算出されたものであり、全体で見ると回収率は 21.8% である。まず、左側の「配布・回収」より、年齢階級別の回収率を見ると、60 歳代と 70 歳代の回収率が 30% を超えた一方で、20 歳代が 10% 台、10 歳代が 10% 未満である。つぎに、右側の「分布」より、回収されたサンプルの年齢階級別分布を実際の徳島市の年齢階級人口の分布と比較すると、回収率が低かった 10 歳代と 20 歳代でそれぞれ 3.1 ポイントと 3.5 ポイント低く、他方、40 歳代で 3.1 ポイント高い。このように、若年層の回収率の低下の影響があるものの、総じて、サンプルは実際の年齢構成の実態を反映したものである。

表 1-3 には、地区別の配布数と回収数及び回収率（表右側の「配布・回収」）、サンプルの地区別分布（表左側の「分布」）が示されている。表 1-3 は回収数総数 1,100 票から地区不明 14 票を除いた 1,086 票で算出されたものであり、全体で見ると回収率は 21.7% である。まず、地区別の回収率を見ると、最低の不動地区の 5.6% から最高の上八万地区の 75.0% まではらつきが大きい、11 地区が 20% 台前半である。つぎに、サンプルの地区別分布を見ると、実際の徳島市の地区別人口分布と比較して、回収率が最も低かった不動地区で 2.5 ポイント、ついで、沖洲地区（回収率 18.5%）で 1.1 ポイント小さい。他方、回収率が最も高かつ

2) 2022 年 7 月 1 日時点の徳島市の世帯数は 122,085 世帯であり、人口は 249,865 人、うち男性 118,781 人、女性 131,084 人である。人口構成は、0-14 歳の年少人口が 30,177 人で 12.1%、15-64 歳の生産年齢人口が 145,195 人で 58.1%、65 歳以上の高齢人口が 74,524 人で 29.8% である。

た上八万地区で2.1ポイント、ついで、国府地区（回収率27.6%）で1.4ポイント、渭北地区（回収率25.6%）と昭和地区（回収率27.5%）で1.1ポイント大きい。このように、一部で回収率の違いによって、実際の分布との違いがわずかに生じたものの、総じて、サンプルは地区別の人口分布の実態を反映したものとなっている。

表 1-2. 年齢階級別の回収率，サンプルの地区別分布

	配布・回収			分布		
	配布数	回収数	回収率	実績	回収	差
10歳代	349	32	9.2%	6.0%	2.9%	-3.1
20歳代	832	99	11.9%	12.6%	9.1%	-3.5
30歳代	903	184	20.4%	15.1%	16.9%	1.8
40歳代	1050	240	22.9%	19.0%	22.0%	3.1
50歳代	810	201	24.8%	18.8%	18.4%	-0.3
60歳代	649	201	31.0%	17.5%	18.4%	1.0
70歳代	407	133	32.7%	11.1%	12.2%	1.1
計	5000	1090	21.8%	100.0%	100.0%	

注1：回数総数1,100票から年齢不明10票を除いた1,090票を対象に集計。

注2：10歳代は15-19歳、70歳代は70-74歳である。

注3：右段の「分布」の「実績」は徳島市の住民基本台帳人口に対する年齢階級別人口の割合、「回収」は回収数1,090票に対する年齢階級別回収数の割合。「差」は後者と前者との差。

表 1-3. 地区別の回収率，サンプルの地区別分布

	配布・回収			分布		
	配布数	回収数	回収率	実績	回収	差
内町地区	104	23	22.1%	2.1%	2.1%	0.0
新町地区	37	4	10.8%	0.7%	0.4%	-0.4
西富田地区	33	8	24.2%	0.7%	0.7%	0.0
東富田地区	122	17	13.9%	2.5%	1.6%	-0.9
昭和地区	200	55	27.5%	4.0%	5.1%	1.1
渭東地区	289	71	24.6%	5.8%	6.5%	0.8
渭北地区	301	77	25.6%	6.0%	7.1%	1.1
佐古地区	211	50	23.7%	4.3%	4.6%	0.3
沖洲地区	357	66	18.5%	7.1%	6.1%	-1.1
津田地区	281	58	20.6%	5.7%	5.3%	-0.3
加茂名地区	500	104	20.8%	9.9%	9.6%	-0.3
加茂地区	425	94	22.1%	8.3%	8.7%	0.4
八万地区	548	121	22.1%	10.9%	11.1%	0.2
勝占地区	343	74	21.6%	6.8%	6.8%	0.0
多家良地区	124	26	21.0%	2.5%	2.4%	-0.1
不動地区	161	9	5.6%	3.3%	0.8%	-2.5
入田地区	28	8	28.6%	0.6%	0.7%	0.1
上八万地区	44	33	75.0%	1.0%	3.0%	2.1
川内地区	338	68	20.1%	6.7%	6.3%	-0.4
応神地区	106	19	17.9%	2.1%	1.7%	-0.4
国府地区	254	70	27.6%	5.1%	6.4%	1.4
南井上地区	126	22	17.5%	2.5%	2.0%	-0.5
北井上地区	68	9	13.2%	1.4%	0.8%	-0.6
計	5000	1,086	21.7%	100.0%	100.0%	

注1：回数総数1,100票から地区不明14票を除いた1,086票を対象に集計。

注2：右段の「分布」の「実績」は徳島市の住民基本台帳人口に対する地区別人口の割合、「回収」は回収数1,086票に対する地区別回収数の割合。「差」は後者と前者との差。

本稿の構成は以下の通りである。

第2節では回答者属性についてまとめる。3節では徳島市民の阿波おどりととの関わりについて、4節では徳島市民の地域社会との関わりについて、性別と年齢階級別に集計した結果を示す。5節には主な調査結果をまとめている。

2. 回答者属性

ここでは、本調査の回答者の性、年齢階級、居住年数、居住地区、学歴、世帯人数、世帯構成、職業、婚姻状況、住居形態、世帯年収及び活用しているメディア媒体についての集計結果をまとめている。

2-1. 性・年齢階級

表2-1には、性と年齢階級の両方に回答のあった1,090名を対象として、性別・年齢階級別の回答者数と構成割合を示している。まず、性別集計を見ると、男性は39.6%（432名）、女性は60.0%（654名）、その他は0.4%（4名）となり、女性の回答者が男性よりも20ポイント程度（222名）多く、また、どの年齢階級においても、女性のほうが回答者数が多い。つぎに、年齢階級別集計を見ると、10歳代（15-19歳）は2.9%、20歳代は9.1%、30歳代は16.9%、40歳代は22.0%、50歳代は18.4%、60歳代は18.4%、70歳代（70-74歳）は12.2%である。男女それぞれの年齢階級別割合は、男性の70歳代の構成が女性より4.2ポイント高い以外は、同程度で分布している。

表2-1. 性別・年齢階級別回答者数

	回答者数				性別集計				年齢階級別集計			
	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
10歳代	11	20	1	32	34.4%	62.5%	3.1%	100.0%	2.5%	3.1%	25.0%	2.9%
20歳代	34	62	3	99	34.3%	62.6%	3.0%	100.0%	7.9%	9.5%	75.0%	9.1%
30歳代	68	116	0	184	37.0%	63.0%	0.0%	100.0%	15.7%	17.7%	0.0%	16.9%
40歳代	96	144	0	240	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%	22.2%	22.0%	0.0%	22.0%
50歳代	80	121	0	201	39.8%	60.2%	0.0%	100.0%	18.5%	18.5%	0.0%	18.4%
60歳代	79	122	0	201	39.3%	60.7%	0.0%	100.0%	18.3%	18.7%	0.0%	18.4%
70歳代	64	69	0	133	48.1%	51.9%	0.0%	100.0%	14.8%	10.6%	0.0%	12.2%
計	432	654	4	1090	39.6%	60.0%	0.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：回数総数1,100票から年齢不明10票を除いた1,090票を対象に集計。

2-2. 性別集計結果

ここでは、回答者の個人属性を性別に集計した結果を示す。なお、表2-9の世帯年収はコロナ禍前後の2019年と2022年の状況が示されている。

①居住年数

表2-2には、回答者の徳島市における居住年数が示されている。居住年数は、年齢とある程度相関しているとみられるが、30年以上が男女ともに最も多く、半数を超えており男性は56.5%、女性は55.7%である。他方、居住歴の短い5年未満（3年未満と3-5年未満の合計）

は、男性が7.1%、女性が7.7%である。

②学歴

表2-3には、学生³⁾を除いた回答者の学歴が示されている。学歴は、専修学校・短大卒と大学卒で男女間の違いが確認できる。専修学校・短大卒は、男性が12.0%であるのに対して、女性は30.2%で女性が18.2ポイント高い。大学卒は男性が35.3%であるのに対して、女性は28.0%で男性が7.3ポイント高い。

③世帯人数（生計を共にしている人数）

表2-4には、回答者本人を含めた生計を共にしている世帯人数が示されている。2人世帯が男女ともに最も多く、30%を超えており男性は30.2%、女性は30.9%である。ついで、一人世帯が男女ともに2番目に高く、男性は23.9%、女性は21.7%であり、3番目に3人世帯が高く、男性は22.5%、女性は19.3%である。

④世帯構成

表2-5には、回答者の世帯構成が示されている。男性は親と末子18歳以上世帯（26.7%）が最も多く、ついで、夫婦のみ世帯と親と末子18歳未満世帯がそれぞれ24.5%と23.6%が多い。女性は親と末子18歳未満世帯（30.4%）が最も多く、ついで、夫婦のみ世帯と親と末子18歳以上世帯が多く、22.4%と21.2%である。単身世帯は男女共に18.2%である。

⑤職業

表2-6には、回答者の職業が示されている。正社員（会社などの正社員・正規の公務員・教員）が男女ともに最も多く、男性は47.9%、女性は33.7%である。ついで、男性は無職が16.4%、非正規雇用（パート・アルバイト、契約・派遣社員）が10.5%、自営業が10.0%であり、女性は非正規雇用者が25.5%、専業主婦が16.3%である。

⑥婚姻状況

表2-7には、回答者の婚姻状況が示されている。既婚が男女共に最も多く、半数を超えており男性は57.9%、女性は56.4%である。ついで、未婚が男女共に高く、男性は31.6%、女性は26.5%である。離別・死別は男性が10.5%、女性は17.2%である。

⑦住居

表2-8には、回答者の住居形態が示されている。持家・戸建てが男女ともに最も多く、男性は61.6%、女性は58.7%である。ついで、借家・集合住宅（マンション・アパート等）が男女ともに高く、男性は26.9%、女性は26.2%である。3番目に持家・集合住宅は男性が6.5%、女性は9.8%である。

⑧世帯年収

表2-9には、コロナ禍前後の回答者の世帯年収が示されている。表2-9（a）を見ると、2019年の男女共に最頻値（最も割合・頻度が高い値）が300-400万円未満でそれぞれ17.5%

3) 学生は表2-6の通り、男性19名、女性33名、その他1名の計53名である。

と 15.1% であり、中位値（低い年収区分あるいは高い年収区分から数えて、回答者の 50% に到達する値）の区分は男女共に 400-500 万円未満である。表 2-9（b）を見ると、コロナ禍の 2022 年の男女計の最頻値が 200-300 万円未満の 15.5% であるが、男性の場合は最頻値が 300-400 万円未満の 16.2% であり、中位値は 400-500 万円未満である。女性は最頻値が 200-300 万円未満の 15.9% であり、中位値は男性と同様に 400-500 万円未満である。

コロナ禍前後で比較すると、第 1 に、全体の最頻値がコロナ禍前の 300-400 万円未満からコロナ禍では 200-300 万円未満に低下したこと、第 2 に、300-400 万円未満の割合が 2.5 ポイント減少して、それより低い世帯年収区分（200-300 万円未満、100-200 万円未満、100 万円未満）が合わせて 4.9 ポイント増加している。同様に、500-600 万円未満が 1.4 ポイント減少して、400-500 万円未満が 0.3 ポイント増加し、さらに、1000-1200 万円未満が 1.1 ポイント減少して、900-1000 万円未満が 0.6 ポイント増加しており、低い年収区分への分布のシフトが生じたことが明らかになった。

⑨メディア利用

表 2-10 には、回答者のメディアの利用状況が示されている。表 2-10（a）を見ると、普段、ニュースを読んだり見たりしている媒体は、男女共にテレビが最も多く、男性は 73.8%、女性は 84.8% である。ついで、スマートフォンが男女共に高く、男性は 71.7%、女性は 77.6% である。3 番目に新聞が高く、男性が 50.8%、女性は 49.2% である。表 2-10（b）を見ると、新聞購読については、男性は 61.1%、女性は 57.5% が定期購読しており、購読していない割合は、男性が 36.3%、女性は 39.3% である。表 2-10（c）を見ると、よく読む新聞については、男女共に地方紙が最も多く、男性は 61.0%、女性は 62.2% である。全国紙と経済紙の合計は、男性が 15.4%、女性は 11.3% である。新聞を読んでいない回答者は 3 割程度で、男性が 31.3%、女性は 30.9% である。

表 2-2. 居住年数

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
3年未満	21	30	0	51	4.8%	4.6%	0.0%	4.7%
3-5年未満	10	20	1	31	2.3%	3.1%	25.0%	2.8%
5-10年未満	27	49	0	76	6.2%	7.5%	0.0%	7.0%
10-20年未満	55	104	1	160	12.7%	15.9%	25.0%	14.6%
20-30年未満	76	87	2	165	17.5%	13.3%	50.0%	15.1%
30年以上	245	365	0	610	56.5%	55.7%	0.0%	55.8%
計	434	655	4	1093	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-3. 学歴

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
中学校卒	21	18	1	40	5.1%	2.9%	33.3%	3.9%
高等学校卒	153	210	0	363	37.5%	34.1%	0.0%	35.4%
専修・短大卒	49	186	1	236	12.0%	30.2%	33.3%	23.0%
大学卒	144	172	1	317	35.3%	28.0%	33.3%	30.9%
大学院卒	34	22	0	56	8.3%	3.6%	0.0%	5.5%
その他	7	7	0	14	1.7%	1.1%	0.0%	1.4%
計	408	615	3	1026	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：学生を除いた集計結果。

表 2-4. 世帯人数（生計を共にしている人数）

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
1人	103	142	0	245	23.9%	21.7%	0.0%	22.5%
2	130	202	2	334	30.2%	30.9%	50.0%	30.7%
3	97	126	0	223	22.5%	19.3%	0.0%	20.5%
4	68	119	1	188	15.8%	18.2%	25.0%	17.3%
5	21	53	0	74	4.9%	8.1%	0.0%	6.8%
6	11	8	1	20	2.6%	1.2%	25.0%	1.8%
7	1	1	0	2	0.2%	0.2%	0.0%	0.2%
8	0	2	0	2	0.0%	0.3%	0.0%	0.2%
11人	0	1	0	1	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%
計	431	654	4	1089	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-5. 世帯構成

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
単身	77	118	1	196	18.2%	18.2%	25.0%	18.2%
夫婦のみ	104	145	0	249	24.5%	22.4%	0.0%	23.2%
親と末子18歳未満	100	197	1	298	23.6%	30.4%	25.0%	27.7%
親と末子18歳以上	113	137	2	252	26.7%	21.2%	50.0%	23.4%
三世代世帯	22	41	0	63	5.2%	6.3%	0.0%	5.9%
その他	8	9	0	17	1.9%	1.4%	0.0%	1.6%
計	424	647	4	1075	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-6. 職業

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
会社役員	27	24	0	51	6.3%	3.7%	0.0%	4.7%
正社員	205	219	1	425	47.9%	33.7%	25.0%	39.3%
自営業者	43	48	0	91	10.0%	7.4%	0.0%	8.4%
非正規雇用	45	166	0	211	10.5%	25.5%	0.0%	19.5%
失業	12	13	1	26	2.8%	2.0%	25.0%	2.4%
無職	70	40	1	111	16.4%	6.2%	25.0%	10.3%
専業主婦・主夫	5	106	0	111	1.2%	16.3%	0.0%	10.3%
学生	19	33	1	53	4.4%	5.1%	25.0%	4.9%
その他	2	1	0	3	0.5%	0.2%	0.0%	0.3%
計	428	650	4	1082	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-7. 婚姻状況

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
既婚	249	368	0	617	57.9%	56.4%	0.0%	56.8%
離・死別	45	112	0	157	10.5%	17.2%	0.0%	14.4%
未婚	136	173	4	313	31.6%	26.5%	100.0%	28.8%
計	430	653	4	1087	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-8. 住居形態

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
持家・戸建て	266	383	0	649	61.6%	58.7%	0.0%	59.6%
持家・集合住宅	28	64	0	92	6.5%	9.8%	0.0%	8.4%
借家・戸建て	19	27	1	47	4.4%	4.1%	25.0%	4.3%
借家・集合住宅	116	171	3	290	26.9%	26.2%	75.0%	26.6%
その他	3	8	0	11	0.7%	1.2%	0.0%	1.0%
計	432	653	4	1089	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-9. 世帯年収

(a) 2019 年

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
100万円未満	32	43	1	76	7.7%	6.9%	25.0%	7.3%
100-200万円未満	33	71	1	105	7.9%	11.4%	25.0%	10.1%
200-300万円未満	56	82	0	138	13.5%	13.2%	0.0%	13.2%
300-400万円未満	73	94	1	168	17.5%	15.1%	25.0%	16.1%
400-500万円未満	50	75	1	126	12.0%	12.1%	25.0%	12.1%
500-600万円未満	35	66	0	101	8.4%	10.6%	0.0%	9.7%
600-700万円未満	34	41	0	75	8.2%	6.6%	0.0%	7.2%
700-800万円未満	22	32	0	54	5.3%	5.1%	0.0%	5.2%
800-900万円未満	21	37	0	58	5.0%	5.9%	0.0%	5.6%
900-1000万円未満	15	23	0	38	3.6%	3.7%	0.0%	3.6%
1000-1200万円未満	21	32	0	53	5.0%	5.1%	0.0%	5.1%
1200-1500万円未満	14	15	0	29	3.4%	2.4%	0.0%	2.8%
1500-2000万円未満	4	8	0	12	1.0%	1.3%	0.0%	1.2%
2000万円以上	6	3	0	9	1.4%	0.5%	0.0%	0.9%
計	416	622	4	1042	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 2022 年

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
100万円未満	36	57	1	94	8.7%	9.2%	25.0%	9.1%
100-200万円未満	40	72	1	113	9.7%	11.7%	25.0%	10.9%
200-300万円未満	63	98	0	161	15.2%	15.9%	0.0%	15.5%
300-400万円未満	67	73	1	141	16.2%	11.8%	25.0%	13.6%
400-500万円未満	48	80	0	128	11.6%	12.9%	0.0%	12.4%
500-600万円未満	32	54	0	86	7.7%	8.7%	0.0%	8.3%
600-700万円未満	36	38	0	74	8.7%	6.1%	0.0%	7.1%
700-800万円未満	18	32	0	50	4.3%	5.2%	0.0%	4.8%
800-900万円未満	23	36	0	59	5.6%	5.8%	0.0%	5.7%
900-1000万円未満	12	32	0	44	2.9%	5.2%	0.0%	4.2%
1000-1200万円未満	16	24	1	41	3.9%	3.9%	25.0%	4.0%
1200-1500万円未満	13	11	0	24	3.1%	1.8%	0.0%	2.3%
1500-2000万円未満	4	8	0	12	1.0%	1.3%	0.0%	1.2%
2000万円以上	6	3	0	9	1.4%	0.5%	0.0%	0.9%
計	414	618	4	1036	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-10. メディア利用

(a) 普段ニュースを読んだり見たりしている媒体

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
テレビ	321	557	1	879	73.8%	84.8%	25.0%	80.2%
新聞	221	323	1	545	50.8%	49.2%	25.0%	49.7%
ラジオ	75	88	0	163	17.2%	13.4%	0.0%	14.9%
パソコンのインターネット	160	148	0	308	36.8%	22.5%	0.0%	28.1%
スマートフォン	312	510	4	826	71.7%	77.6%	100.0%	75.4%
その他	3	3	0	6	0.7%	0.5%	0.0%	0.5%
回答数計	1092	1629	6	2727	251.0%	247.9%	150.0%	248.8%
回答者計	435	657	4	1096	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：複数回答。右段は回答者計に対する割合。

(b) 新聞購読の有無

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
定期購読	264	377	3	644	61.1%	57.5%	75.0%	59.0%
読みたいときに購入	11	21	0	32	2.5%	3.2%	0.0%	2.9%
購読していない	157	258	1	416	36.3%	39.3%	25.0%	38.1%
計	432	656	4	1092	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(c) よく読んでいる新聞

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
地方紙	261	397	2	660	61.0%	62.2%	50.0%	61.7%
全国紙	43	51	0	94	10.0%	8.0%	0.0%	8.8%
経済紙	23	21	0	44	5.4%	3.3%	0.0%	4.1%
その他	7	12	0	19	1.6%	1.9%	0.0%	1.8%
新聞は読んでいない	134	197	2	333	31.3%	30.9%	50.0%	31.1%
回答数計	468	678	4	1150	109.3%	106.3%	100.0%	107.5%
回答者計	428	638	4	1070	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：複数回答。右段は回答者計に対する割合。

2-3. 年齢階級別集計結果

ここでは、10 歳代から 70 歳代までの年齢階級を「30 歳代以下」、「40-50 歳代」及び「60 歳代以上」の 3 区分に集約して、回答者属性についてまとめた結果が示されている。

①居住年数

表 2-11 には、回答者の徳島市における居住年数が年齢階級別に示されている。居住年数は、年齢とある程度相関しており、「40-50 歳代」と「60 歳代以上」では、30 年以上が男女ともに最も多く、「40-50 歳代」が 56.9%、「60 歳代以上」が 86.2% である。他方、「30 歳代以下」は、30 年以上が 22.4% であり、居住歴の短い 5 年未満（3 年未満と 3-5 年未満の合計）は 18.2% である。

②学歴

表 2-12 には、学生⁴⁾を除いた回答者の学歴が年齢階級別に示されている。学歴は、年齢が若いほど大学卒の割合が高く、高等学校卒の割合が低くなる傾向がある。大学卒で見ると、「30 歳代以下」は 41.3% であるが、「40-50 歳代」は 27.9%、「60 歳代以上」は 26.6% である。高等学校卒の割合は、年齢の上昇と共に高まり「30 歳代以下」は 28.6% であるが、「40-50 歳代」は 30.4%、「60 歳代以上」は 47.7% である。

③世帯人数（生計を共にしている人数）

表 2-13 には、回答者を含めて生計を共にしている世帯人数が年齢階級別に示されている。2 人世帯が全体では最も多く 30.7% であるが、年齢階級別に見ると、「30 歳代以下」は 20.2%、「40-50 歳代」は 25.5% であるのに対して、「60 歳代以上」は 47.3% である。「30 歳代以下」では、4 人世帯（25.3%）が最も多く、「40-50 歳代」と「60 歳代以上」は共に 2 人世帯が最も多い。

④世帯構成

表 2-14 には、回答者の世帯構成が年齢階級別に示されている。親と末子 18 歳未満世帯が全体では最も多く、年齢階級別に見ると、「30 歳代以下」と「40-50 歳代」でもそれぞれ 41.7% と 37.5% でも最も多い。「60 歳代以上」は夫婦のみ世帯（41.3%）が最も多く、ついで、単身世帯と親と末子 18 歳以上世帯が高く、それぞれ 28.6% と 19.9% である。

⑤職業

表 2-15 には、回答者の職業が年齢階級別に示されている。「30 歳代以下」は正社員が最も多く 52.4% であり、ついで、学生が 16.7% である。「40-50 歳代」は正社員が最も多く 52.2% であり、ついで、非正規雇用が 21.6% である。「60 歳代以上」は無職が最も多く 27.1%、ついで非正規雇用者が 23.1%、専業主婦・主夫が 21.6% である。

⑥婚姻状況

表 2-16 には、回答者の婚姻状況が年齢階級別に示されている。「30 歳代以下」は未婚が

4) 学生は表 2-15 の通り、「30 歳代以下」52 名、「40-50 歳代」1 名、「60 歳代以上」0 名の計 53 名である。

最も多く 52.1% であり、ついで、既婚が 42.9% である。「40-50 歳代」は既婚が最も多く 61.4% であり、ついで、未婚が 24.5% である。「60 歳代以上」は既婚が最も多く 63.9%、ついで離別・死別が 23.6% である。

⑦住居形態

表 2-17 には、回答者の住まいの状況が年齢階級別に示されている。「30 歳代以下」は持家・戸建てが最も多く 44.1% であり、ついで、借家・集合住宅が 42.5% である。「40-50 歳代」は持家・戸建てが最も多く 57.7% であり、ついで、借家・集合住宅が 26.9% である。「60 歳代以上」は持家・戸建てが最も多く 75.8%、ついで借家・集合住宅が 11.9% である。

⑧世帯年収

表 2-18 には、コロナ禍前後の回答者の世帯年収が年齢階級別に示されている。表 2-18 (a) を見ると、2019 年の全体の最頻値が 300-400 万円未満 (16.2%) であるのと同様に、どの年齢階級でも最も多いのは 300-400 万円未満である。ただし、中位値は年齢階級で異なり、「30 歳代以下」は 400-500 万円未満、「40-50 歳代」は 500-600 万円未満、「60 歳代以上」は 300-400 万円未満である。「30 歳代以下」は、最頻値の 300-400 万円未満の前後の年収区分に集中して分布しているが、「40-50 歳代」は高い年収区分にも分布が広がっている。「60 歳代以上」は最頻値の 300-400 万円未満より低い年収区分に集中している。

表 2-18 (b) を見ると、コロナ禍の 2022 年は、コロナ禍以前と異なり、全体で見ても多いのは 200-300 万円未満の 15.4% であるが、年齢階級では違いが見られ、「30 歳代以下」は最頻値が 400-500 万円未満 (15.0%) であり、「40-50 歳代」と「60 歳代以上」は最頻値が 200-300 万円未満でそれぞれ 11.6% と 22.4% である。ただし、中位値は年齢階級で異なり、「30 歳代以下」は 400-500 万円未満、「40-50 歳代」は 500-600 万円未満、「60 歳代以上」は 200-300 万円未満である。各年齢階級の分布の特徴を見ると、「30 歳代以下」は最頻値の 400-500 万円未満より低い年収区分に集中して分布しているが、「40-50 歳代」は最頻値より高い年収区分に分布が広がっている。「60 歳代以上」は最頻値の 200-300 万円未満の前後の年収区分に集中している。

コロナ禍前後で比較すると、「30 歳代以下」は、中位値がコロナ禍前後で変化がなく、コロナ禍の影響を受けていないように見えるが、300-400 万円未満が 2.0 ポイント減少して、それより低い年収区分 (200-300 万円未満, 100-200 万円未満, 100 万円未満) が合わせて 1.1 ポイント増加といったように、より低い年収区分へのシフトが生じている。「40-50 歳代」は、「30 歳代以下」と同様に中位値に変化がないが、300-400 万円未満が 2.6 ポイント減少して、それより低い年収区分 (200-300 万円未満, 100-200 万円未満, 100 万円未満) が合わせて 4.5 ポイント増加した。また、500-600 万円未満が 2.3 ポイント減少した一方で、400-500 万円未満が 1.2 ポイント増加し、さらに、1000-1200 万円未満が 1.2 ポイント減少した一方で、900-1000 万円未満が 1.4 ポイント増加するといったように、より低い年収区分へのシフトが生じている。特に、「60 歳代以上」は、中位値が 400-500 万円未満から 200-300 万円未満に低下し、

コロナ禍の影響を最も大きく受けた。400-500 万円未満よりも高いすべての年収区分で割合が低下した一方で、年収区分がより低い 100 万円未満が 5.6 ポイント、100-200 万円未満が 8.8 ポイント、200-300 万円未満が 9.2 ポイント、300-400 万円未満が 2.1 ポイント増加した。つまり、コロナ禍で年収区分が 400-500 万円未満とそれを超える割合が 25.8 ポイント減少した一方で、300-400 万円未満とそれを下回る低い年収区分が同じく 25.8 ポイント増加した。

⑨メディア利用

表 2-19 には、回答者のメディアの利用状況が年齢階級別に示されている。表 2-19 (a) より、普段、ニュースを読んだり見たりしている媒体は、「30 歳代以下」と「40-50 歳代」では共にスマートフォンが最も多く、それぞれ 90.2% と 81.4% である。ついで、テレビが共に高く、それぞれ 68.6% と 79.1% である。3 番目には「30 歳代以下」はパソコンが 27.0% で高く、「40-50 歳代」は新聞が 49.7% である。他方で、「60 歳代以上」では、最頻値がテレビ (92.2%) で、ついで新聞 (75.1%)、スマートフォン (53.3%) である。表 2-19 (b) より、新聞購読については、「30 歳代以下」は 36.8%、「40-50 歳代」は 58.0%、「60 歳代以上」は 80.7% が定期購読しており、年齢の上昇と共に増加する。他方、「30 歳代以下」は 59.4%、「40-50 歳代」は 39.7%、「60 歳代以上」は 16.3% が新聞を購読しておらず、年齢と共に低下する。表 2-19 (c) より、よく読む新聞については、すべての年齢階級で共に地方紙が最も多く、また、「30 歳代以下」は 41.7%、「40-50 歳代」は 64.0%、「60 歳代以上」は 77.4% と年齢と共に上昇する。全国紙と地方紙の合計は、「30 歳代以下」は 8.8%、「40-50 歳代」は 13.5%、「60 歳代以上」は 15.6% であり、これらも年齢と共に増加する。新聞を読んでいない回答者は全体では 3 割程度であるが、「30 歳代以下」は 55.0%、「40-50 歳代」は 29.1%、「60 歳代以上」は 11.6% であり、若年層では半数超が新聞を読んでいない。

2-4. 回答者属性のまとめ

まず、回答者属性の主な特徴を性別にまとめると、以下の通りである。

- 女性の回答者数がかなり大きくなったものの、属性に性差は一部を除き、ほとんど確認されない。
- 居住年数は 50% 超が 30 年以上に渡り、現在の居住地に住んでいる (表 2-2)。
- 学歴には性差が確認され、女性で大学卒の割合が低く、専修学校・短大卒が多いものの、高卒が最も多い (表 2-3)。
- 生計を共にしている世帯人数は 2 人が最多で、ついで 1 人、3 人が続く (表 2-4)。
- 世帯構成は、夫婦のみ、親と末子 18 歳未満、親と末子 18 歳以上が同程度で共に高い (表 2-5)。
- 職業は正社員が最多であるが、女性は非正規雇用者と専業主婦の割合が高い (表 2-6)。
- 婚姻状況は、半数超が既婚であり、未婚が 30% 程度である (表 2-7)。
- 住居形態は、60% が持家・戸建てに居住しており、ついで借家・集合住宅が四分の一程度である (表 2-8)。

- 世帯年収はコロナ禍前の2019年は300-400万円未満が最頻値であったが、コロナ禍の2022年には200-300万円未満が最頻値となって、コロナ禍では、全体としてより低い年収区分へのシフトが生じた（表2-9）。
- ニュースを知るための利用メディアについては、テレビとスマートフォンの利用が70%超であり、ついで新聞が50%程度である。60%程度が新聞を定期購読している。また、回答者70%程度が新聞を読むが、60%程度は地方紙である。全国紙や経済紙は13%程度にすぎない（表2-10）。

つぎに、回答者属性の主な特徴を年齢階級別でまとめると、以下の通りである。

- 性別の結果とは異なり、属性の年齢階級による違いが確認された。
- 居住年数は年齢を反映して、年齢が上がるほど長くなる。他方で、「30歳代以下」は5年未満が20%弱程度である（表2-11）。
- 学歴は年齢差が大きく、「30歳代以下」は大学卒の割合が高く、「40-50歳代」は高卒と専修学校・短大卒が共に高く、「60歳代以上」は高卒が最も高い（表2-12）。
- 生計を共にしている世帯人数にも年齢差が確認され、「30歳代以下」は2人から4人がすべて20%超で高く、「40-50歳代」は1人から4人がすべて20%超、「60歳代以上」は2人が50%弱、ついで1人が30%弱で高い（表2-13）。
- 世帯構成は、「30歳代以下」と「40-50歳代」は親と末子18歳未満が最も高く、「60歳代以上」は夫婦のみが最も高い（表2-14）。
- 職業は「30歳代以下」と「40-50歳代」では正社員が最も高く、「60歳代以上」は非正規雇用者、無職、専業主婦・主夫の割合が高い（表2-15）。
- 婚姻状況は、「30歳代以下」は未婚が50%超、既婚が40%超であるが、「40-50歳代」と「60歳代以上」は既婚が60%超で高い（表2-16）。
- 住居形態は、「30歳代以下」は持家・戸建てと借家・集合住宅が40%超で共に高いが、「40-50歳代」と「60歳代以上」は持家・戸建てがそれぞれ60%弱、75%程度で最も高い（表2-17）。
- 世帯年収はコロナ禍前の2019年はすべての年齢階級で300-400万円未満が最頻値であったが、コロナ禍の2022年には「40-50歳代」と「60歳代以上」は200-300万円未満が最頻値となった。特に、コロナ禍では、「60歳代以上」ではより低い年収区分へのシフトが顕著であり、収入面で大きな影響を受けたことが確認された（表2-18）。
- 利用メディアについては、テレビは年齢と共に上昇し、スマートフォンは低下する。「30歳代以下」の90%がスマートフォン、「60歳代以上」の90%超が新聞を利用している。新聞の定期購読も年齢と共に上昇し、「30歳代以下」の40%弱に対して、「60歳代以上」は80%が購読している。また、「30歳代以下」の50%超が新聞を読まないのに対して、新聞を読まない「60歳代以上」は10%超である。読まれている新聞は圧倒的に地方紙であるが、年齢の上昇と共に全国紙や経済紙の割合がわずかに高まる（表2-19）。

表 2-11. 居住年数

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
3年未満	36	14	0	50	11.5%	3.2%	0.0%	4.6%
3-5年未満	21	7	3	31	6.7%	1.6%	0.9%	2.9%
5-10年未満	43	26	6	75	13.7%	5.9%	1.8%	6.9%
10-20年未満	73	70	15	158	23.3%	15.9%	4.5%	14.5%
20-30年未満	70	73	22	165	22.4%	16.6%	6.6%	15.2%
30年以上	70	251	287	608	22.4%	56.9%	86.2%	55.9%
計	313	441	333	1087	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-12. 学歴

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
中学校卒	4	16	19	39	1.5%	3.7%	5.8%	3.8%
高等学校卒	74	133	156	363	28.6%	30.4%	47.7%	35.5%
専修・短大卒	50	126	59	235	19.3%	28.8%	18.0%	23.0%
大学卒	107	122	87	316	41.3%	27.9%	26.6%	30.9%
大学院卒	20	31	5	56	7.7%	7.1%	1.5%	5.5%
その他	4	9	1	14	1.5%	2.1%	0.3%	1.4%
計	259	437	327	1023	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：学生を除いた集計結果。

表 2-13. 世帯人数（生計を共にしている人数）

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
1人	58	93	94	245	18.6%	21.1%	28.1%	22.6%
2	63	112	158	333	20.2%	25.5%	47.3%	30.7%
3	73	101	48	222	23.4%	23.0%	14.4%	20.4%
4	79	93	15	187	25.3%	21.1%	4.5%	17.2%
5	27	34	13	74	8.7%	7.7%	3.9%	6.8%
6	9	7	4	20	2.9%	1.6%	1.2%	1.8%
7	1	0	1	2	0.3%	0.0%	0.3%	0.2%
8	1	0	1	2	0.3%	0.0%	0.3%	0.2%
11人	1	0	0	1	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
計	312	440	334	1086	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-14. 世帯構成

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
単身	59	86	92	237	19.2%	20.0%	28.6%	22.4%
夫婦のみ	35	70	133	238	11.4%	16.3%	41.3%	22.5%
親と末子18歳未満	128	161	9	298	41.7%	37.5%	2.8%	28.2%
親と末子18歳以上	57	88	64	209	18.6%	20.5%	19.9%	19.8%
三世帯世帯	19	21	16	56	6.2%	4.9%	5.0%	5.3%
その他	9	3	8	20	2.9%	0.7%	2.5%	1.9%
計	307	429	322	1058	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-15. 職業

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
会社役員	12	22	17	51	3.9%	5.0%	5.2%	4.7%
正社員	163	229	32	424	52.4%	52.2%	9.7%	39.3%
自営業者	17	36	38	91	5.5%	8.2%	11.6%	8.4%
非正規雇用	39	95	76	210	12.5%	21.6%	23.1%	19.5%
失業	13	8	5	26	4.2%	1.8%	1.5%	2.4%
無職	5	16	89	110	1.6%	3.6%	27.1%	10.2%
専業主婦・主夫	8	32	71	111	2.6%	7.3%	21.6%	10.3%
学生	52	1	0	53	16.7%	0.2%	0.0%	4.9%
その他	2	0	1	3	0.6%	0.0%	0.3%	0.3%
計	311	439	329	1079	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-16. 婚姻状況

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
既婚	135	270	211	616	42.9%	61.4%	63.9%	56.8%
離・死別	16	62	78	156	5.1%	14.1%	23.6%	14.4%
未婚	164	108	41	313	52.1%	24.5%	12.4%	28.8%
計	315	440	330	1085	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-17. 住居形態

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
持家・戸建て	138	251	248	637	44.1%	57.7%	75.8%	59.3%
持家・集合住宅	19	49	25	93	6.1%	11.3%	7.6%	8.7%
借家・戸建て	18	17	10	45	5.8%	3.9%	3.1%	4.2%
借家・集合住宅	133	117	39	289	42.5%	26.9%	11.9%	26.9%
その他	5	1	5	11	1.6%	0.2%	1.5%	1.0%
計	313	435	327	1075	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-18. 世帯年収

(a) 2019 年

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
100万円未満	21	23	32	76	7.1%	5.4%	10.0%	7.3%
100-200万円未満	18	34	53	105	6.1%	8.0%	16.5%	10.1%
200-300万円未満	36	40	61	137	12.2%	9.4%	19.0%	13.2%
300-400万円未満	46	54	68	168	15.6%	12.7%	21.2%	16.2%
400-500万円未満	44	42	40	126	15.0%	9.9%	12.5%	12.1%
500-600万円未満	34	48	19	101	11.6%	11.3%	5.9%	9.7%
600-700万円未満	21	42	12	75	7.1%	9.9%	3.7%	7.2%
700-800万円未満	12	34	8	54	4.1%	8.0%	2.5%	5.2%
800-900万円未満	15	34	9	58	5.1%	8.0%	2.8%	5.6%
900-1000万円未満	14	19	5	38	4.8%	4.5%	1.6%	3.7%
1000-1200万円未満	23	24	5	52	7.8%	5.6%	1.6%	5.0%
1200-1500万円未満	8	15	6	29	2.7%	3.5%	1.9%	2.8%
1500-2000万円未満	0	10	2	12	0.0%	2.4%	0.6%	1.2%
2000万円以上	2	6	1	9	0.7%	1.4%	0.3%	0.9%
計	294	425	321	1040	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 2022 年

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
100万円未満	20	33	41	94	6.8%	7.8%	12.9%	9.1%
100-200万円未満	19	34	60	113	6.5%	8.0%	18.9%	10.9%
200-300万円未満	39	49	71	159	13.3%	11.6%	22.4%	15.4%
300-400万円未満	40	43	58	141	13.7%	10.1%	18.3%	13.6%
400-500万円未満	44	47	37	128	15.0%	11.1%	11.7%	12.4%
500-600万円未満	31	38	17	86	10.6%	9.0%	5.4%	8.3%
600-700万円未満	24	41	9	74	8.2%	9.7%	2.8%	7.2%
700-800万円未満	10	32	8	50	3.4%	7.5%	2.5%	4.8%
800-900万円未満	19	35	5	59	6.5%	8.3%	1.6%	5.7%
900-1000万円未満	17	25	2	44	5.8%	5.9%	0.6%	4.3%
1000-1200万円未満	19	19	3	41	6.5%	4.5%	0.9%	4.0%
1200-1500万円未満	8	12	4	24	2.7%	2.8%	1.3%	2.3%
1500-2000万円未満	1	10	1	12	0.3%	2.4%	0.3%	1.2%
2000万円以上	2	6	1	9	0.7%	1.4%	0.3%	0.9%
計	293	424	317	1034	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-19. メディア利用

(a) 普段ニュースを読んだり見たりしている媒体

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
テレビ	216	349	308	873	68.6%	79.1%	92.2%	80.1%
新聞	70	219	251	540	22.2%	49.7%	75.1%	49.5%
ラジオ	15	72	76	163	4.8%	16.3%	22.8%	15.0%
パソコンのインターネット	85	139	81	305	27.0%	31.5%	24.3%	28.0%
スマートフォン	284	359	178	821	90.2%	81.4%	53.3%	75.3%
その他	0	1	5	6	0.0%	0.2%	1.5%	0.6%
回答数計	670	1139	899	2708	212.7%	258.3%	269.2%	248.4%
回答者計	315	441	334	1090	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：複数回答。右段は回答者計に対する割合。

(b) 新聞購読の有無

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
定期購読	116	256	267	639	36.8%	58.0%	80.7%	58.8%
読みたいときに購入	12	10	10	32	3.8%	2.3%	3.0%	2.9%
購読していない	187	175	54	416	59.4%	39.7%	16.3%	38.3%
計	315	441	331	1087	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(c) よく読んでいる新聞

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
地方紙	128	275	254	657	41.7%	64.0%	77.4%	61.7%
全国紙	16	38	39	93	5.2%	8.8%	11.9%	8.7%
経済紙	11	20	12	43	3.6%	4.7%	3.7%	4.0%
その他	0	7	11	18	0.0%	1.6%	3.4%	1.7%
新聞は読んでいない	169	125	38	332	55.0%	29.1%	11.6%	31.2%
回答数計	324	465	354	1143	105.5%	108.1%	107.9%	107.3%
回答者計	307	430	328	1065	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：複数回答。右段は回答者計に対する割合。

3. 徳島市民の阿波おどりとの関わり

ここでは、徳島市民の現在と過去における阿波おどりとの関わりとその実態について、集計結果を明らかにする。

3-1. コロナ禍における徳島市阿波おどりの開催状況

コロナ禍における徳島市阿波おどりの開催状況を振り返ると、2020年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、戦後初の中止となった。2021年は、徳島市が運営主体となって、感染症対策や入場者数を管理できる会場で、従来より規模を縮小して開催された。具体的には、8月12日の前夜祭と8月13日と14日の選抜阿波おどりはあわぎんホールで開催され、8月15日はグランドフィナーレとして、ワークスタッフ陸上競技場での特別公演が行われ、無観客のライブ配信された⁵⁾。

2022年は、3年ぶりに行動制限を伴わないお盆であったものの、7月中旬以降、全国的に新型コロナウイルス感染症の新規陽性者数が顕著に増加し、徳島県内では8月初旬から全国平均を大幅に上回るペースで増加するという状況⁶⁾のなかで、2019年以前の開催規模より縮小して、屋外に演舞場を設置して開催された。阿波おどり未来へつなぐ実行委員会の報告⁷⁾によれば、8月12日から15日までの会場エリア周辺の人出の状況（推計値）は、46万人とされている。8月11日の前夜祭はアスティとくしまで34連が参加して開催され、来場者数は2,475人であり、8月12日から15日までの開催期間中では、選抜阿波おどりがあわぎんホールで31連が参加して開催され、来場者数は5,944人、有料演舞場は藍場浜演舞場と南内町演舞場で延べ234連が参加して開催され、来場者数は31,377人、無料演舞場は両国本町演舞場と新町橋演舞場で延べ453連が参加して開催され、来場者数は14,900人であった。そ

5) 徳島市「2021 阿波おどり～ニューノーマルモデル～について」

6) 厚生労働省「データからわかる—新型コロナウイルス感染症情報—」より、10万人当たりの新規陽性者数の7日間平均値を算出すると、7月1日時点では徳島県が9.2人、全国が14.7人であったが、7月中旬以降、全国的に陽性者数が顕著に増加して、8月1日には徳島県が90.5人、全国が160.8人と10倍程度まで増え、さらに徳島県内では8月初旬から全国平均を大幅に上回るペースで増加して、開催直前の8月11日には徳島県が136.1人、全国が170.9人となっていた。

7) 阿波おどり未来へつなぐ実行委員会「『2022 阿波おどり』の開催結果について」

のほかに、新町橋東おどり広場、両国橋南おどり広場、アミコドーム、シビックセンターさくらホールでは延べ167連が参加し、来場者数は13,200人であった。

3-2. 現在の阿波おどりとの関わり

ここでは、まず、徳島市民の阿波おどりとの「現在」(2022年)における関わりの実態と連員としての関わりの実態を明らかにする。

(1) 現在の阿波おどりとの関わりの実態

まず、表3-1から表3-3より、徳島市民の現在の阿波おどりとの関わりの実態について明らかにする。

①現在の阿波おどりとの関わりの有無

表3-1には、阿波おどりとの関わりの有無が性別、年齢階級別に示されている。阿波おどりとの関わりと性別について回答した975名で見ると、徳島市民の51.3%が「観覧だけ」の関わりを持っており、5.1%が「現在関わりがある」、23.0%が「過去にあったが現在はない」、20.6%が「全くなし」である。

表3-1(a)より、性別に見ると、男性は「観覧だけ」が47.8%、「現在関わりがある」が5.9%、「過去にあったが現在はない」が22.9%、「全くなし」が23.4%である。女性は「観覧だけ」が53.8%、「現在関わりがある」が4.6%、「過去にあったが現在はない」が23.2%、「全くなし」が18.4%である。(性差はほとんど確認されないが)女性のほうが男性よりも「観覧だけ」の割合が6ポイント高く、「全くなし」が5ポイント低い。

表3-1(b)より、年齢階級別に見ると、どの年齢階級でも最も多いのが「観覧だけ」であり、その割合は「30歳代以下」で最も高い。阿波おどりとの関係が「現在ある」と回答した割合は「60歳代以上」が5.6%で最も高いが、最も低い「30歳代以下」(4.4%)との差は、1.2ポイントにすぎない。「過去にあったが現在はない」の割合は「30歳代以下」で20%未満で低く、「40-50歳代」と「60歳代以上」では共に25%程度である。

②具体的な関わり

表3-2には、阿波おどりと現在関わりがあると回答者した50名の具体的な関わり(複数回答)が性別、年齢階級別に示されている。表3-1(a)より、具体的な関わりは、半数超の56.0%(28名)が「連員」、30.0%(15名)が「職場の仕事」(「職場の仕事の一環としての関わり」)、14.0%(7名)が「地域・町内の活動」(「地域や町内会の活動を通じた関わり」)、12.0%(6名)が「連や連員への協力」である。表3-2(a)より、性別に見ると、男性は「連員」が60.9%、「職場の仕事」が30.4%、「連や連員への協力」が13.0%、「地域・町内の活動」が13.0%の順で回答割合が高く、女性は「連員」が51.9%、「職場の仕事」が29.6%、「地域・町内の活動」が14.8%、「連や連員への協力」が11.1%の順で高い。

(複数回答の設問であることから)回答者計に対する回答数計の比率を見ると、男性が

130.4%, 女性が122.2%であり, これは, 平均して男性が1.3 個の関わり, 女性が1.2 個の関わりをもっていることを示している. このことから, 阿波おどりを介して, 市民が複数の関わりを持つというよりは, いずれか一つ (たとえば, 連員であれば連員のみ) に特化して阿波おどりと関わりを持っていることが明らかになった.

表 3-2 (b) より, 年齢階級別に見ると, どの年齢階級でも「連員」が最も高いが, ばらつきがあり, 「30 歳代以下」が 50.0%, 「60 歳代以上」が 41.2% であるのに対して, 「40-50 歳代」は 75.0% である. 「連や連員への協力」, 「地域・町内の活動」及び「ボランティア」としての関わりは「60 歳代以上」で高いことが確認される.

③最も重要な関わり

表 3-3 には, 現在の阿波おどりと関わりの中で, 回答者にとっての最も重要な関わりが性別, 年齢階級別に示されている. 現在関わりがある 50 名にとっての最も重要な関わりは, 半数の 50.0% (25 名) が「連員」, 22.0% (11 名) が「職場の仕事」, 10.0% (5 名) が「地域・町内の活動」, 6.0% (3 名) が「連や連員への協力」である. 表 3-3 (a) より, 性別に見ると, 男性は「連員」が 47.8%, 「職場の仕事」が 21.7%, 「連や連員への協力」が 8.7%, 「地域・町内の活動」が 8.7% の順で回答割合が高く, 女性は「連員」が 51.9%, 「職場の仕事」が 22.2%, 「地域・町内の活動」が 11.1% の順で高い.

表 3-3 (b) より, 年齢階級別に見ると, どの年齢階級でも「連員」が最も高く, 「30 歳代以下」(41.7%) と「60 歳代以上」(35.3%) と比較して, 「40-50 歳代」は 70.0% であった. その一方で, 「30 歳代以下」と「60 歳代以上」は「職場の仕事」が高く, また, 「60 歳代以上」では「連や連員への協力」, 「地域・町内の活動」及び「ボランティア」としての関わりが多いことが確認される.

つぎに, 表 3-4 から表 3-6 には, 「連員」, 「連協力」(連や連員への協力), 「地域活動」(地域や町内会の活動を通じた関わり), 「仕事」(職場の仕事の一環としての関わり) の四つの関わりについて, それぞれへの参加の程度が示されている.

④最も重要な関わりへの参加度

表 3-4 には, コロナ禍前と後で, 8 月の阿波おどり本番までの最も重要な関わりへの参加の程度が示されている. まず, 「連員」として関わった(阿波おどり本番までの参加)の頻度を見ると, 表 3-4 (a) より, 感染症拡大前(2019 年)は, 「週に数回程度以上」が 52.0% と最も多く, ついで, 「週に 1 回程度」が 20.0% であったのに対して, (b) 感染症拡大後(2022 年)は, 表 3-4 (b) より, 「参加していない」が 37.5% で最も多い一方で, 「週に数回程度以上」は 29.2%, 「週に 1 回程度」は 12.5% となり, コロナ禍前の 2019 年と比較して, それぞれ 22.8 ポイントと 7.5 ポイント減少した. つぎに, 「仕事」として関わった頻度を見ると, (a) 感染症拡大前(2019 年)は, 表 3-4 (a) より, (原因が不明だが)「参加していない」が 45.5% で最も多かったものの, ついで, 「週に数回以上」が 27.3%, 「当日のみ参加」が 18.2% であったのに対して, (b) 感染症拡大後(2022 年)は, 表 3-4 (b) より, 「参加して

いない」が 63.6% に 18.1 ポイント上昇し、「週に数回程度以上」が 18.2%, 「当日のみ参加」が 0.0% となり、それぞれ 9.1 ポイントと 18.2 ポイント減少した。

⑤最も重要な関わりを持った時期

表 3-5 には、現在の最も重要な関わりを持った時期が示されている。まず、「連員」として関わりを持った時期を見ると、最も多いのは「社会人になってから」の 44.0% であり、ついで、「小学生以前から」が 20.0% である。また、半数超（56.0%）が社会人となる前に連に所属しているという実態が明らかになった。つぎに、「仕事」として関わりを持った時期を見ると、「社会人となってから」が 81.8% であり、（アルバイト等を通じたきっかけから）「高校卒業後の学生の頃から」が 18.2% であった。さらに、「連や連員への協力」や「地域や町内の活動」については、「社会人になってから」がほとんど（それぞれ 100% と 80%）である。

⑥最も重要な関わりを持ったきっかけ

表 3-6 には、現在の最も重要な関わりを持ったきっかけ（複数回答）が示されている。まず、「連員」として関わりを持ったきっかけを見ると、最も多いのは「連の知人から誘われた」の 60.0% であり、ついで、「自身で参加したいと思ったから」が 40.0% である。つぎに、「仕事」として関わりを持ったきっかけを見ると、「勤務先の仕事だから」が 81.8% であり、「連の知人から誘われたから」と「家族から誘われたから」が共に 9.1% であった。さらに、「連や連員への協力」は「勤務先の仕事」が多く、「地域や町内の活動」は「自身で参加したいと思ったから」と「家族から誘われた」の割合が高い。

表 3-1. 阿波おどりと関わり

(a) 性別

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
観覧だけ	186	313	1	500	47.8%	53.8%	25.0%	51.3%
現在関わりがある	23	27	0	50	5.9%	4.6%	0.0%	5.1%
過去にあったが現在なし	89	135	0	224	22.9%	23.2%	0.0%	23.0%
全くなし	91	107	3	201	23.4%	18.4%	75.0%	20.6%
計	389	582	4	975	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
観覧だけ	152	191	152	495	55.3%	48.8%	50.3%	51.1%
現在ある	12	20	17	49	4.4%	5.1%	5.6%	5.1%
過去にあった	49	101	73	223	17.8%	25.8%	24.2%	23.0%
まったくなし	62	79	60	201	22.5%	20.2%	19.9%	20.8%
計	275	391	302	968	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 3-2. 現在の阿波おどりとの関わり

(a) 性別

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
連員	14	14	0	28	60.9%	51.9%	-	56.0%
連や連員への協力	3	3	0	6	13.0%	11.1%	-	12.0%
おどりに参加	1	1	0	2	4.3%	3.7%	-	4.0%
地域・町内の活動	3	4	0	7	13.0%	14.8%	-	14.0%
運営者	1	0	0	1	4.3%	0.0%	-	2.0%
ボランティア	1	1	0	2	4.3%	3.7%	-	4.0%
職場の仕事	7	8	0	15	30.4%	29.6%	-	30.0%
その他	0	2	0	2	0.0%	7.4%	-	4.0%
回答数計	30	33	0	63	130.4%	122.2%	-	126.0%
回答者計	23	27	0	50	100.0%	100.0%	-	100.0%

(b) 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
連員	6	15	7	28	50.0%	75.0%	41.2%	57.1%
連や連員への協力	1	1	4	6	8.3%	5.0%	23.5%	12.2%
おどりに参加	1	0	1	2	8.3%	0.0%	5.9%	4.1%
地域・町内の活動	1	3	3	7	8.3%	15.0%	17.6%	14.3%
運営者	0	1	0	1	0.0%	5.0%	0.0%	2.0%
ボランティア	0	0	2	2	0.0%	0.0%	11.8%	4.1%
職場の仕事	4	5	5	14	33.3%	25.0%	29.4%	28.6%
その他	1	1	0	2	8.3%	5.0%	0.0%	4.1%
回答数計	14	26	22	62	116.7%	130.0%	129.4%	126.5%
回答者計	12	20	17	49	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：複数回答。右段は回答者計に対する割合。

表 3-3. 現在の最も重要な関わり

(a) 性別

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
連員	11	14	0	25	47.8%	51.9%	-	50.0%
連や連員への協力	2	1	0	3	8.7%	3.7%	-	6.0%
おどりに参加	1	0	0	1	4.3%	0.0%	-	2.0%
地域・町内の活動	2	3	0	5	8.7%	11.1%	-	10.0%
運営者	1	0	0	1	4.3%	0.0%	-	2.0%
ボランティア	1	1	0	2	4.3%	3.7%	-	4.0%
職場の仕事	5	6	0	11	21.7%	22.2%	-	22.0%
その他	0	2	0	2	0.0%	7.4%	-	4.0%
計	23	27	0	50	100.0%	100.0%	-	100.0%

(b) 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
連員	5	14	6	25	41.7%	70.0%	35.3%	51.0%
連や連員への協力	1	0	2	3	8.3%	0.0%	11.8%	6.1%
おどりに参加	1	0	0	1	8.3%	0.0%	0.0%	2.0%
地域・町内の活動	1	1	3	5	8.3%	5.0%	17.6%	10.2%
運営者	0	1	0	1	0.0%	5.0%	0.0%	2.0%
ボランティア	0	0	2	2	0.0%	0.0%	11.8%	4.1%
職場の仕事	3	3	4	10	25.0%	15.0%	23.5%	20.4%
その他	1	1	0	2	8.3%	5.0%	0.0%	4.1%
計	12	20	17	49	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 3-4. 最も重要な関わりへの参加の程度（8月の阿波おどり本番まで）

(a) 感染症拡大前（2019年）

	連員	連協力	地域活動	仕事	連員	連協力	地域活動	仕事
週に数回程度以上	13	0	0	3	52.0%	0.0%	0.0%	27.3%
週に1回程度	5	0	0	0	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
月に数回程度	1	0	2	1	4.0%	0.0%	40.0%	9.1%
数か月に数回程度	2	0	0	0	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年に数回程度	1	1	1	0	4.0%	50.0%	20.0%	0.0%
当日のみ	1	0	2	2	4.0%	0.0%	40.0%	18.2%
参加していない	2	1	0	5	8.0%	50.0%	0.0%	45.5%
計	25	2	5	11	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後（2022 年）

	連員	連協力	地域活動	仕事	連員	連協力	地域活動	仕事
週に数回程度以上	7	1	0	2	29.2%	33.3%	0.0%	18.2%
週に1回程度	3	0	0	0	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
月に数回程度	2	1	1	1	8.3%	33.3%	20.0%	9.1%
数か月に数回程度	1	0	0	1	4.2%	0.0%	0.0%	9.1%
年に数回程度	2	0	1	0	8.3%	0.0%	20.0%	0.0%
当日のみ	0	1	2	0	0.0%	33.3%	40.0%	0.0%
参加していない	9	0	1	7	37.5%	0.0%	20.0%	63.6%
計	24	3	5	11	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 3-5. 最も重要な関わりを持った時期

	連員	連協力	地域活動	仕事	連員	連協力	地域活動	仕事
小学生以前から	5	0	1	0	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%
中学生から	2	0	0	0	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高校生から	4	0	0	0	16.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高校卒業後の学生の頃から	3	0	0	2	12.0%	0.0%	0.0%	18.2%
社会人になってから	11	3	4	9	44.0%	100.0%	80.0%	81.8%
計	25	3	5	11	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 3-6. 最も重要な関わりを持ったきっかけ

	連員	連協力	地域活動	仕事	連員	連協力	地域活動	仕事
連の知人から誘われたから	15	0	0	1	60.0%	0.0%	0.0%	9.1%
町内会で頼まれたから	0	0	1	0	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
友人から誘われたから	3	0	0	0	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%
家族から誘われたから	3	0	2	1	12.0%	0.0%	40.0%	9.1%
学校の行事だから	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
勤務先の仕事だから	2	2	0	9	8.0%	66.7%	0.0%	81.8%
行政に誘われたから	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自身で参加したいと思ったから	10	1	3	0	40.0%	33.3%	60.0%	0.0%
その他	1	1	1	0	4.0%	33.3%	20.0%	0.0%
回答数計	34	4	7	11	136.0%	133.3%	140.0%	100.0%
回答者計	25	3	5	11	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：複数回答。右段は回答者計に対する割合。

(2) 阿波おどりの連員としての関わりの実態

ここでは、現在連員である回答者（28 名）を対象として、その関わりの実態を明らかにする。

①連の所属年数

表 3-7 には、連の所属年数が性別、年齢階級別に示されている。表 3-7 (a) より、性別に見ると、男性は「20 年以上」が 64.3%，女性は「10-20 年未満」が 42.9% で最も多い。本調査では、男性は 100%，女性は 92.9% が 3 年以上の所属年数を有している。3 年未満がごくわずかであるのは、コロナ禍で連員のなり手がなかった可能性がある。表 3-7 (b) より、年齢階級別に見ると、「30 歳代以下」は年齢を反映して「10-20 年未満」が 66.7% で最も多いのに対して、「40-50 歳代」と「60 歳代以上」は「20 年以上」がそれぞれ 40.0% と 85.7% で最も多い。「40-50 歳代」は、他の年齢階級と比べて、所属年数の分布にバラツキがあり、「3-5 年未満」と「10-20 年未満」が 20% 台である。

②連の規模

表 3-8 には、所属する連の連員数が性別、年齢階級別に示されている。連の規模は、「50-100 人未満」が 46.4% で最も多く、ついで、「50 人未満」が 28.6% である。100 人超の連に所属

する割合は 25.0% である。

表 3-8 (a) より、性別に見ると、男性は「50-100 人未満」が 57.1%、女性は「50 人未満」と「50-100 人未満」が共に 35.7% である。表 3-8 (b) より、年齢階級別に見ると、「30 歳代以下」はどの規模の連にも広く所属しているが、「40-50 歳代」は「50-100 人未満」、「60 歳代以上」は「50 人未満」と「50-100 人未満」が共に 42.9% である。

③連に所属した時期（性別、年齢階級別）

表 3-9 には、(表 3-5 で見た) 連に所属した時期が性別、年齢階級別に示されている。表 3-9 (a) より、「連員」として関わりを持った時期を性別に見ると、男女共に最も多いのは、「社会人になってから」でそれぞれ 45.5% と 42.9% であった一方で、半数超が社会人となる前に連に所属しているという実態が示された。

表 3-9 (b) より、年齢階級別に見ると、「30 歳代以下」は、「小学生以前から」と「社会人になってから」が 40.0% で最も多く、40-50 歳代は「社会人になってから」が 50.0% であった。「60 歳代以上」は、「小学生以前から」、「高校生から」、「社会人になってから」の割合が 33.3% で多い。

全体で見ると、連に所属する主な時期は、「社会人になってから」が 44.0% で最も多いが、「小学生以前から」という若い時期から所属するケースが 20% あることが確認される。

④連に所属したきっかけ（性別、年齢階級別）

表 3-10 には、(表 3-6 で見た) 連に所属したきっかけ（複数回答）が性別、年齢階級別に示されている。表 3-10 (a) より、「連員」として関わりを持ったきっかけを性別に見ると、男女共に最も多いのは、「連の知人から誘われた」でそれぞれ 54.5% と 64.3% であり、ついで、「自身で参加したいと思ったから」が 45.5% と 35.7% である。表 3-10 (b) より、年齢階級別に見ても、「連の知人から誘われた」と「自身で参加したいと思ったから」が主なきっかけであるが、「自身で参加したいと思ったから」の割合が「60 歳代以上」では他の年齢階級と比べて低く、年齢と共に低下する傾向が確認でき、若い世代ほど、自らの意志で連に所属したことが明らかになった。

⑤コロナ禍における連の活動の変化

表 3-11 には、コロナ禍における連の活動の変化（複数回答）が性別、年齢階級及び連の規模別に示されている。表 3-11 (a) より男女計で見ると、「変化がなかった」という回答はゼロであり、「練習に参加できる連員の減少」が 89.3%、「おどりを披露する機会の減少」が 71.4% であり、コロナ禍で連の活動に大きな制限が加えられたことが確認される。また、30% 弱 (28.6%) が「連を辞める人の増加」を挙げた。「その他」には、練習の機会の減少等が挙げられた。

男女差はさほど大きくないが、表 3-11 (b) で年齢階級別に見ると、「30 歳代以下」では、「連を辞める人の増加」、「練習に参加できる連員の減少」、「おどりを披露する機会の減少」を他の年齢階級よりも高い割合で挙げており、このことから若年層ほど、コロナ禍の影響を受け

た人が同世代に多かった可能性が示唆される。

また、表 3-11 (c) にはコロナ禍における連の活動の変化と連の規模との関係が示されている。連を辞める人が増えたのは、「50 人未満」と「150 人以上」の連に所属する回答者で割合が高いものの、その理由は明確ではない。また、練習に参加できる連員やおどりを披露する機会の減少はどの規模の連でも生じたことが確認できる。

⑥ コロナ禍前後の参加度（性別、年齢階級別）

表 3-12 には、(表 3-4 で見た) コロナ禍前後における、8 月の阿波おどり本番までの参加の程度が性別、年齢階級別に示されている。阿波おどり本番までの参加の程度は、男女別に見ると、表 3-12 (a1) より、感染症拡大前（2019 年）は、男女共に「週に数回程度以上」がそれぞれ 45.5%、57.1% と最も多く、ついで、「週に 1 回以上」も同様にそれぞれ 18.2% と 21.4% であったのに対して、表 3-12 (a2) より、感染症拡大後（2022 年）は、男性は、「週に数回程度以上」は変化がなく 45.5% であったものの、「月に数回程度」と「参加していない」が共に大幅に増加して 18.2% であった。女性は「参加していない」が 53.8% に大幅に増加した一方で、「週に 1 回程度」が 23.1%、「週に数回程度以上」が 15.4% に低下した。

コロナ禍における連員個人の活動への参加への影響は、男性では相対的に小さく、女性に対しては、「参加していない」が 7.1% から 53.8% に 46.7 ポイント増加したこと等から大きかった可能性が示された。

表 3-12 (b1) と (b2) より、年齢階級別にコロナ禍の影響を見ると、「30 歳代以下」は、コロナ禍以前は「週に数回程度以上」が 100.0% であったが、コロナ禍の 2022 年においては、同割合が 40.0% に低下した一方で、「年に数回程度」が 20.0%、「参加していない」が 40.0% となった。「40-50 歳代」は、コロナ禍以前は「週に数回程度以上」と「週に 1 回程度」がそれぞれ 35.7% と 28.6% であったが、コロナ禍の 2022 年においては、「週に数回程度以上」が 30.8% (4.9 ポイント減)、「週に 1 回程度」が 15.4% (13.2 ポイント減) となった一方で、「参加していない」が 8.8 ポイント増加して 23.1% となった。「60 歳代以上」は、コロナ禍以前は「週に数回程度以上」が 50.0% であったが、コロナ禍の 2022 年においては、「週に数回程度以上」が 16.7% (33.3 ポイント減) となった一方で、「参加していない」が 0.0% から 66.7% となった。

コロナ禍における連員個人の活動への参加への影響は年齢階級で異なり、「40-50 歳代」では相対的に小さかった一方で、若年層の「30 歳代以下」と高年齢層の「60 歳代以上」では大きかった可能性が示された。

表 3-7. 連への所属年数

(a) 性別

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
1年未満	0	0	0	0	0.0%	0.0%	－	0.0%
1-3年未満	0	1	0	1	0.0%	7.1%	－	3.6%
3-5年未満	1	2	0	3	7.1%	14.3%	－	10.7%
5-10年未満	1	2	0	3	7.1%	14.3%	－	10.7%
10-20年未満	3	6	0	9	21.4%	42.9%	－	32.1%
20年以上	9	3	0	12	64.3%	21.4%	－	42.9%
計	14	14	0	28	100.0%	100.0%	－	100.0%

(b) 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
1年未満	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
1-3年未満	1	0	0	1	16.7%	0.0%	0.0%	3.6%
3-5年未満	0	3	0	3	0.0%	20.0%	0.0%	10.7%
5-10年未満	1	1	1	3	16.7%	6.7%	14.3%	10.7%
10-20年未満	4	5	0	9	66.7%	33.3%	0.0%	32.1%
20年以上	0	6	6	12	0.0%	40.0%	85.7%	42.9%
計	6	15	7	28	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 3-8. 所属連の連員数

(a) 性別

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
50人未満	3	5	0	8	21.4%	35.7%	－	28.6%
50-100人未満	8	5	0	13	57.1%	35.7%	－	46.4%
100-150人未満	1	2	0	3	7.1%	14.3%	－	10.7%
150人以上	2	2	0	4	14.3%	14.3%	－	14.3%
計	14	14	0	28	100.0%	100.0%	－	100.0%

(b) 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
50人未満	1	4	3	8	16.7%	26.7%	42.9%	28.6%
50-100人未満	2	8	3	13	33.3%	53.3%	42.9%	46.4%
100-150人未満	1	1	1	3	16.7%	6.7%	14.3%	10.7%
150人以上	2	2	0	4	33.3%	13.3%	0.0%	14.3%
計	6	15	7	28	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 3-9. 連に所属した時期

(a) 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
小学生以前から	1	4	5	9.1%	28.6%	20.0%
中学生から	2	0	2	18.2%	0.0%	8.0%
高校生から	2	2	4	18.2%	14.3%	16.0%
高校卒業後の学生の頃から	1	2	3	9.1%	14.3%	12.0%
社会人になってから	5	6	11	45.5%	42.9%	44.0%
計	11	14	25	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計
小学生以前から	2	1	2	5	40.0%	7.1%	33.3%	20.0%
中学生から	0	2	0	2	0.0%	14.3%	0.0%	8.0%
高校生から	0	2	2	4	0.0%	14.3%	33.3%	16.0%
高校卒業後の学生の頃から	1	2	0	3	20.0%	14.3%	0.0%	12.0%
社会人になってから	2	7	2	11	40.0%	50.0%	33.3%	44.0%
計	5	14	6	25	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 3-10. 連に所属したきっかけ

(a) 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
連の知人から誘われたから	6	9	15	54.5%	64.3%	60.0%
町内会で頼まれたから	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
友人から誘われたから	1	2	3	9.1%	14.3%	12.0%
家族から誘われたから	1	2	3	9.1%	14.3%	12.0%
学校の行事だから	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
勤務先の仕事だから	1	1	2	9.1%	7.1%	8.0%
行政に誘われたから	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
自身で参加したいと思ったから	5	5	10	45.5%	35.7%	40.0%
その他	0	1	1	0.0%	7.1%	4.0%
回答数計	14	20	34	127.3%	142.9%	136.0%
回答者計	11	14	25	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計
連の知人から誘われたから	3	7	5	15	60.0%	50.0%	83.3%	60.0%
町内会で頼まれたから	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
友人から誘われたから	0	2	1	3	0.0%	14.3%	16.7%	12.0%
家族から誘われたから	1	2	0	3	20.0%	14.3%	0.0%	12.0%
学校の行事だから	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
勤務先の仕事だから	0	0	2	2	0.0%	0.0%	33.3%	8.0%
行政に誘われたから	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自身で参加したいと思ったから	3	6	1	10	60.0%	42.9%	16.7%	40.0%
その他	0	0	1	1	0.0%	0.0%	16.7%	4.0%
回答数計	7	17	10	34	140.0%	121.4%	166.7%	136.0%
回答者計	5	14	6	25	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：複数回答。右段は回答者計に対する割合。

表 3-11. コロナ禍における連の活動の変化

(a) 性別

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
特に変化はなかった	0	0	0	0	0.0%	0.0%	—	0.0%
連を辞める人の増加	4	4	0	8	28.6%	28.6%	—	28.6%
練習場所が確保できなかった	1	1	0	2	7.1%	7.1%	—	7.1%
練習に参加できる連員の減少	12	13	0	25	85.7%	92.9%	—	89.3%
おどりを披露する機会の減少	9	11	0	20	64.3%	78.6%	—	71.4%
その他	2	1	0	3	14.3%	7.1%	—	10.7%
回答数計	28	30	0	58	200.0%	214.3%	—	207.1%
回答者計	14	14	0	28	100.0%	100.0%	—	100.0%

(b) 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計
特に変化はなかった	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
連を辞める人の増加	3	3	2	8	50.0%	20.0%	28.6%	28.6%
練習場所が確保できなかった	1	0	1	2	16.7%	0.0%	14.3%	7.1%
練習に参加できる連員の減少	6	14	5	25	100.0%	93.3%	71.4%	89.3%
おどりを披露する機会の減少	5	12	3	20	83.3%	80.0%	42.9%	71.4%
その他	0	1	2	3	0.0%	6.7%	28.6%	10.7%
回答数計	15	30	13	58	250.0%	200.0%	185.7%	207.1%
回答者計	6	15	7	28	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(c) 連の規模別

	50人未満	50-100人	100-150人	150人以上	計	50人未満	50-100人	100-150人	150人以上	計
特に変化はなかった	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
連を辞める人の増加	3	1	0	2	6	42.9%	9.1%	0.0%	50.0%	24.0%
練習場所が確保できなかった	0	1	1	0	2	0.0%	9.1%	33.3%	0.0%	8.0%
練習に参加できる連員の減少	6	11	2	4	23	85.7%	100.0%	66.7%	100.0%	92.0%
おどりを披露する機会の減少	4	9	2	4	19	57.1%	81.8%	66.7%	100.0%	76.0%
その他	0	1	1	1	3	0.0%	9.1%	33.3%	25.0%	12.0%
回答数計	13	23	6	11	53	185.7%	209.1%	200.0%	275.0%	212.0%
回答者計	7	11	3	4	25	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：複数回答。右段は回答者計に対する割合。

表 3-12. 連員の参加の程度（8月の阿波おどり本番まで）

(a1) 感染症拡大前（2019年） 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
週に数回程度以上	5	8	13	45.5%	57.1%	52.0%
週に1回程度	2	3	5	18.2%	21.4%	20.0%
月に数回程度	1	0	1	9.1%	0.0%	4.0%
数か月に数回程度	1	1	2	9.1%	7.1%	8.0%
年に数回程度	0	1	1	0.0%	7.1%	4.0%
当日のみ	1	0	1	9.1%	0.0%	4.0%
参加していない	1	1	2	9.1%	7.1%	8.0%
計	11	14	25	100.0%	100.0%	100.0%

(a2) 感染症拡大後（2022年） 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
週に数回程度以上	5	2	7	45.5%	15.4%	29.2%
週に1回程度	0	3	3	0.0%	23.1%	12.5%
月に数回程度	2	0	2	18.2%	0.0%	8.3%
数か月に数回程度	1	0	1	9.1%	0.0%	4.2%
年に数回程度	1	1	2	9.1%	7.7%	8.3%
当日のみ	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
参加していない	2	7	9	18.2%	53.8%	37.5%
計	11	13	24	100.0%	100.0%	100.0%

(b1) 感染症拡大前（2019年） 年齢階級別

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
週に数回程度以上	5	5	3	13	100.0%	35.7%	50.0%	52.0%
週に1回程度	0	4	1	5	0.0%	28.6%	16.7%	20.0%
月に数回程度	0	1	0	1	0.0%	7.1%	0.0%	4.0%
数か月に数回程度	0	1	1	2	0.0%	7.1%	16.7%	8.0%
年に数回程度	0	0	1	1	0.0%	0.0%	16.7%	4.0%
当日のみ	0	1	0	1	0.0%	7.1%	0.0%	4.0%
参加していない	0	2	0	2	0.0%	14.3%	0.0%	8.0%
計	5	14	6	25	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b2) 感染症拡大後（2022年） 年齢階級別

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
週に数回程度以上	2	4	1	7	40.0%	30.8%	16.7%	29.2%
週に1回程度	0	2	1	3	0.0%	15.4%	16.7%	12.5%
月に数回程度	0	2	0	2	0.0%	15.4%	0.0%	8.3%
数か月に数回程度	0	1	0	1	0.0%	7.7%	0.0%	4.2%
年に数回程度	1	1	0	2	20.0%	7.7%	0.0%	8.3%
当日のみ	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
参加していない	2	3	4	9	40.0%	23.1%	66.7%	37.5%
計	5	13	6	24	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

3-3. 過去の阿波おどりとの関わり

ここでは、「過去」における徳島市民の阿波おどりとの関わりの実態と連員としての関わりの実態を明らかにする。

(1) 過去の阿波おどりとの関わりの実態

①過去の阿波おどりとの関わり

表 3-13 には、表 3-1 で「過去にあったが現在はない」と回答した 23.0%（224 名）のうち、具体的な関わりに回答した 223 名の結果（複数回答）が示されている。

表 3-13 (a) より、全体で見ると、過去の具体的な関わりのうち、最も多いのは「職場の

仕事」（「職場の仕事の一環としての関わり」）が43.5%であり、ついで、39.0%が「連員」、32.7%が「おどりに参加」（連員ではないがおどりに参加）、10.8%が「連や連員への協力」、10.3%が「地域・町内の活動」（「地域や町内会の活動を通じた関わり」）である。性別に見ると、男性は「職場の仕事」が50.0%で最も多く、「おどりに参加」が33.0%、「連員」が25.0%、「地域・町内の活動」が13.6%である。女性は「連員」が48.1%で最も多く、「職場の仕事」が39.3%、「おどりに参加」が32.6%、「連や連員への協力」が12.6%、「地域・町内の活動」が8.1%である。男性のほうが「職場の仕事」として関わりを持つ割合が10.7ポイント高く、女性のほうが「連員」の回答割合が23.1ポイント高い。

回答者計を見ると、男性が153.4%、女性が152.6%であり、これは平均して男女共に1.5個の関わりを持っていることを意味している。このことから、阿波おどりを介して、市民が複数の関わりを持っていたというよりは、いずれか一つ（たとえば、連員であれば連員のみ）程度で阿波おどりとの関わりを持っていたことが明らかになった。

表3-13（b）より、年齢階級別に見ると、「30歳代以下」は「連員」が61.2%で最も多く、ついで「職場の仕事」が28.6%、「おどりに参加」が20.4%である。「40-50歳代」は「連員」と「職場の仕事」が同水準でそれぞれ45.5%と42.6%で多く、「おどりに参加」が31.7%である。「60歳代以上」は「職場の仕事」が54.2%で最も多く、ついで「おどりに参加」が43.1%であり、他の年齢階級とは異なり、「連員」は15.3%にすぎない。

②過去の最も重要な関わり

表3-14には、過去の阿波おどりとの関わりの中で、回答者にとって最も重要な関わりが示されている。表3-14（a）より、過去に関わりがあった223名が持つ最も重要な関わりを見ると、31.8%が「連員」、29.1%が「職場の仕事」、15.7%が「おどりに参加」、5.8%が「地域・町内の活動」、5.8%が「連や連員への協力」である。性別に見ると、男性は「職場の仕事」が35.2%、「連員」が18.2%、「おどりに参加」が15.9%、「地域・町内の活動」が8.0%、「連や連員への協力」が4.5%であり、女性は「連員」が40.7%、「職場の仕事」が25.2%、「おどりに参加」が15.6%、「連や連員への協力」が6.7%、「地域・町内の活動」が4.4%である。

表3-14（b）より、年齢階級別に見ると、過去の阿波おどりとの関わりは年齢階級によって違いがあり、「30歳代以下」は「連員」が55.1%で最も多く、ついで「職場の仕事」が18.4%である。「40-50歳代」は「連員」が34.7%で最も多いが、「職場の仕事」の29.7%と同程度である。他方、「60歳代以上」は「職場の仕事」が34.7%で最も多く、ついで「おどりに参加」が26.4%であり、他の年齢階級とは異なり、「連員」は12.5%にすぎない。

③最も重要な関わり（過去）を持った時期

表3-15には、最も重要な関わりを持った時期が示されている。まず、「連員」となった時期を見ると、最も多いのは、「社会人になってから」の42.9%であり、ついで、「小学生以前から」が25.7%である。学生時代に連員となった割合は57.1%であり、半数超が社会人となる前に連に所属していたという実態が明らかになった。つぎに、「おどり」に参加した時期

を見ると、(年少期からの参加が期待されたが)「社会人になってから」が42.4%であり、「高校卒業後の学生の頃から」が30.3%であり、おどりへの参加については70%超が高校卒業後に機会を得ている。さらに、「仕事」としての関わりを持った時期を見ると、「社会人となってから」が95.3%であり、(アルバイト等を通じたきっかけから)「高校卒業後の学生の頃から」が4.7%であった。「連や連員」に協力した時期を見ると、「社会人となってから」が84.6%であり、ついで「高校卒業後の学生の頃から」が15.4%であった。「地域・町内の活動」に参加した時期を見ると、「社会人となってから」が45.5%であり、ついで、年少期に町内会の活動に参加する機会が多かったと推察される「小学生以前から」が36.4%であった。

④最も重要な関わり（過去）を持ったきっかけ

表3-16には、最も重要な関わりを持ったきっかけ（複数回答）が示されている。

まず、「連員」としての関わりを持ったきっかけを見ると、最も多いのは「自身で参加したいと思ったから」の40.0%であり、ついで「連の知人から誘われた」の32.9%、「友人から誘われたから」が21.4%である。つぎに、「おどり」に参加したきっかけを見ると、最も多いのは、「友人から誘われたから」の39.4%であり、ついで、「自身で参加したいと思ったから」が18.2%である。さらに、「仕事」としての関わりを持ったきっかけを見ると、「勤務先の仕事だから」が90.5%であり、「自身で参加したいと思ったから」が15.9%であった。「連や連員」に協力したきっかけを見ると、「家族から誘われた」が38.5%であり、「連の知人から誘われたから」が30.8%であった。「地域・町内の活動」に参加したきっかけを見ると、「町内会で頼まれたから」と「友人から誘われたから」が共に27.3%であった。

これらの関わりの回答者計を見ると、ほとんどが120%前後であり、複数のきっかけで関わりを持ったというよりは、一つのきっかけによるものであることが確認される。

⑤最も重要な関わり（過去）を持たなくなった時期

表3-17には、最も重要な関わりを持たなくなった理由（複数回答）が示されている。

まず、「連員」を見ると、関わりを持たなくなった（連員でなくなった）理由は広くあるが、最も多いのは「生活・経済上の理由」の29.6%であり、ついで「興味がなくなった」の25.4%、「健康・年齢上の理由」と「仕事上の理由」が共に22.5%である。「コロナ禍の影響」は12.7%であり、コロナウイルスの感染拡大が連への所属について一定の影響を与えたことが確認される。つぎに、「おどり」を見ると、最も多いのは、「健康・年齢上の理由」の41.2%であり、ついで、「仕事上の理由」が23.5%である。「コロナ禍の影響」は11.8%であり、一定割合が感染防止のためにおどりへの参加を控えたことも確認される。さらに、「職場仕事」を見ると、「仕事上の理由」が74.2%であり、「コロナ禍の影響」が11.3%であった。「連や連員」への協力を行わなくなった理由は多岐に渡っているが「コロナ禍の影響」と「その他」が共に30.8%であった。「地域・町内の活動」を行わなくなった理由は「健康・年齢上の理由」が40.0%であり、ついで「生活・経済上の理由」が11.3%であった。

(2) 過去の連員やおどり等との関わりの実態

ここでは、過去に「連員」、「おどり」、「連や連員への協力」、「地域活動」としての関わりを持った回答者を対象として、その関わりの実態を性別、年齢階級別に明らかにする。

①連員やおどりとの関わり（過去）を持った時期

表 3-18 には、過去に連員とおどりへの参加、連や連員への協力及び地域・町内活動として関わりを持った時期が性別、年齢階級別に示されている。

1) 連員

連員となった時期について、性別に見ると、表 3-18 (a1) より、男性は 50.0% が「社会人になってから」であり、ついで 25.0% が「小学生以前から」である。女性は 39.6% が「社会人になってから」であり、ついで 26.4% が「小学生以前から」である。男性のほうが、社会人になってから連に所属する割合が女性よりも 10.4 ポイント高い。表 3-18 (a2) より、年齢階級別に見ると、「30 歳代以下」は、34.6% が「小学生以前から」で最も多く、ついで、「高校卒業後の学生の頃から」と「社会人になってから」が共に 23.1% である。「40-50 歳代」は、55.9% が「社会人になってから」で最も多く、ついで、「小学生以前から」が 20.6% である。「60 歳代以上」は、44.4% が「社会人になってから」で最も多く、ついで、「小学生以前から」が 22.2% である。

2) おどり

過去におどりに参加した時期について、性別に見ると、表 3-18 (b1) より、男性は 46.2% が「社会人になってから」であり、ついで 30.8% が「高校卒業後の学生の頃から」である。女性は 40.0% が「社会人になってから」であり、ついで 30.0% が「高校卒業後の学生の頃から」である。また、年少期からの参加が期待されたが、高校生まで（小学生以前から、中学生から、高校生からの合計）に、実際におどりを経験したのは、男性は 23.1%、女性は 30.0% に止まっている。表 3-18 (b2) より、年齢階級別に見ると、「30 歳代以下」は、66.7% が「小学生以前から」で最も多く、ついで、「高校卒業後の学生の頃から」が 33.3% である。「40-50 歳代」は 40.0% が「社会人になってから」で最も多く、ついで、「小学生以前から」が 23.1% である。「60 歳代以上」は 47.1% が「社会人になってから」で最も多く、ついで、「高校卒業後の学生の頃から」が 41.2% であるが、「小学生以前から」は回答がなかった (0.0%)。このように、年齢階級別に見ると、「おどり」に接する時期が異なっており、特に、「30 歳代以下」では小学校教育の一環として、おどりへの参加が行われたことが考えられる。

3) 連や連員への協力

協力を始めた時期について、表 3-18 (c1) より、性別に見ると、男性は 100.0% が「社会人になってから」である。女性は 77.8% が「社会人になってから」であり、ついで 22.2% が「高校卒業後の学生の頃から」である。年齢階級別に見ると、表 3-18 (c2) より、どの年齢階級でも「社会人になってから」の割合が最も高い。このような背景には、仕事を介した協力や親となって子供が連に所属するようになったことで協力するようになったこと等が考えられる。

4) 地域・町内活動を通じた関わり

地域・町内活動を通じた関わりを持った時期について、表 3-18 (d1) より、性別に見ると、男女共に「社会人になってから」と「小学生以前から」の回答割合が高い。年齢階級別に見ると、表 3-18 (d2) より、「40-50 歳代」は「小学生以前から」の回答者がいないが、その他の年齢層では「社会人になってから」と「小学生以前から」の回答割合が高い。

②連員やおどりとの関わり（過去）を持ったきっかけ

表 3-19 には、過去に連員とおどりへの参加者、連や連員への協力及び地域・町内活動として関わりを持ったきっかけ（複数回答）が性別、年齢階級別に示されている。

1) 連員

過去に連員となった理由を、性別に見ると、表 3-19 (a1) より、男性は「連の知人から誘われたから」が 37.5% であり、ついで「自分で参加したいと思ったから」が 31.3%、「友人から誘われたから」が 25.0% である。女性は「自分で参加したいと思ったから」が 43.4% であり、ついで「連の知人から誘われたから」が 30.2%、「友人から誘われたから」が 20.8% である。女性のほうが、主体的に自らの意志で参加する割合が高く、「自分で参加したいと思ったから」は男性よりも 12.1 ポイント高い。また、「家族から誘われたから」は男性が 18.8%、女性は 13.2% で、家族を通じた連への参加というルートが一定程度あることが確認される。表 3-19 (a2) より、年齢階級別に見ると、「30 歳代以下」は 34.6% が「自身で参加したいと思ったから」で最も多く、ついで、「友人から誘われたから」が 30.8% である。「40-50 歳代」は 41.2% が「連の知人から誘われたから」で最も多く、ついで、「自身で参加したいと思ったから」が 38.2% である。「60 歳代以上」は 66.7% が「自身で参加したいと思ったから」で最も多く、ついで、「連の知人から誘われたから」と「友人から誘われたから」が共に 22.2% である。

2) おどり

過去におどりに参加したきっかけについて、表 3-19 (b1) より、性別に見ると、男性は 30.8% が「友人から誘われたから」であり、ついで「学校の行事だから」と「勤務先の仕事だから」が共に 15.4% である。女性は 45.0% が「友人から誘われたから」であり、ついで 25.0% が「自身で参加したいと思ったから」である。おどりへの参加についても、女性のほうが、主体的に自らの意志で参加する割合が高く、「自身で参加したいと思ったから」は男性よりも 17.3 ポイント高い。また、男女共におどりへの参加の 10% 超程度は、それぞれ学校の行事と勤務先の仕事から生じている。表 3-19 (b2) より、年齢階級別に見ると、「30 歳代以下」は 66.7% が「友人から誘われたから」で最も多く、ついで、「連の知人から誘われたから」と「自身で参加したいと思ったから」が共に 33.3% である。「40-50 歳代」は 53.8% が「友人から誘われたから」で最も多く、ついで、「連の知人から誘われたから」が 23.1% である。「60 歳代以上」は 29.4% が「自身で参加したいと思ったから」で最も多く、ついで、「友人から誘われたから」が 23.5% である。

3) 連や連員への協力

協力を始めたきっかけについて、表 3-19 (c1) より、「家族から誘われたから」、「連の知人から誘われたから」、「勤務先の仕事だから」、「自身で参加したいと思ったから」の回答割合が高いが、性別に見ると、男性は「連の知人から誘われたから」、女性は「家族から誘われたから」の回答割合が高い。年齢階級別に見ると、表 3-19 (c2) より、「40-50 歳代」と「60 歳代以上」は「家族から誘われたから」の回答割合が高い。

4) 地域・町内活動を通じた関わり

地域・町内活動を通じた関わりを持ったきっかけについて、表 3-19 (d1) より、「町内会で頼まれたから」と「友人から頼まれたから」の回答割合が高いが、性別に見ると、女性のほうが「自身で参加したいと思ったから」の回答割合が高い。年齢階級別に見ると、表 3-19 (d2) より、「60 歳代以上」では「町内会で頼まれたから」と「友人から頼まれたから」の回答割合は高く、各年齢層でそれぞれの理由があることが確認される。

③連員やおどりとの関わり（過去）を持たなくなった理由

表 3-20 には、過去に連員やおどりへの参加者、連や連員への協力及び地域・町内活動として関わりを持たなくなった理由（複数回答）が性別、年齢階級別に示されている。

1) 連員

連員を辞めた理由を性別に見ると、表 3-20 (a1) より、男性は「健康・年齢上の理由」、「仕事上の理由」、「コロナ禍の影響」及び「興味がなくなった」がいずれも 31.3% であり、理由は多岐にわたる。女性は「生活・経済上の理由」が 35.2% であり、ついで「興味がなくなった」が 22.2% である。女性のほうが、「生活・経済上の理由」を挙げる割合が 22.7 ポイント高いのは、結婚や出産・子育てを機に連を辞めるケースがあった可能性がある。また、「コロナ禍の影響」は男性のほうが 23.9 ポイント高いことが確認される。

年齢階級別に見ると、表 3-20 (a2) より、「30 歳代以下」は 33.3% が「生活・経済上の理由」で最も多く、ついで、「興味がなくなった」が 25.9% である。「40-50 歳代」は 32.4% が「生活・経済上の理由」で最も多く、ついで、「仕事上の理由」が 26.5% である。「60 歳代以上」は 55.6% が「健康・年齢上の理由」で最も多く、ついで、「コロナ禍の影響」が 33.3% であり、高年齢層ほどコロナ禍の影響を受けたことが確認できる。

2) おどり

過去に参加したおどりを辞めた理由について、表 3-20 (b1) より、性別に見ると、男性は 35.7% が「仕事上の理由」であり、ついで「健康・年齢上の理由」が 28.6% である。女性は 50.0% が「健康・年齢上の理由」であり、ついで「生活・経済上の理由」、「仕事上の理由」及び「コロナ禍の影響」がいずれも 15.0% である。「仕事上の理由」が男性のほうが 20.7 ポイント高くなるのは、就職や転勤、転職を機におどりに参加する機会がなくなったことが考えられる。年齢階級別に見ると、表 3-20 (b2) より、「30 歳代以下」は (理由は不明であるが) 66.7% が「健康・年齢上の理由」で最も多く、ついで、「生活・経済上の理由」と「仕事上

の理由」が共に 33.3% である。「40-50 歳代」は「健康・年齢上の理由」と「興味がなくなった」が共に 23.1% で最も高く、ついで「仕事上の理由」が 15.4% である。「60 歳代以上」は 50.0% が「健康・年齢上の理由」で最も多く、ついで、「仕事上の理由」が 27.8% である。おどりへの参加に対するコロナ禍の影響を見ると、高年齢層ほど影響を受けたことが確認できる。

3) 連や連員への協力

協力を辞めた理由について、表 3-20 (c1) より、偏りなくどの理由にも回答があるが、性別に見ると、男性は「生活・経済上の理由」、女性は「コロナ禍の影響」と「興味がなくなった」の割合が高い。年齢階級別に見ると、表 3-20 (c2) より、「40-50 歳代」では顕著に「コロナ禍の影響」と「興味がなくなった」の割合が高い。

4) 地域・町内活動を通じた関わり

地域・町内活動を通じた関わりを辞めた理由は、表 3-20 (d1) より、「興味がなくなった」を除いて偏りなく回答が確認される。性別に見ると、男性は「健康・年齢上の理由」と「仕事上の理由」、女性は「健康・年齢上の理由」と「生活・経済上の理由」の回答割合が高い。年齢階級別に見ると、表 3-20 (d2) より、「60 歳以上」では、「健康・年齢上の理由」と「仕事上の理由」の回答割合が高い。

表 3-13. 過去の阿波おどりとの関わり

(a) 性別

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
連員	22	65	0	87	25.0%	48.1%	-	39.0%
連や連員への協力	7	17	0	24	8.0%	12.6%	-	10.8%
おどりに参加	29	44	0	73	33.0%	32.6%	-	32.7%
地域・町内の活動	12	11	0	23	13.6%	8.1%	-	10.3%
運営者	3	3	0	6	3.4%	2.2%	-	2.7%
ボランティア	5	6	0	11	5.7%	4.4%	-	4.9%
職場の仕事	44	53	0	97	50.0%	39.3%	-	43.5%
その他	13	7	0	20	14.8%	5.2%	-	9.0%
回答数計	135	206	0	341	153.4%	152.6%	-	152.9%
回答者計	88	135	0	223	100.0%	100.0%	-	100.0%

(b) 年齢階級別

	30歳以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳代以上	計
連員	30	46	11	87	61.2%	45.5%	15.3%	39.2%
連や連員への協力	4	8	11	23	8.2%	7.9%	15.3%	10.4%
おどりに参加	10	32	31	73	20.4%	31.7%	43.1%	32.9%
地域・町内の活動	5	6	12	23	10.2%	5.9%	16.7%	10.4%
運営者	3	2	1	6	6.1%	2.0%	1.4%	2.7%
ボランティア	3	5	3	11	6.1%	5.0%	4.2%	5.0%
職場の仕事	14	43	39	96	28.6%	42.6%	54.2%	43.2%
その他	2	13	5	20	4.1%	12.9%	6.9%	9.0%
回答数計	71	155	113	339	144.9%	153.5%	156.9%	152.7%
回答者計	49	101	72	222	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：複数回答。右段は回答者計に対する割合。

表 3-14. 過去の最も重要な阿波おどりととの関わり

(a) 性別

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
連員	16	55	0	71	18.2%	40.7%	—	31.8%
連や連員への協力	4	9	0	13	4.5%	6.7%	—	5.8%
おどりに参加	14	21	0	35	15.9%	15.6%	—	15.7%
地域・町内の活動	7	6	0	13	8.0%	4.4%	—	5.8%
運営者	2	1	0	3	2.3%	0.7%	—	1.3%
ボランティア	1	4	0	5	1.1%	3.0%	—	2.2%
職場の仕事	31	34	0	65	35.2%	25.2%	—	29.1%
その他	13	5	0	18	14.8%	3.7%	—	8.1%
計	88	135	0	223	100.0%	100.0%	—	100.0%

(b) 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
連員	27	35	9	71	55.1%	34.7%	12.5%	32.0%
連や連員への協力	2	5	6	13	4.1%	5.0%	8.3%	5.9%
おどりに参加	3	13	19	35	6.1%	12.9%	26.4%	15.8%
地域・町内の活動	4	2	7	13	8.2%	2.0%	9.7%	5.9%
運営者	1	1	1	3	2.0%	1.0%	1.4%	1.4%
ボランティア	1	3	1	5	2.0%	3.0%	1.4%	2.3%
職場の仕事	9	30	25	64	18.4%	29.7%	34.7%	28.8%
その他	2	12	4	18	4.1%	11.9%	5.6%	8.1%
計	49	101	72	222	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 3-15. 過去に阿波おどりととの関わりを持った時期

	連員	連協力	おどり	地域活動	職場仕事	連員	連協力	おどり	地域活動	職場仕事
小学生以前から	18	0	5	4	0	25.7%	0.0%	15.2%	36.4%	0.0%
中学生から	9	0	1	0	0	12.9%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%
高校生から	4	0	3	1	0	5.7%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%
高校卒業後の学生の頃から	9	2	10	1	3	12.9%	15.4%	30.3%	9.1%	4.7%
社会人になってから	30	11	14	5	61	42.9%	84.6%	42.4%	45.5%	95.3%
計	70	13	33	11	64	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 3-16. 過去に阿波おどりととの関わりを持ったきっかけ

	連員	連協力	おどり	地域活動	職場仕事	連員	連協力	おどり	地域活動	職場仕事
連の知人から誘われたから	23	4	4	0	2	32.9%	30.8%	12.1%	0.0%	3.2%
町内会で頼まれたから	0	1	0	3	1	0.0%	7.7%	0.0%	27.3%	1.6%
友人から誘われたから	15	1	13	3	3	21.4%	7.7%	39.4%	27.3%	4.8%
家族から誘われたから	10	5	3	1	0	14.3%	38.5%	9.1%	9.1%	0.0%
学校の行事だから	4	1	4	2	3	5.7%	7.7%	12.1%	18.2%	4.8%
勤務先の仕事だから	4	3	5	1	57	5.7%	23.1%	15.2%	9.1%	90.5%
行政に誘われたから	0	0	0	0	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
自身で参加したいと思ったから	28	3	6	2	10	40.0%	23.1%	18.2%	18.2%	15.9%
その他	5	1	5	1	1	7.1%	7.7%	15.2%	9.1%	1.6%
回答数計	89	19	40	13	78	127.1%	146.2%	121.2%	118.2%	123.8%
回答者計	70	13	33	11	63	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：複数回答。右段は回答者計に対する割合。

表 3-17. 阿波おどりととの関わりを持たなくなった理由

	連員	連協力	おどり	地域活動	職場仕事	連員	連協力	おどり	地域活動	職場仕事
健康・年齢上の理由	16	2	14	4	6	22.5%	15.4%	41.2%	40.0%	9.7%
生活・経済上の理由	21	3	4	3	2	29.6%	23.1%	11.8%	30.0%	3.2%
仕事上の理由	16	1	8	2	46	22.5%	7.7%	23.5%	20.0%	74.2%
コロナ禍の影響	9	4	4	2	7	12.7%	30.8%	11.8%	20.0%	11.3%
興味がなくなった	18	3	5	0	6	25.4%	23.1%	14.7%	0.0%	9.7%
その他	10	4	5	0	3	14.1%	30.8%	14.7%	0.0%	4.8%
回答数計	90	17	40	11	70	126.8%	130.8%	117.6%	110.0%	112.9%
回答者計	71	13	34	10	62	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：複数回答。右段は回答者計に対する割合。

表 3-18. 過去に連員やおどりとのかわりを持った時期

(a1) 連員 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
小学生以前から	4	14	18	25.0%	26.4%	26.1%
中学生から	0	9	9	0.0%	17.0%	13.0%
高校生から	1	3	4	6.3%	5.7%	5.8%
高校卒業後の学生の頃から	3	6	9	18.8%	11.3%	13.0%
社会人になってから	8	21	29	50.0%	39.6%	42.0%
計	16	53	69	100.0%	100.0%	100.0%

(a2) 連員 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計
小学生以前から	9	7	2	18	34.6%	20.6%	22.2%	26.1%
中学生から	5	3	1	9	19.2%	8.8%	11.1%	13.0%
高校生から	0	3	1	4	0.0%	8.8%	11.1%	5.8%
高校卒業後の学生の頃から	6	2	1	9	23.1%	5.9%	11.1%	13.0%
社会人になってから	6	19	4	29	23.1%	55.9%	44.4%	42.0%
計	26	34	9	69	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b1) おどりに参加 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
小学生以前から	2	3	5	15.4%	15.0%	15.2%
中学生から	0	1	1	0.0%	5.0%	3.0%
高校生から	1	2	3	7.7%	10.0%	9.1%
高校卒業後の学生の頃から	4	6	10	30.8%	30.0%	30.3%
社会人になってから	6	8	14	46.2%	40.0%	42.4%
計	13	20	33	100.0%	100.0%	100.0%

(b2) おどりに参加 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計
小学生以前から	2	3	0	5	66.7%	23.1%	0.0%	15.2%
中学生から	0	0	1	1	0.0%	0.0%	5.9%	3.0%
高校生から	0	2	1	3	0.0%	15.4%	5.9%	9.1%
高校卒業後の学生の頃から	1	2	7	10	33.3%	15.4%	41.2%	30.3%
社会人になってから	0	6	8	14	0.0%	46.2%	47.1%	42.4%
計	3	13	17	33	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(c1) 連や連員に協力 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
小学生以前から	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
中学生から	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
高校生から	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
高校卒業後の学生の頃から	0	2	2	0.0%	22.2%	15.4%
社会人になってから	4	7	11	100.0%	77.8%	84.6%
計	4	9	13	100.0%	100.0%	100.0%

(c2) 連や連員に協力 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計
小学生以前から	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
中学生から	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高校生から	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高校卒業後の学生の頃から	0	0	2	2	0.0%	0.0%	33.3%	15.4%
社会人になってから	2	5	4	11	100.0%	100.0%	66.7%	84.6%
計	2	5	6	13	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(d1) 地域・町内活動を通じた関わり 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
小学生以前から	2	2	4	28.6%	50.0%	36.4%
中学生から	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
高校生から	1	0	1	14.3%	0.0%	9.1%
高校卒業後の学生の頃から	1	0	1	14.3%	0.0%	9.1%
社会人になってから	3	2	5	42.9%	50.0%	45.5%
計	7	4	11	100.0%	100.0%	100.0%

(d2) 地域・町内活動を通じた関わり 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計
小学生以前から	2	0	2	4	66.7%	0.0%	33.3%	36.4%
中学生から	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高校生から	0	0	1	1	0.0%	0.0%	16.7%	9.1%
高校卒業後の学生の頃から	0	1	0	1	0.0%	50.0%	0.0%	9.1%
社会人になってから	1	1	3	5	33.3%	50.0%	50.0%	45.5%
計	3	2	6	11	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 3-19. 過去に連員やおどりとの関わりを持ったきっかけ

(a1) 連員 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
連の知人から誘われたから	6	16	22	37.5%	30.2%	31.9%
町内会で頼まれたから	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
友人から誘われたから	4	11	15	25.0%	20.8%	21.7%
家族から誘われたから	3	7	10	18.8%	13.2%	14.5%
学校の行事だから	0	4	4	0.0%	7.5%	5.8%
勤務先の仕事だから	1	3	4	6.3%	5.7%	5.8%
行政に誘われたから	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
自身で参加したいと思ったから	5	23	28	31.3%	43.4%	40.6%
その他	0	5	5	0.0%	9.4%	7.2%
回答数計	19	69	88	118.8%	130.2%	127.5%
回答者計	16	53	69	100.0%	100.0%	100.0%

(a2) 連員 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計
連の知人から誘われたから	6	14	2	22	23.1%	41.2%	22.2%	31.9%
町内会で頼まれたから	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
友人から誘われたから	8	5	2	15	30.8%	14.7%	22.2%	21.7%
家族から誘われたから	5	4	1	10	19.2%	11.8%	11.1%	14.5%
学校の行事だから	3	1	0	4	11.5%	2.9%	0.0%	5.8%
勤務先の仕事だから	2	1	1	4	7.7%	2.9%	11.1%	5.8%
行政に誘われたから	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自身で参加したいと思ったから	9	13	6	28	34.6%	38.2%	66.7%	40.6%
その他	2	3	0	5	7.7%	8.8%	0.0%	7.2%
回答数計	35	41	12	88	134.6%	120.6%	133.3%	127.5%
回答者計	26	34	9	69	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b1) おどりに参加 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
連の知人から誘われたから	1	3	4	7.7%	15.0%	12.1%
町内会で頼まれたから	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
友人から誘われたから	4	9	13	30.8%	45.0%	39.4%
家族から誘われたから	1	2	3	7.7%	10.0%	9.1%
学校の行事だから	2	2	4	15.4%	10.0%	12.1%
勤務先の仕事だから	2	3	5	15.4%	15.0%	15.2%
行政に誘われたから	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
自身で参加したいと思ったから	1	5	6	7.7%	25.0%	18.2%
その他	2	3	5	15.4%	15.0%	15.2%
回答数計	13	27	40	100.0%	135.0%	121.2%
回答者計	13	20	33	100.0%	100.0%	100.0%

(b2) おどりに参加 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計
連の知人から誘われたから	1	3	0	4	33.3%	23.1%	0.0%	12.1%
町内会で頼まれたから	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
友人から誘われたから	2	7	4	13	66.7%	53.8%	23.5%	39.4%
家族から誘われたから	1	0	2	3	33.3%	0.0%	11.8%	9.1%
学校の行事だから	0	2	2	4	0.0%	15.4%	11.8%	12.1%
勤務先の仕事だから	0	2	3	5	0.0%	15.4%	17.6%	15.2%
行政に誘われたから	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自身で参加したいと思ったから	0	1	5	6	0.0%	7.7%	29.4%	18.2%
その他	0	0	5	5	0.0%	0.0%	29.4%	15.2%
回答数計	4	15	21	40	133.3%	115.4%	123.5%	121.2%
回答者計	3	13	17	33	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(c1) 連や連員に協力 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
連の知人から誘われたから	3	1	4	75.0%	11.1%	30.8%
町内会で頼まれたから	0	1	1	0.0%	11.1%	7.7%
友人から誘われたから	0	1	1	0.0%	11.1%	7.7%
家族から誘われたから	1	4	5	25.0%	44.4%	38.5%
学校の行事だから	0	1	1	0.0%	11.1%	7.7%
勤務先の仕事だから	2	1	3	50.0%	11.1%	23.1%
行政に誘われたから	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
自身で参加したいと思ったから	2	1	3	50.0%	11.1%	23.1%
その他	0	1	1	0.0%	11.1%	7.7%
回答数計	8	11	19	200.0%	122.2%	146.2%
回答者計	4	9	13	100.0%	100.0%	100.0%

(c2) 連や連員に協力 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計
連の知人から誘われたから	1	2	1	4	50.0%	40.0%	16.7%	30.8%
町内会で頼まれたから	0	1	0	1	0.0%	20.0%	0.0%	7.7%
友人から誘われたから	0	1	0	1	0.0%	20.0%	0.0%	7.7%
家族から誘われたから	0	2	3	5	0.0%	40.0%	50.0%	38.5%
学校の行事だから	0	0	1	1	0.0%	0.0%	16.7%	7.7%
勤務先の仕事だから	2	0	1	3	100.0%	0.0%	16.7%	23.1%
行政に誘われたから	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自身で参加したいと思ったから	1	2	0	3	50.0%	40.0%	0.0%	23.1%
その他	0	0	1	1	0.0%	0.0%	16.7%	7.7%
回答数計	4	8	7	19	200.0%	160.0%	116.7%	146.2%
回答者計	2	5	6	13	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(d1) 地域・町内活動を通じた関わり 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
連の知人から誘われたから	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
町内会で頼まれたから	2	1	3	28.6%	25.0%	27.3%
友人から誘われたから	3	0	3	42.9%	0.0%	27.3%
家族から誘われたから	1	0	1	14.3%	0.0%	9.1%
学校の行事だから	1	1	2	14.3%	25.0%	18.2%
勤務先の仕事だから	0	1	1	0.0%	25.0%	9.1%
行政に誘われたから	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
自身で参加したいと思ったから	0	2	2	0.0%	50.0%	18.2%
その他	1	0	1	14.3%	0.0%	9.1%
回答数計	8	5	13	114.3%	125.0%	118.2%
回答者計	7	4	11	100.0%	100.0%	100.0%

(d2) 地域・町内活動を通じた関わり 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計
連の知人から誘われたから	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
町内会で頼まれたから	0	0	3	3	0.0%	0.0%	50.0%	27.3%
友人から誘われたから	1	0	2	3	33.3%	0.0%	33.3%	27.3%
家族から誘われたから	0	0	1	1	0.0%	0.0%	16.7%	9.1%
学校の行事だから	2	0	0	2	66.7%	0.0%	0.0%	18.2%
勤務先の仕事だから	0	1	0	1	0.0%	50.0%	0.0%	9.1%
行政に誘われたから	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自身で参加したいと思ったから	1	0	1	2	33.3%	0.0%	16.7%	18.2%
その他	0	1	0	1	0.0%	50.0%	0.0%	9.1%
回答数計	4	2	7	13	133.3%	100.0%	116.7%	118.2%
回答者計	3	2	6	11	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：複数回答。右段は回答者計に対する割合。

表 3-20. 過去に連員やおどりととの関わりを持たなくなった理由

(a1) 連員 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
健康・年齢上の理由	5	11	16	31.3%	20.4%	22.9%
生活・経済上の理由	2	19	21	12.5%	35.2%	30.0%
仕事上の理由	5	11	16	31.3%	20.4%	22.9%
コロナ禍の影響	5	4	9	31.3%	7.4%	12.9%
興味がなくなった	5	12	17	31.3%	22.2%	24.3%
その他	2	8	10	12.5%	14.8%	14.3%
回答数計	24	65	89	150.0%	120.4%	127.1%
回答者計	16	54	70	100.0%	100.0%	100.0%

(a2) 連員 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計
健康・年齢上の理由	5	6	5	16	18.5%	17.6%	55.6%	22.9%
生活・経済上の理由	9	11	1	21	33.3%	32.4%	11.1%	30.0%
仕事上の理由	5	9	2	16	18.5%	26.5%	22.2%	22.9%
コロナ禍の影響	3	3	3	9	11.1%	8.8%	33.3%	12.9%
興味がなくなった	7	8	2	17	25.9%	23.5%	22.2%	24.3%
その他	5	5	0	10	18.5%	14.7%	0.0%	14.3%
回答数計	34	42	13	89	125.9%	123.5%	144.4%	127.1%
回答者計	27	34	9	70	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b1) おどりに参加 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
健康・年齢上の理由	4	10	14	28.6%	50.0%	41.2%
生活・経済上の理由	1	3	4	7.1%	15.0%	11.8%
仕事上の理由	5	3	8	35.7%	15.0%	23.5%
コロナ禍の影響	1	3	4	7.1%	15.0%	11.8%
興味がなくなった	3	2	5	21.4%	10.0%	14.7%
その他	1	4	5	7.1%	20.0%	14.7%
回答数計	15	25	40	107.1%	125.0%	117.6%
回答者計	14	20	34	100.0%	100.0%	100.0%

(b2) おどりに参加 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計
健康・年齢上の理由	2	3	9	14	66.7%	23.1%	50.0%	41.2%
生活・経済上の理由	1	1	2	4	33.3%	7.7%	11.1%	11.8%
仕事上の理由	1	2	5	8	33.3%	15.4%	27.8%	23.5%
コロナ禍の影響	0	1	3	4	0.0%	7.7%	16.7%	11.8%
興味がなくなった	0	3	2	5	0.0%	23.1%	11.1%	14.7%
その他	0	4	1	5	0.0%	30.8%	5.6%	14.7%
回答数計	4	14	22	40	133.3%	107.7%	122.2%	117.6%
回答者計	3	13	18	34	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(c1) 連や連員に協力 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
健康・年齢上の理由	1	1	2	25.0%	11.1%	15.4%
生活・経済上の理由	2	1	3	50.0%	11.1%	23.1%
仕事上の理由	0	1	1	0.0%	11.1%	7.7%
コロナ禍の影響	1	3	4	25.0%	33.3%	30.8%
興味がなくなった	1	2	3	25.0%	22.2%	23.1%
その他	2	2	4	50.0%	22.2%	30.8%
回答数計	7	10	17	175.0%	111.1%	130.8%
回答者計	4	9	13	100.0%	100.0%	100.0%

(c2) 連や連員に協力 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計
健康・年齢上の理由	0	1	1	2	0.0%	20.0%	16.7%	15.4%
生活・経済上の理由	1	1	1	3	50.0%	20.0%	16.7%	23.1%
仕事上の理由	0	0	1	1	0.0%	0.0%	16.7%	7.7%
コロナ禍の影響	0	3	1	4	0.0%	60.0%	16.7%	30.8%
興味がなくなった	1	2	0	3	50.0%	40.0%	0.0%	23.1%
その他	1	1	2	4	50.0%	20.0%	33.3%	30.8%
回答数計	3	8	6	17	150.0%	160.0%	100.0%	130.8%
回答者計	2	5	6	13	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(d1) 地域・町内活動を通じた関わり 性別

	男性	女性	計	男性	女性	計
健康・年齢上の理由	2	2	4	33.3%	50.0%	40.0%
生活・経済上の理由	1	2	3	16.7%	50.0%	30.0%
仕事上の理由	2	0	2	33.3%	0.0%	20.0%
コロナ禍の影響	1	1	2	16.7%	25.0%	20.0%
興味がなくなった	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
回答数計	6	5	11	100.0%	125.0%	110.0%
回答者計	6	4	10	100.0%	100.0%	100.0%

(d2) 地域・町内活動を通じた関わり 年齢階級別

	30歳代以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳代以下	40-50歳代	40-50歳代	計
健康・年齢上の理由	0	1	3	4	0.0%	50.0%	60.0%	40.0%
生活・経済上の理由	2	1	0	3	66.7%	50.0%	0.0%	30.0%
仕事上の理由	0	0	2	2	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%
コロナ禍の影響	1	0	1	2	33.3%	0.0%	20.0%	20.0%
興味がなくなった	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
回答数計	3	2	6	11	100.0%	100.0%	120.0%	110.0%
回答者計	3	2	5	10	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：複数回答。右段は回答者計に対する割合。

3-4. 阿波おどりとの関わりまとめ

徳島市民と阿波おどりとの関わりについて主な結果をまとめると、以下の通りである。

- ・阿波おどりと関わりが「現在」と回答した割合は5.1%（975名のうち、50名）にすぎない（表3-1）。一方で、徳島市民の51.3%が「観覧」を通じた関わり、23.0%が「過去」に関わりを持っている。何ら関わりを持たない市民は20.6%である。
- ・「現在」の阿波おどりとの関わりは、「連員」（「現在」の阿波おどりとの関わり回答者の56.0%）と「仕事」（同30.0%）を通じた関わりが中心である（表3-2）。
- ・阿波おどりは、「地域や町内の活動」や「ボランティア活動」といった自発的な「社会的活動」とは多くの場合、切り離されており、「現在関わりがある」と回答した50名のうち、「地域や町内の活動」として関わりを持つ市民は14.0%（7名）、「ボランティア活動」として関わりを持つ市民は4.0%（2名）にすぎない⁸⁾。同様に「連や連員に協力」している市民も12.0%（6名）である。他方で、「仕事」を通じた関わりがある程度高いことから、企業のビジネス活動や商店等の家業、企業連や阿波おどり開催のスポンサーといった「経済的活動」では関わりが存在し、地元の産業界が徳島市の阿波おどりを支えている側面が確認される（表3-2）。
- ・阿波おどりを介して、市民が複数の関わり（たとえば、町内の活動と仕事を通じた活動の両立）を持つというよりは、多くの場合、いずれか一つしか阿波おどりとの関わりを持つ

8) 「地域や町内の活動」として関わりを持つ市民は7名であるため、回答者全体（975名）で見れば、これは市民全体の0.7%にすぎない。「連や連員に協力」している市民も6名であるため、市民全体の0.6%。同様に、「ボランティア活動」として関わりを持つ市民は2名のため、市民全体の0.2%にすぎないことになる。

ていない（表 3-2）。

- 阿波おどりととの関わりは、コロナ禍で頻度が低下しており、「連員」としての活動にも大きな活動量の低下をもたらした（表 3-4）。
- 「連員」となった時期は、「社会人になってから」が最も多いが、「小学生以前から」が多い。「連や連員への協力」や「地域や町内の活動」については、「社会人になってから」がほとんどである（表 3-5）。
- 「連員」となったきっかけは、「連の知人からの誘い」が最も多く、ついで「自身で参加したい」が多い。「連や連員への協力」は「勤務先の仕事」が多く、「地域や町内の活動」は自らの意志や家族を介して行われている（表 3-6）。

「現在」の阿波おどりの連員としての関わりについて主な結果をまとめると、以下の通りである。

- 「連」への所属年数は、性差があり、男性の所属年数が相対的に長い。「20 年以上」の所属は男性は 60% 超に対して、女性は 20% 超である。男性のほうがライフステージの変化が起きても、活動を継続する（できる）環境にある可能性が示唆される。年齢階級別では、年齢の上昇と共に所属年数が上昇する（表 3-7）。
- 回答者が所属する「連」の規模は、性差がなく、100 人未満の連に 70% 超程度が属している（表 3-8）。
- 「連」に所属した時期は、性差なく「社会人になってから」が 40% 超で最も多いが、女性で「小学生以前から」が高い。年齢階級別では、「30 歳代以下」と「60 歳代以上」の回答は「小学生以前から」と「社会人になってから」に分かれるが、「40-50 歳代」ではライフステージの様々な時点で所属している（表 3-9）。
- 「連」に所属したきっかけは、性差なく「連の知人からの誘い」と「自身で参加したい」が高い。年齢階級別では、「60 歳代以上」では「連の知人からの誘い」が 80% 超で顕著に高く、「自身で参加したい」が低い（表 3-10）。
- コロナ禍における活動の変化は、性差なく「練習場所が確保できなかった」と「おどりを披露する機会の減少」が高い。年齢階級別でも、同様であるが、「30 歳代以下」では「連を辞める人の増加」が高く、若年層がコロナ禍の影響を受けた可能性が示唆される。連の規模別で見ても、同様の傾向が確認されるが、小規模（50 人未満）と大規模（150 人超）の連で「連を辞める人の増加」が高い傾向が見られた（表 3-11）。
- コロナ禍前の 2019 年での 8 月の本番までの参加状況は、性別に見ると、週に 1 回以上参加する割合は 60-70% を占めて男女共に高かったが、コロナ禍では男女共に 40% 程度まで低下した。女性では「参加していない」割合が顕著に増加したことから、コロナ禍では女性の活動が大きな影響を受けた可能性を示唆している。年齢階級別では、2019 年では、どの年齢階級でも週 1 回以上参加する割合が高く、特に「30 歳代以下」は高かった（週

に数回程度以上が 100%)。コロナ禍ではどの年齢層でも、週 1 回以上参加する割合が低下した。特に、「30 歳代以下」と「60 歳代以上」では、「参加していない」割合が顕著に増加したことから、コロナ禍では若年層と高年齢層の活動が大きな影響を受けた可能性を示唆している（表 3-12）。

「過去」の阿波おどりとのかかわりについて主な結果をまとめると、以下の通りである。

- 市民の 23%（回答者の 223 名）が過去に阿波おどりとのかかわりがあった」と回答したが、具体的には、「仕事」（43.5%）、「連員」（39.0%）、「おどりに参加」（32.7%）が主である（表 3-13）。
- 「現在」のかかわりで見たように、阿波おどりは、「地域や町内の活動」や「ボランティア活動」といった自発的な「社会的活動」とは多くの場合、切り離されており、過去にかかわりがあった 223 名のうち、「地域や町内の活動」としてかかわりを持っていた市民は 10.3%、「ボランティア活動」としてかかわりを持っていた市民は 4.9% である。また、「連や連員に協力」していた市民は 10.8% である。他方で、企業のビジネス活動や商店等の家業、企業連や阿波おどり開催のスポンサーといった「経済的活動」ではかかわりがあって、地元の産業界が徳島市の阿波おどりを支えてきた側面が確認された（表 3-13）。
- 「過去」においても、「（現在」のかかわりで見たのと同様に）阿波おどりを介して、市民が複数のかかわり（複数の社会的活動や経済的活動）を持つというよりは、多くの市民が二つ以上の関りを同時に持っていなかった（表 3-13）。
- 過去に連員であった回答者（70 名）のうち、「連員」となった時期は、「社会人になってから」が最も多いが、「小学生以前から」がついで多い（表 3-15）。「連員」となったきっかけは、男女共に「自身で参加したいと思ったから」が最も多いが、「連の知人から誘われたから」がついで多い。またどの年齢階級でも、これらが主なきっかけとなっている（表 3-19 a1, a2）。「連員」を辞めた理由は、多岐に渡るが「生活・経済上の理由」が最も多い。「コロナ禍の影響」も 10% 超程度あり、年齢階級では「60 歳代以上」の割合が高く、高年齢者ほどコロナ禍の影響を受けた可能性が示唆される（表 3-20 a1, a2）。
- 過去に阿波おどりとのかかわりを持っていた市民のうち、現在かかわりを持たなくなった理由として、「コロナ禍の影響」を挙げた割合は、一定程度（「おどりへの参加」が 10% 超、「連や連員への協力」が 30% 程度、「地域・町内活動を通じたかかわり」は 20% 程度）あり、新型コロナウイルス感染拡大が市民と阿波おどりのつながりを毀損させた可能性が確認された（表 3-20 b1, b2, c1, c2, d1, d2）。

4. 徳島市民の地域社会との関わりとソーシャル・キャピタル

4-1. ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）

ソーシャル・キャピタル（Social Capital：社会関係資本）とは、具体的には、「信頼」、「規範」、「ネットワーク」で表現される⁹⁾。人々が互いに相手を疑ってかかる社会では、信頼できない相手とのやりとりのために、余計なコスト（相手のことを調べたり、騙されないようにするための準備に係る時間や金銭）を支払う必要があるため、円滑な社会的、経済的活動が期待できない。また、困難に対して互いに助け合うという規範がない社会では、人々は他人に手を差し伸べることに對して、相手に見返りを求めたり、地域や社会全体の共通の利益になるような課題に対して、協力は行われない。さらに、人々が互いに顔を見えるつながりが存在しない地域や社会では、人々のコミュニケーションが図られず、挨拶や会話はもちろん、日常的に助け合うこともなく、治安の悪化や社会不安も起こりうる。

このように、人々の間に、「信頼」、「規範」、「ネットワーク」といったソーシャル・キャピタルが蓄積されていない社会では、人々の自発的な協力が行われないために、社会的・経済的活動が停滞する、つまり、非効率性な状態がもたらされる。つまり、ソーシャル・キャピタルとは、社会が非効率な状況に陥ることを回避し、自発的な行動を容易にすることで、社会の効率性を改善するものと定義できる。

本調査では、上述のソーシャル・キャピタルを、付き合い・交流（ネットワーク）、信頼、社会参加、地域への愛着の四つの側面から捉えている¹⁰⁾。なお、社会参加は阿波おどり以外の活動への参加である。

まず、付き合い・交流（ネットワーク）について見ると、家族や友人とのつながりがある個人は、様々な困難に対して解決する手段を多く持ち合わせており、孤立や孤独、それに伴って生じる諸問題（健康上の問題等）を防止できる可能性が高い。また、近所の人々とのつながり強い地域や社会では、お互いのコミュニケーションが活発に行われたり、日常的に助け合ったりするため、社会における防犯や防災といった効果が期待できる。スポーツや趣味、学習等活动への参加は、共通の趣味や目的を通じて、多様な他者とのつながりを促進することが期待される。

つぎに、信頼について見ると、知人との信頼関係（特定信頼）を有する個人は、日常生活における安心感や円滑なコミュニケーションを享受できる。また、見知らぬ他人への信頼（一般信頼）は、精神的・金銭的なコストを減らし、効率的な社会的・経済的活動を享受できると共に、異なる地域やグループに属したり、異なる属性を有する他者に対する理解や受け入

9) 内閣府（2003）の整理による。

10) Putnam（1993）によれば、ソーシャル・キャピタルとは「協調的な諸活動を活発にする事によって社会の効率性を改善できる、信頼、規範、ネットワークといった社会組織の特徴」と定義される。

れにも寛容になる。

さらに、社会参加について見ると、地域共同活動（集会所や日常的に使う生活道路の清掃といった集合的行動）は、多くの住民が積極的に参加すれば、地域住民全体に便益をもたらす一方で、自分以外の誰かが共同活動に参加してくれれば、自分自身もその便益を得られるため、誰もが他人の行動にフリーライド（ただ乗り）するインセンティブがある。こうした地域共同活動や地域行事に対して、地域住民が積極的に参加しない地域は活力が低下する。ボランティアや市民活動も同様に、他人の行動にフリーライドできる行動であり、積極的に参加する市民が多いほど社会が活性化することが期待できる。これらの社会活動への参加は、多くの場合が他者との接点を有することになるため、地域活動の場合は地域内の結束を高めること、ボランティア活動や市民活動は信頼と同様に、他者に対する理解や受け入れに寛容になることが期待される。

地域への愛着は、居住者とその地域とのつながりの強さを示すものであり、愛着が強いほど、長く住み続けたいと考える個人が多く、他地域への人口流出を抑制する効果が期待できる。

ソーシャル・キャピタルはまた、結束型（bonding）と橋渡型（bridging）とに分類される。結束型とは閉鎖的で同質的な内部の結束を強くするソーシャル・キャピタルであり、橋渡型とは開放的で異質な水平的な結束を強くするソーシャル・キャピタルである。

結束型ソーシャル・キャピタルは、家族・友人とのつながりや近所の人々との付き合い、知人への信頼関係（特定信頼）、地域活動や同質的なグループ活動への参加度を指す。結束型ソーシャル・キャピタルには、例えば、地域活動を盛んにするだけでなく、地域を活性化する便益や防犯や防災、福祉のコストを下げる効果をもつこと、さらに、こうした行政サービスを代替する役割を果たすことが期待される。橋渡型ソーシャル・キャピタルは、地域外や自分とは違う属性（年齢や経歴）を持つ人々とのつながりや信頼関係（一般信頼）、地域外や異なるグループの人々との活動への参加度である。橋渡型ソーシャル・キャピタルの蓄積には、例えば、同質的な地域や社会において、地域外や他の属性を持つ人々との交流（交流人口や関係人口の拡大、二拠点居住や移住）の増加を促し、新しいアイデアや人材を地域内にもたらすという便益が期待できる。さらに、交流人口や関係人口の増加を通じて経済圏が拡大すれば、地域産業の活性化にも貢献し、産業の経済的な自立に寄与することも期待できる。

表4-1の通り、付き合い・交流のうち、家族、友人・知人と出かける頻度、地域や近所の人や友人・知人との付き合いは結束型であり、スポーツ・趣味活動への参加は橋渡型である。信頼は、地域内の顔見知りの人（特定信頼）は結束型で、地域内と外の他人への信頼（一般信頼）は橋渡型である。社会参加のうち、地域共同活動への参加は結束型、ボランティア活動への参加は橋渡型である。地域への愛着は結束型である。

最後に、ソーシャル・キャピタルとは別に、生活満足度と健康満足度についても調査しており、これらは、市民の生活の質（Quality of Life：QOL）を示す指標である。

表 4-1 ソーシャル・キャピタルと具体的変数、類型

ソーシャル・キャピタル	変 数	類 型
I：付き合い・交流 (ネットワーク)	家族と出かける頻度 友人と会う頻度 近所の人との付き合い 学校や職場の人との付き合い スポーツや趣味、学習等活動への参加	結束型 結束型 結束型 結束型 橋渡型
II：信頼	地域内の顔見知りの人（特定信頼） 地域内の他人（一般信頼） 地域外の他人（一般信頼）	結束型 橋渡型 橋渡型
III：社会参加	地域の活動への参加 ボランティア活動や市民活動への参加	結束型 橋渡型
V：地域への愛着	地域への愛着	結束型

4-2. 性別集計結果

(1) 付き合い・交流

①家族と出かける（買い物や外食をする）頻度

表 4-2 には、家族と出かける頻度が示されている。(a) 感染症拡大前（2019 年）を見ると、男女共に最頻値は「週に一回以上」であり、それぞれ 38.8% と 39.9% である。ついで、男女共に「月に数回程度」が高く、それぞれ 32.9% と 37.6% である。これらを合わせた割合は、男性で 71.6%、女性で 77.5% である。他方、家族と出かける機会が「全くない」と回答する割合は、男性が 8.3%、女性が 3.1% にすぎず、家族関係が密であることがわかる。

(b) 感染症拡大後（2022 年）を見ると、男女共に最頻値は「月に数回程度」であり、それぞれ 32.8% と 38.8% である。ついで、男女共に「週に一回以上」が高く、それぞれ 27.3% と 25.2% である。コロナ禍では家族でさえも共に出かける機会が減少している。これらを合わせた割合は、男性で 60.0%、女性で 63.9% であり、コロナ禍以前よりも、それぞれ 11.6 ポイント、13.6 ポイント低下している。他方、家族と出かける機会が「全くない」と回答する割合は、男女共に上昇し、男性が 13.9%（5.6 ポイント増）、女性が 7.2%（4.1 ポイント増）である。

②友人と（学校や職場以外で）会う頻度

表 4-3 には、友人と会う頻度が示されている。(a) 感染症拡大前（2019 年）を見ると、男女共に最頻値は「月に数回程度」であり、それぞれ 30.7% と 40.2% である。ついで、男性は「週に一回以上」が 17.7%、女性は「半年に数回程度」が 23.4% で高い。友人と出かける機会が「全くない」と回答する割合は、男性が 17.0% と高く、他方で女性は 7.9% である。

(b) 感染症拡大後（2022 年）を見ると、男女共に最頻値は「月に数回程度」であり、それぞれ 17.9% と 23.2% である。ついで、男女共に「半年に数回程度」が高く、それぞれ 17.5% と 22.6% である。コロナ禍前と比較すると、「週に 1 回以上」は男性が 7.2 ポイント、

女性が7.7ポイント低下し、「月に数回程度」は男性が12.7ポイント、女性が17.0ポイント低下した一方で、「年に数回程度」や「数年に数回程度」及び「全くない」が増加した。特に、「全くない」は男性が11.2ポイント増加し、女性は10.7ポイントも増加した。男女共に、コロナ禍では友人と出かける機会も大きく減少したことがわかる。

③近所の人との付き合い

表4-4には、近所の人との付き合いが示されている。(a) 感染症拡大前(2019年)を見ると、男女共に最頻値は「あいさつ程度の付き合い」であり、それぞれ63.6%と60.3%である。ついで、男女共に「日常的に立ち話をする」が高く、それぞれ16.7%、21.8%で高い。

(b) 感染症拡大後(2022年)を見ると、男女共に最頻値は「あいさつ程度の付き合い」であり、それぞれ65.7%と65.9%である。ついで、コロナ禍では、男女共に「全く付き合っていない」が高くなり、それぞれ21.1%、16.3%である。コロナ禍では、コロナ禍以前と比較して、「日常的に立ち話をする」が男性で6.1ポイント、女性が7.9ポイント低下した一方で、「あいさつ程度の付き合い」が男性で2.2ポイント、女性が5.6ポイント上昇し、「全く付き合っていない」が男性で5.1ポイント、女性が2.9ポイント上昇した。

④学校や職場の人との付き合い

表4-5には、学校や職場の人との付き合いが示されている。(a) 感染症拡大前(2019年)を見ると、男女共に最頻値は「日常的に立ち話をする」であり、それぞれ46.7%と45.8%である。ついで、男女共に「相談したり、生活面でも協力」が高く、それぞれ20.6%、27.9%で高い。近所の人との付き合いと比べると、明らかに、男女共に学校や職場での人間関係のほうがつながりが密である。

(b) 感染症拡大後(2022年)を見ると、男女共に最頻値は「日常的に立ち話をする」であり、それぞれ43.3%と43.9%である。ついで、コロナ禍では、男女共に「あいさつ程度の付き合い」が高くなり、それぞれ21.5%、21.8%である。コロナ禍では、コロナ禍以前と比較して、「相談したり、生活面でも協力」が男性で3.0ポイント、女性が7.5ポイント低下し、「日常的に立ち話をする」が男性で3.4ポイント、女性で2.0ポイント低下した一方で、「あいさつ程度の付き合い」が男性で4.1ポイント、女性で6.3ポイント上昇し、「全く付き合っていない」が男性で2.6ポイント、女性で3.5ポイント上昇した。

⑤スポーツや趣味、学習等の活動

表4-16には、スポーツや趣味、学習等の活動への参加の程度が示されている。(a) 感染症拡大前(2019年)を見ると、男女共に最頻値は「全くない」であり、それぞれ34.8%と31.0%である。ついで、男女共に「活動が身近にない」が高く、それぞれ21.3%、23.0%で高い。「活動が身近にない」と「全くない」を合わせた割合は、男性が56.2%、女性が54.1%を占める。他方で、上述の活動とは異なり、「週に1回以上」と「月に数回程度」を合わせた割合は、男性が25.4%、女性が31.2%となり、活動水準が高いことが確認された。

(b) 感染症拡大後(2022年)を見ると、男女共に最頻値は「全くない」であり、それぞ

れ 37.4% と 40.2% である。ついで、男女共に「活動が身近にない」が高く、それぞれ 23.9%、24.6% で高い。「活動が身近にない」と「全くない」を合わせた割合は、男性が 61.2%、女性が 64.8% を占めた一方で、「週に 1 回以上」と「月に数回程度」を合わせた割合は、男性が 21.5%、女性が 22.4% となり、コロナ禍においても他と比較すると、活動水準が高いことが確認された。コロナ禍前後で比較すると、「活動が身近にない」と「全くない」を合わせた割合が、男性は 5.1 ポイント、女性は 10.7 ポイント上昇した一方で、「週に 1 回以上」と「月に数回程度」を合わせた割合が男性は 3.8 ポイント、女性は 8.8 ポイント減少した。スポーツや趣味、学習等の活動については、コロナ禍でも高い頻度での活動が維持された。

(2) 信頼

① 同じ地域・町内の顔見知りの人への信頼

表 4-7 には、同じ地域・町内の顔見知りの人への信頼が示されている。(a) 感染症拡大前(2019 年)を見ると、男女共に最頻値は「ある程度信頼」であり、それぞれ 56.7% と 58.8% である。ついで、「信頼できる」と「ほとんど信頼できない」の割合はほぼ同水準であるが、男性は「信頼できる」が 17.1%、女性は「ほとんど信頼できない」が 17.5% で高い。

(b) 感染症拡大後(2022 年)を見ると、男女共に最頻値は「ある程度信頼」であり、それぞれ 53.6% と 57.2% である。ついで、「信頼できる」と「ほとんど信頼できない」の割合はほぼ同水準であるが、男性は「信頼できる」が 17.8%、女性は「ほとんど信頼できない」が 18.0% で高い。コロナ禍前後で比較すると、「ある程度信頼」が男性で 3.0 ポイント、女性で 1.6 ポイント減少した一方で、「ほとんど信頼できない」と「まったく信頼できない」の合計が男性で 2.6 ポイント、女性で 1.4 ポイント上昇したが、コロナ禍前後の変化は大きいものではない。

② 同じ地域・町内の他人で知らない人への信頼

表 4-8 には、同じ地域・町内の他人で知らない人への信頼が示されている。(a) 感染症拡大前(2019 年)を見ると、男女共に最頻値は「ほとんど信頼できない」であり、それぞれ 43.3% と 41.4% である。ついで、男女共に「まったく信頼できない」が高く、それぞれ 28.6%、37.3% で高い。他方で、「ある程度信頼」も 20% を超えており、男性が 26.2%、女性が 21.2% である。

(b) 感染症拡大後(2022 年)を見ると、男女共に最頻値は「ほとんど信頼できない」であり、それぞれ 43.0% と 41.5% である。ついで、男女共に「まったく信頼できない」が高く、それぞれ 30.3%、38.7% で高い。他方で、「ある程度信頼」は、男性が 25.1% と女性が 19.6% である。コロナ禍前後で比較すると、「ある程度信頼」が男性で 1.2 ポイント、女性で 1.6 ポイント減少した一方で、「ほとんど信頼できない」と「まったく信頼できない」の合計が男性で 1.5 ポイント、女性で 1.4 ポイント上昇したが、コロナ禍前後の変化は大きいものではない。

ない。

③地域外・町外の他人で知らない人への信頼

表 4-9 には、地域外・町外の他人で知らない人への信頼が示されている。(a) 感染症拡大前(2019 年)を見ると、男女共に最頻値は「まったく信頼できない」であり、それぞれ 42.3% と 51.5% である。ついで、男女共に「ほとんど信頼できない」が高く、それぞれ 38.5%、36.5% で高い。他方、「ある程度信頼」は 10% を超えており、男性が 17.7%、女性が 11.8% である。

(b) 感染症拡大後(2022 年)を見ると、男女共に最頻値は「まったく信頼できない」であり、それぞれ 44.9% と 53.1% である。ついで、男女共に「ほとんど信頼できない」が高く、それぞれ 37.1%、35.4% で高い。他方、「ある程度信頼」は 10% を超えており、男性が 16.8% と女性が 11.3% である。コロナ禍前後で比較すると、「ある程度信頼」と「ほとんど信頼できない」の合計が男性で 2.3 ポイント、女性で 1.6 ポイント減少した一方で、「まったく信頼できない」が男性で 2.6 ポイント、女性で 1.6 ポイント上昇したが、コロナ禍前後の変化は大きいものではない。

(3) 社会参加

①地域活動(町内会等の行事等)への参加

表 4-10 には、地域活動への参加の程度が示されている。(a) 感染症拡大前(2019 年)を見ると、最頻値は男性が「全くない」で 33.6%、女性が「活動が身近にない」で 37.4% である。ついで、男性は「活動が身近にない」が 28.0%、女性は「全くない」が 30.2% で高い。「活動が身近にない」と「全くない」を合わせた割合は、男性が 61.6%、女性が 67.5% を占める。

(b) 感染症拡大後(2022 年)を見ると、最頻値は男性が「全くない」で 39.5%、女性が「活動が身近にない」で 41.5% である。ついで、男性は「活動が身近にない」が 33.3%、女性は「全くない」が 37.9% で高い。「活動が身近にない」と「全くない」を合わせた割合は、男性が 72.9%、女性が 79.4% を占め、コロナ禍前後で比較すると、男性が 11.2 ポイント、女性が 11.9 ポイント上昇した。他方で、「半年に数回程度」と「年に数回程度」を合わせた割合が男性は 9.4 ポイント、女性は 8.4 ポイント減少した。コロナ禍で地域活動自体も、参加の機会も失われた可能性が明らかになった。

②ボランティア活動や市民活動への参加

表 4-11 には、ボランティア活動や市民活動への参加の程度が示されている。(a) 感染症拡大前(2019 年)を見ると、男女共に最頻値は「全くない」であり、それぞれ 49.3% と 42.4% である。ついで、男女共に「活動が身近にない」が高く、それぞれ 30.6%、37.1% で高い。「活動が身近にない」と「全くない」を合わせた割合は、男性が 79.9%、女性が 79.5% を占める。

(b) 感染症拡大後(2022 年)を見ると、男女共に最頻値は「全くない」であり、それぞ

れ 50.0% と 47.8% である。ついで、男女共に「活動が身近にない」が高く、それぞれ 35.1%、40.1% で高い。「活動が身近にない」と「全くない」を合わせた割合は、男性が 85.1%、女性が 87.9% を占め、コロナ禍前後で比較すると、男性が 5.2 ポイント、女性が 8.4 ポイント上昇した、他方で、「年に数回程度」と「数年に数回程度」を合わせた割合が男性は 4.3 ポイント、女性は 6.0 ポイント減少した。コロナ禍前からボランティア等の活動は多くの市民によって頻繁に行われているわけではないが、コロナ禍で活動自体も、参加の機会も失われた可能性が示された。

(4) 地域への愛着

表 4-12 には、地域への愛着が示されている。居住する地域や町内への愛着は、「愛着がある」が男女ともに最も多く、男性は 41.4%、女性は 39.3% である。ついで、「少しは愛着がある」が高く、男性は 32.0%、女性は 34.9% である。「愛着がある」と「少しは愛着がある」を合わせたポジティブな回答の割合は、男性が 73.4%、女性が 74.2% である。

(5) QOL

以下では、コロナ禍前後における生活満足度と健康満足度が示されている。

①生活満足度

表 4-13 には、生活全般についての満足度が示されている。生活全般についての満足度は、0 を最も不満足な状態、10 を最も満足な状態とした、11 段階で評価されている。

(a) 感染症拡大前（2019 年）を見ると、「5」が男女ともに最も多く、男性は 40.7%、女性は 43.7% である。ついで、「8」が共に高く、男性は 13.6%、女性は 15.0% である。

(b) 感染症拡大後（2022 年）を見ると、「5」が男女ともに最も多く、男性は 29.0%、女性は 29.9% である。ついで、「3」が共に高く、男性は 16.3%、女性は 16.7% である。感染症拡大後は、拡大前と比較して、「5」の選択割合は男性が 11.7 ポイントと女性が 13.8 ポイント減少し、「3」の選択割合は男性が 13.4 ポイント、女性が 13.4 ポイント増加した。さらに言えば、「5」以上を選択する割合が、男性が 32.7 ポイント、女性が 38.0 ポイント減少し、「4」以下を選択する割合が同じだけ上昇した。このように、コロナ禍では男女共に生活満足度が大きく低下したことが明らかになった。

②健康満足度

表 4-14 には、健康状態についての満足度が示されている。健康についての満足度も同様に、0 を最も不満足な状態、10 を最も満足な状態とした、11 段階で評価されている。

(a) 感染症拡大前（2019 年）を見ると、「5」が男女ともに最も多く、男性は 43.0%、女性は 43.8% である。ついで、「8」が共に高く、男性は 14.5%、女性は 13.3% である。

(b) 感染症拡大後（2022 年）を見ると、「5」が男女ともに最も多く、男性は 37.7%、女性は 35.7% である。ついで、「4」が共に高く、男性は 10.7%、女性は 12.9% である。感染症

拡大後は、拡大前と比較して、「5」の選択割合は男性が5.3ポイント、女性が8.1ポイント減少し、「4」の選択割合は男性が5.5ポイント、女性が7.5ポイント増加した。さらに言えば、「5」以上を選択する割合が男性が16.3ポイント、女性が19.6ポイント減少し、「4」以下を選択する割合が同じだけ上昇した。このように、コロナ禍では男女共に生活満足度ほど大きくないが健康満足度が低下したことが明らかになった。

表 4-2. 家族と出かける頻度

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
週に1回以上	164	261	1	426	38.8%	39.9%	25.0%	39.4%
月に数回程度	139	246	1	386	32.9%	37.6%	25.0%	35.7%
半年に数回程度	44	72	0	116	10.4%	11.0%	0.0%	10.7%
年に数回程度	30	37	0	67	7.1%	5.7%	0.0%	6.2%
数年に数回程度	11	18	0	29	2.6%	2.8%	0.0%	2.7%
全くない	35	20	2	57	8.3%	3.1%	50.0%	5.3%
計	423	654	4	1081	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
週に1回以上	114	161	1	276	27.3%	25.2%	25.0%	26.0%
月に数回程度	137	248	1	386	32.8%	38.8%	25.0%	36.3%
半年に数回程度	59	96	0	155	14.1%	15.0%	0.0%	14.6%
年に数回程度	35	73	0	108	8.4%	11.4%	0.0%	10.2%
数年に数回程度	15	16	0	31	3.6%	2.5%	0.0%	2.9%
全くない	58	46	2	106	13.9%	7.2%	50.0%	10.0%
計	418	640	4	1062	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-3. 友人と会う頻度

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
週に1回以上	75	92	0	167	17.7%	14.3%	0.0%	15.6%
月に数回程度	130	258	2	390	30.7%	40.2%	50.0%	36.4%
半年に数回程度	64	150	1	215	15.1%	23.4%	25.0%	20.1%
年に数回程度	53	66	0	119	12.5%	10.3%	0.0%	11.1%
数年に数回程度	30	25	0	55	7.1%	3.9%	0.0%	5.1%
全くない	72	51	1	124	17.0%	7.9%	25.0%	11.6%
計	424	642	4	1070	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
週に1回以上	44	42	0	86	10.5%	6.6%	0.0%	8.1%
月に数回程度	75	147	1	223	17.9%	23.2%	25.0%	21.1%
半年に数回程度	73	143	1	217	17.5%	22.6%	25.0%	20.5%
年に数回程度	72	134	0	206	17.2%	21.1%	0.0%	19.5%
数年に数回程度	36	50	0	86	8.6%	7.9%	0.0%	8.1%
全くない	118	118	2	238	28.2%	18.6%	50.0%	22.5%
計	418	634	4	1056	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-4. 近所の人との付き合い

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
家族と同じような付き合い	3	4	0	7	0.7%	0.6%	0.0%	0.6%
相談したり、生活面でも協力	13	25	0	38	3.0%	3.8%	0.0%	3.5%
日常的に立ち話をする	72	142	1	215	16.7%	21.8%	25.0%	19.8%
あいさつ程度の付き合い	274	392	2	668	63.6%	60.3%	50.0%	61.6%
全く付き合っていない	69	87	1	157	16.0%	13.4%	25.0%	14.5%
計	431	650	4	1085	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
家族と同じような付き合い	4	3	0	7	0.9%	0.5%	0.0%	0.6%
相談したり、生活面でも協力	7	22	0	29	1.6%	3.4%	0.0%	2.7%
日常的に立ち話をする	45	91	0	136	10.6%	14.0%	0.0%	12.6%
あいさつ程度の付き合い	280	429	3	712	65.7%	65.9%	75.0%	65.9%
全く付き合っていない	90	106	1	197	21.1%	16.3%	25.0%	18.2%
計	426	651	4	1081	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-5. 学校や職場の人との付き合い

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
家族と同じような付き合い	8	16	0	24	2.0%	2.7%	0.0%	2.4%
相談したり、生活面でも協力	84	168	2	254	20.6%	27.9%	50.0%	25.1%
日常的に立ち話をする	190	276	1	467	46.7%	45.8%	25.0%	46.1%
あいさつ程度の付き合い	71	93	0	164	17.4%	15.4%	0.0%	16.2%
全く付き合っていない	54	49	1	104	13.3%	8.1%	25.0%	10.3%
計	407	602	4	1013	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
家族と同じような付き合い	7	14	0	21	1.7%	2.3%	0.0%	2.1%
相談したり、生活面でも協力	72	123	2	197	17.6%	20.4%	50.0%	19.4%
日常的に立ち話をする	177	264	0	441	43.3%	43.9%	0.0%	43.4%
あいさつ程度の付き合い	88	131	0	219	21.5%	21.8%	0.0%	21.6%
全く付き合っていない	65	70	2	137	15.9%	11.6%	50.0%	13.5%
計	409	602	4	1015	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-6. スポーツや趣味、学習等の活動への参加の程度

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
週に1回以上	43	96	1	140	10.2%	14.7%	25.0%	13.0%
月に数回程度	64	107	0	171	15.2%	16.4%	0.0%	15.9%
半年に数回程度	22	23	0	45	5.2%	3.5%	0.0%	4.2%
年に数回程度	34	37	0	71	8.1%	5.7%	0.0%	6.6%
数年に数回程度	22	36	0	58	5.2%	5.5%	0.0%	5.4%
全くない	147	202	1	350	34.8%	31.0%	25.0%	32.5%
活動が身近にない	90	150	2	242	21.3%	23.0%	50.0%	22.5%
計	422	651	4	1077	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
週に1回以上	40	74	1	115	9.5%	11.4%	25.0%	10.7%
月に数回程度	51	72	0	123	12.1%	11.1%	0.0%	11.4%
半年に数回程度	27	27	0	54	6.4%	4.1%	0.0%	5.0%
年に数回程度	26	35	0	61	6.1%	5.4%	0.0%	5.7%
数年に数回程度	20	21	0	41	4.7%	3.2%	0.0%	3.8%
全くない	158	262	1	421	37.4%	40.2%	25.0%	39.1%
活動が身近にない	101	160	2	263	23.9%	24.6%	50.0%	24.4%
計	423	651	4	1078	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-7. 同じ地域・町内の顔見知りの人への信頼

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
とても信頼できる	10	11	0	21	2.3%	1.7%	0.0%	1.9%
信頼できる	73	78	0	151	17.1%	12.1%	0.0%	14.0%
ある程度信頼	242	380	1	623	56.7%	58.8%	25.0%	57.8%
ほとんど信頼できない	65	113	1	179	15.2%	17.5%	25.0%	16.6%
まったく信頼できない	37	64	2	103	8.7%	9.9%	50.0%	9.6%
計	427	646	4	1077	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
とても信頼できる	9	11	0	20	2.1%	1.7%	0.0%	1.9%
信頼できる	76	79	0	155	17.8%	12.2%	0.0%	14.4%
ある程度信頼	229	369	2	600	53.6%	57.2%	50.0%	55.8%
ほとんど信頼できない	71	116	0	187	16.6%	18.0%	0.0%	17.4%
まったく信頼できない	42	70	2	114	9.8%	10.9%	50.0%	10.6%
計	427	645	4	1076	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-8. 同じ地域・町内の他人で知らない人への信頼

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
とても信頼できる	2	0	0	2	0.5%	0.0%	0.0%	0.2%
信頼できる	6	1	0	7	1.4%	0.2%	0.0%	0.7%
ある程度信頼	111	136	0	247	26.2%	21.2%	0.0%	23.1%
ほとんど信頼できない	183	266	2	451	43.3%	41.4%	50.0%	42.1%
まったく信頼できない	121	240	2	363	28.6%	37.3%	50.0%	33.9%
計	423	643	4	1070	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
とても信頼できる	1	0	0	1	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%
信頼できる	6	2	0	8	1.4%	0.3%	0.0%	0.7%
ある程度信頼	106	126	0	232	25.1%	19.6%	0.0%	21.7%
ほとんど信頼できない	182	267	2	451	43.0%	41.5%	50.0%	42.1%
まったく信頼できない	128	249	2	379	30.3%	38.7%	50.0%	35.4%
計	423	644	4	1071	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-9. 地域外・町外の他人で知らない人への信頼

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
とても信頼できる	3	0	0	3	0.7%	0.0%	0.0%	0.3%
信頼できる	3	1	0	4	0.7%	0.2%	0.0%	0.4%
ある程度信頼	75	76	1	152	17.7%	11.8%	25.0%	14.2%
ほとんど信頼できない	163	235	1	399	38.5%	36.5%	25.0%	37.3%
まったく信頼できない	179	331	2	512	42.3%	51.5%	50.0%	47.9%
計	423	643	4	1070	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
とても信頼できる	3	0	0	3	0.7%	0.0%	0.0%	0.3%
信頼できる	2	1	0	3	0.5%	0.2%	0.0%	0.3%
ある程度信頼	71	73	1	145	16.8%	11.3%	25.0%	13.5%
ほとんど信頼できない	157	228	1	386	37.1%	35.4%	25.0%	36.0%
まったく信頼できない	190	342	2	534	44.9%	53.1%	50.0%	49.9%
計	423	644	4	1071	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-10. 地域活動への参加の程度

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
週に1回以上	2	3	0	5	0.5%	0.5%	0.0%	0.5%
月に数回程度	14	17	0	31	3.3%	2.6%	0.0%	2.9%
半年に数回程度	32	39	0	71	7.6%	6.0%	0.0%	6.6%
年に数回程度	71	93	0	164	16.8%	14.3%	0.0%	15.2%
数年に数回程度	43	59	0	102	10.2%	9.1%	0.0%	9.5%
全くない	142	196	3	341	33.6%	30.2%	75.0%	31.7%
活動が身近にない	118	243	1	362	28.0%	37.4%	25.0%	33.6%
計	422	650	4	1076	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
週に1回以上	1	2	0	3	0.2%	0.3%	0.0%	0.3%
月に数回程度	12	12	0	24	2.9%	1.8%	0.0%	2.2%
半年に数回程度	20	16	0	36	4.8%	2.5%	0.0%	3.3%
年に数回程度	43	61	0	104	10.2%	9.4%	0.0%	9.7%
数年に数回程度	38	43	0	81	9.0%	6.6%	0.0%	7.5%
全くない	166	247	3	416	39.5%	37.9%	75.0%	38.7%
活動が身近にない	140	270	1	411	33.3%	41.5%	25.0%	38.2%
計	420	651	4	1075	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-11. ボランティア活動や市民活動への参加の程度

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
週に1回以上	1	10	0	11	0.2%	1.5%	0.0%	1.0%
月に数回程度	15	24	0	39	3.6%	3.7%	0.0%	3.6%
半年に数回程度	15	16	0	31	3.6%	2.5%	0.0%	2.9%
年に数回程度	28	44	0	72	6.6%	6.8%	0.0%	6.7%
数年に数回程度	26	39	0	65	6.2%	6.0%	0.0%	6.0%
全くない	208	275	3	486	49.3%	42.4%	75.0%	45.2%
活動が身近にない	129	241	1	371	30.6%	37.1%	25.0%	34.5%
計	422	649	4	1075	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
週に1回以上	1	7	0	8	0.2%	1.1%	0.0%	0.7%
月に数回程度	11	16	0	27	2.6%	2.5%	0.0%	2.5%
半年に数回程度	15	12	0	27	3.6%	1.8%	0.0%	2.5%
年に数回程度	17	19	0	36	4.0%	2.9%	0.0%	3.3%
数年に数回程度	19	25	0	44	4.5%	3.8%	0.0%	4.1%
全くない	211	311	2	524	50.0%	47.8%	50.0%	48.7%
活動が身近にない	148	261	2	411	35.1%	40.1%	50.0%	38.2%
計	422	651	4	1077	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-12. 地域への愛着

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
愛着がある	177	257	0	434	41.4%	39.3%	0.0%	40.0%
少しは愛着がある	137	228	1	366	32.0%	34.9%	25.0%	33.7%
どちらともいえない	61	100	2	163	14.3%	15.3%	50.0%	15.0%
あまり愛着感じていない	31	39	0	70	7.2%	6.0%	0.0%	6.4%
愛着を感じていない	22	30	1	53	5.1%	4.6%	25.0%	4.9%
計	428	654	4	1086	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-13. 生活全般についての満足度

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
0 最も不満足	10	6	0	16	2.4%	0.9%	0.0%	1.5%
1	3	7	0	10	0.7%	1.1%	0.0%	0.9%
2	7	9	1	17	1.7%	1.4%	25.0%	1.6%
3	12	21	0	33	2.9%	3.3%	0.0%	3.1%
4	22	20	0	42	5.2%	3.2%	0.0%	4.0%
5	171	277	1	449	40.7%	43.7%	25.0%	42.4%
6	41	62	1	104	9.8%	9.8%	25.0%	9.8%
7	53	67	1	121	12.6%	10.6%	25.0%	11.4%
8	57	95	0	152	13.6%	15.0%	0.0%	14.4%
9	22	41	0	63	5.2%	6.5%	0.0%	6.0%
10 最も満足	22	29	0	51	5.2%	4.6%	0.0%	4.8%
計	420	634	4	1058	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
0 最も不満足	25	23	0	48	6.0%	3.6%	0.0%	4.5%
1	12	28	0	40	2.9%	4.4%	0.0%	3.8%
2	31	43	0	74	7.4%	6.8%	0.0%	7.0%
3	68	106	1	175	16.3%	16.7%	25.0%	16.6%
4	54	105	0	159	12.9%	16.5%	0.0%	15.0%
5	121	190	2	313	29.0%	29.9%	50.0%	29.6%
6	32	45	0	77	7.7%	7.1%	0.0%	7.3%
7	34	43	0	77	8.2%	6.8%	0.0%	7.3%
8	22	31	1	54	5.3%	4.9%	25.0%	5.1%
9	12	7	0	19	2.9%	1.1%	0.0%	1.8%
10 最も満足	6	15	0	21	1.4%	2.4%	0.0%	2.0%
計	417	636	4	1057	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-14. 健康状態についての満足度

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
0 最も不満足	7	6	0	13	1.7%	0.9%	0.0%	1.2%
1	1	5	0	6	0.2%	0.8%	0.0%	0.6%
2	4	4	1	9	1.0%	0.6%	25.0%	0.9%
3	17	22	0	39	4.0%	3.5%	0.0%	3.7%
4	22	34	1	57	5.2%	5.4%	25.0%	5.4%
5	181	277	1	459	43.0%	43.8%	25.0%	43.4%
6	38	47	0	85	9.0%	7.4%	0.0%	8.0%
7	45	55	1	101	10.7%	8.7%	25.0%	9.5%
8	61	84	0	145	14.5%	13.3%	0.0%	13.7%
9	17	56	0	73	4.0%	8.8%	0.0%	6.9%
10 最も満足	28	43	0	71	6.7%	6.8%	0.0%	6.7%
計	421	633	4	1058	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
0 最も不満足	14	19	0	33	3.3%	3.0%	0.0%	3.1%
1	5	14	0	19	1.2%	2.2%	0.0%	1.8%
2	15	20	0	35	3.6%	3.1%	0.0%	3.3%
3	40	61	2	103	9.5%	9.6%	50.0%	9.7%
4	45	82	0	127	10.7%	12.9%	0.0%	12.0%
5	158	227	1	386	37.7%	35.7%	25.0%	36.4%
6	35	58	0	93	8.4%	9.1%	0.0%	8.8%
7	34	43	1	78	8.1%	6.8%	25.0%	7.4%
8	40	42	0	82	9.5%	6.6%	0.0%	7.7%
9	16	37	0	53	3.8%	5.8%	0.0%	5.0%
10 最も満足	17	33	0	50	4.1%	5.2%	0.0%	4.7%
計	419	636	4	1059	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4-3. 年齢階級別集計結果

(1) 付き合い・交流

①家族と出かける（買い物や外食する）頻度

表 4-15 には、家族と出かける頻度が年齢階級別に示されている。(a) 感染症拡大前（2019 年）を見ると、「30 歳代以下」と「40-50 歳代」の最頻値は「週に一回以上」であり、それぞれ 46.6% と 39.9% である。ついで、共に「月に数回程度」が高く、それぞれ 34.1% と 35.8% である。これらを合わせた割合は、「30 歳代以下」で 80.7%, 「40-50 歳代」で 75.7% である。他方、家族と出かける機会が「全くない」と回答する割合は、「30 歳代以下」が 3.2%, 「40-50 歳代」が 5.0% にすぎず、家族関係が密であることがわかる。「60 歳代以上」の最頻値は、「月に数回程度」で 37.3% である。ついで、「週に一回以上」が高く 32.1% である。これらを合わせた割合は 69.4% である。他方、「全くない」と回答する割合は 7.4% である。他の年齢階級と比較すると出かける頻度は高くないが、同様に家族関係が密であることがわかる。

(b) 感染症拡大後（2022 年）を見ると、「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のすべての年齢階級で最頻値は「月に数回程度」であり、それぞれ 36.3% と 40.9%, 30.3% である。ついで、同様に「週に一回以上」が高く、それぞれ 33.1% と 22.5%, 23.9% である。これらを合わせた割合は、それぞれ 69.4% と 63.4%, 54.2% であり、コロナ禍以前よりも、それぞれ 11.3 ポイント、12.2 ポイント、15.3 ポイント低下している。他方、家族と出かける機会が「全くない」と回答する割合は、「30 歳代以下」が 5.1%（1.9 ポイント増）、40-50 歳代が 10.6%（5.6 ポイント増）、「60 歳代以上」が 13.5%（6.1 ポイント増）である。コロナ禍ではすべての年齢階級で、家族と共に出かける機会が減少したことがわかる。

②友人と（学校や職場以外で）会う頻度

表 4-16 には、友人と会う頻度が年齢階級別に示されている。(a) 感染症拡大前（2019 年）を見ると、「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のすべての年齢階級で最頻値は「月に数回程度」であり、それぞれ 39.7%, 35.7%, 34.5% である。ついで、「30 歳代以下」は「週に一回以上」が 22.9%, 「40-50 歳代」と「60 歳代以上」は「半年に数回程度」でそれぞれ 22.9% と 18.0% で高い。友人と出かける機会が「全くない」と回答する割合は、「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のそれぞれで、9.0%, 12.8%, 12.7% である。

(b) 感染症拡大後（2022 年）を見ると、「30 歳代以下」では、最頻値が「半年に数回程度」で 24.6% であり、ついで、「月に数回程度」で 24.3% である。「40-50 歳代」では、最頻値が「半年に数回程度」で 21.4% であり、ついで、「年に数回程度」で 21.0% である。「60 歳代以上」では最頻値が「月に数回程度」で 22.8% であり、ついで、「年に数回程度」で 19.9% である。コロナ禍前と比較すると、「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のすべての年齢階級で「週に 1 回以上」と「月に数回程度」が大きく減少し、これらを合わせた減少幅は、それぞれ 25.7 ポイント減、23.4 ポイント減、19.1 ポイント減である。他方、友人と出かける機会が「全くない」と回答する割合は、「30 歳代以下」が 14.2%（5.2 ポイント増）、「40-50

歳代」が27.6%（14.8ポイント増）、「60歳代以上」が23.8%（11.1ポイント増）である。すべての年齢階級で、コロナ禍では友人と出かける機会も減少したが、特に40歳代よりも上の世代で大きいことがわかる。

③近所の人との付き合い

表4-17には、近所の人との付き合いが年齢階級別に示されている。(a)感染症拡大前(2019年)を見ると、「30歳代以下」、「40-50歳代」、「60歳代以上」のすべての年齢階級で最頻値は「あいさつ程度の付き合い」であり、それぞれ62.0%、68.2%、52.4%である。ついで、「30歳代以下」は「全く付き合っていない」が26.2%で高く、「40-50歳代」と「60歳代以上」は「日常的に立ち話をする」がそれぞれ17.4%、33.2%で高い。このように、「30歳代以下」では顕著に近所との関係が希薄であるが、年齢の上昇と共に密になり、特に「60歳以上」では他の年齢階級と比較して密であることが確認できる。

(b)感染症拡大後(2022年)を見ると、すべての年齢階級で最頻値は「あいさつ程度の付き合い」であり、それぞれ61.5%、70.2%、64.5%である。ついで、「30歳代以下」と「40-50歳代」は「全く付き合っていない」がそれぞれ29.9%と16.7%で高く、「60歳代以上」は「日常的に立ち話をする」が高く21.0%で高い。

コロナ禍では、コロナ禍以前と比較して、近所との付き合いが元々希薄であった「30歳代以下」では「日常的に立ち話をする」が2.9ポイント減少して、「全く付き合っていない」が3.7ポイント上昇したものの、大きな変化が見られない。他方で、「40-50歳代」では「日常的に立ち話をする」が6.6ポイント減少して、「全く付き合っていない」が4.2ポイント増加し、さらに「60歳代以上」では「日常的に立ち話をする」が12.2ポイント減少して、「あいさつ程度の付き合い」が12.1ポイント増加するといったように、付き合いが密であった高年齢層ほど大きなマイナスの影響を受けている。「60歳代以上」では、「全く付き合っていない」割合はコロナ禍でも低く、他の若い年齢階級よりも近隣住民との関係が密接であるものの、コロナ禍では特に活動が制限され、近隣住民との「日常的に立ち話をする」機会が奪われ、「あいさつ程度の付き合い」に限定されたことが確認できる。

④学校や職場の人との付き合い

表4-18には、学校や職場の人との付き合いが年齢階級別に示されている。(a)感染症拡大前(2019年)を見ると、「30歳代以下」、「40-50歳代」、「60歳代以上」のすべての年齢階級で最頻値は「日常的に立ち話をする」であり、それぞれ43.7%、54.5%、35.7%である。ついで、「30歳代以下」と「40-50歳代」では、「相談したり、生活面でも協力」が高く、それぞれ30.7%、24.2%である。「60歳代以上」では、「あいさつ程度の付き合い」と「相談したり、生活面でも協力」がそれぞれ19.9%と19.5%である。また、「60歳代以上」の回答者には無職者や専業主婦・主夫が多く含まれていることから、学校や職場の人とは「全く付き合っていない」が22.8%と高いという特徴がある。

(b)感染症拡大後(2022年)を見ると、すべての年齢階級で最頻値は「日常的に立ち話

をする」であり、それぞれ 44.2%, 52.0%, 29.4% である。ついで、「30 歳代以下」では、「相談したり、生活面でも協力」が 22.9% である。「40-50 歳代」では、「相談したり、生活面でも協力」と「あいさつ程度の付き合い」が同程度で 19.7% と 19.2% である。「60 歳代以上」では、「あいさつ程度の付き合い」が 27.9% である。コロナ禍前と比較して、「30 歳代以下」では、「相談したり、生活面でも協力」が 7.8 ポイント減少した一方で、「あいさつ程度の付き合い」と「全く付き合っていない」が合わせて 7.0 ポイント増加した。「40-50 歳代」では、「相談したり、生活面でも協力」と「あいさつ程度の付き合い」が合わせて 7.0 ポイント減少した一方で、「あいさつ程度の付き合い」と「全く付き合っていない」が 7.4 ポイント増加した。「60 歳代以上」では、「相談したり、生活面でも協力」と「あいさつ程度の付き合い」が合わせて 11.1 ポイント減少した一方で、「あいさつ程度の付き合い」と「全く付き合っていない」が 11.8 ポイント増加した。このように、コロナ禍では、学校や職場の人との付き合いについても希薄化したことが確認できる。

⑤ スポーツや趣味、学習等の活動

表 4-19 には、スポーツや趣味、学習等の活動への参加の程度が年齢階級別に示されている。(a) 感染症拡大前(2019 年)を見ると、「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」の最頻値は「全くない」が 29.6%, 33.6%, 33.8% であり、ついで、「活動が身近にない」が 28.0%, 21.9%, 18.2% である。「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のそれぞれで、スポーツや趣味、学習等の活動や市民活動に(「活動が身近にない」と「全くない」以外の)参加する割合の合計を見ると、それぞれ 42.4%, 44.5%, 48.0% を占めており、どの年齢階級でも参加割合が高く、年齢差が小さいことが確認できる。

(b) 感染症拡大後(2022 年)を見ると、「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」の最頻値は「全くない」で 34.9%, 40.7%, 41.0% である。ついで、「活動が身近にない」が 29.8%, 23.4%, 20.4% である。「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のそれぞれで、スポーツや趣味、学習等の活動に参加する(「活動が身近にない」と「全くない」以外の)割合の合計を見ると、それぞれ 35.3%, 35.9%, 38.6% を占めており、参加の程度は、他の活動と比べて高いこと、年齢に関係ないことが確認できる。コロナ禍前後で比較すると、それぞれで 7.2 ポイント、8.6 ポイント、9.4 ポイント低下した。コロナ禍でスポーツや趣味、学習等の活動自体も、参加の機会も年齢階級に関係なく失われ、つながりが損なわれたことが明らかになった。

(2) 信頼

① 同じ地域・町内の顔見知りの人への信頼

表 4-20 には、同じ地域・町内の顔見知りの人への信頼が年齢階級別に示されている。(a) 感染症拡大前(2019 年)を見ると、「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のすべての年齢階級で「ある程度信頼」が最も高く、それぞれ 48.6%, 60.8%, 63.6% である。ついで、

「30 歳代以下」と「40-50 歳代」では「ほとんど信頼できない」がそれぞれ 24.1% と 16.5%, 「60 歳代以上」では「信頼できる」が 21.3% である。「とても信頼できる」, 「信頼できる」, 「ある程度信頼できる」の割合を合計すると, 「30 歳代以下」, 「40-50 歳代」, 「60 歳代以上」では, それぞれ 59.2%, 74.8%, 86.4% となり, 年齢の上昇と共に信頼する割合が顕著に高まることが確認できる。

(b) 感染症拡大後 (2022 年) を見ると, すべての年齢階級で最頻値は「ある程度信頼できる」であり, 46.8%, 57.8%, 62.0% である。ついで, 「30 歳代以下」と「40-50 歳代」では「ほとんど信頼できない」がそれぞれ 25.3% と 17.3%, 「60 歳代以上」では「信頼できる」が 21.3% である。コロナ禍前後で比較すると, 「ある程度信頼」が「30 歳代以下」で 1.8 ポイント, 「40-50 歳代」で 2.9 ポイント, 「60 歳代以上」で 1.5 ポイント低下した一方で, 「ほとんど信頼できない」と「まったく信頼できない」の合計がそれぞれ 1.5 ポイント, 2.0 ポイント, 1.5 ポイント上昇したが, コロナ禍前後の変化は大きいものではない。

②同じ地域・町内の他人で知らない人への信頼

表 4-21 には, 同じ地域・町内の他人で知らない人への信頼が年齢階級別に示されている。

(a) 感染症拡大前 (2019 年) を見ると, 「30 歳代以下」の最頻値は「まったく信頼できない」で 47.0%, 「40-50 歳代」と「60 歳代以上」の最頻値は「ほとんど信頼できない」であり, それぞれ 44.1%, 43.1% である。ついで, 「30 歳代以下」は「ほとんど信頼できない」が 39.0%, 「40-50 歳代」は「ほとんど信頼できない」が 33.9%, 「60 歳代以上」は「ある程度信頼できる」で 35.5% が高い。同じ地域・町内の他人で知らない人への信頼についても, 「とても信頼できる」, 「信頼できる」, 「ある程度信頼できる」の割合を合計すると, 「30 歳代以下」, 「40-50 歳代」, 「60 歳代以上」ではそれぞれ 14.1%, 21.9%, 35.8% となり, 年齢の上昇と共に信頼する割合が顕著に高まることが確認できる。

(b) 感染症拡大後 (2022 年) を見ると, 「30 歳代以下」の最頻値は「まったく信頼できない」で 48.1%, 「40-50 歳代」と「60 歳代以上」の最頻値は「ほとんど信頼できない」であり, それぞれ 44.2%, 43.6% である。ついで, 「30 歳代以下」は「ほとんど信頼できない」が 38.2%, 「40-50 歳代」は「まったく信頼できない」が 35.0%, 「60 歳代以上」は「ある程度信頼できる」が 32.6% で高い。コロナ禍前後で比較すると, 「30 歳代以下」, 「40-50 歳代」, 「60 歳代以上」で, 「まったく信頼できない」と回答する割合がそれぞれ 1.1 ポイント, 1.0 ポイント, 2.1 ポイント上昇しており, コロナ禍ではわずかではあるが, 他者への信頼が悪化したことが確認できる。

③地域外・町外の他人で知らない人への信頼

表 4-22 には, 地域外・町外の他人で知らない人への信頼が年齢階級別に示されている。(a) 感染症拡大前 (2019 年) を見ると, 「30 歳代以下」と「40-50 歳代」の最頻値は「まったく信頼できない」がそれぞれ 57.2%, 49.2% で, 「60 歳代以上」の最頻値は「ほとんど信頼できない」で 41.8% である。ついで, 「30 歳代以下」は「ほとんど信頼できない」が 33.2%,

「40-50 歳代」は「ほとんど信頼できない」が 37.2%, 「60 歳代以上」は「まったく信頼できない」が 36.8% で高い。地域外・町外の他人で知らない人への信頼についても, 「とても信頼できる」, 「信頼できる」, 「ある程度信頼できる」の割合を合計すると, 「30 歳代以下」, 「40-50 歳代」, 「60 歳代以上」ではそれぞれ 9.6%, 13.6%, 21.4% となり, 年齢の上昇と共に信頼する割合が顕著に高まることが確認できる。

(b) 感染症拡大後 (2022 年) を見ると, 「30 歳代以下」と「40-50 歳代」の最頻値は「まったく信頼できない」でそれぞれ 59.9%, 50.5%, 「60 歳代以上」の最頻値は「ほとんど信頼できない」で 40.4% である。ついで, 「30 歳代以下」と「40-50 歳代」は「ほとんど信頼できない」が 30.9% と 36.8%, 「60 歳代以上」は「まったく信頼できない」で 38.9% である。コロナ禍前後で比較すると, 「まったく信頼できない」が 2.7 ポイント, 1.3 ポイント, 2.1 ポイント上昇したが, コロナ禍前後の変化は大きいものではない。

(3) 社会参加

①地域活動 (町内会等の行事等) への参加

表 4-23 には, 地域活動への参加の程度が年齢階級別に示されている。(a) 感染症拡大前 (2019 年) を見ると, 「30 歳代以下」の最頻値は「活動が身近にない」で 46.0%, 「40-50 歳代」と「60 歳代以上」の最頻値は「全くない」で 34.3% と 25.7% である。ついで, 「30 歳代以下」は「全くない」が 34.7%, 「40-50 歳代」と「60 歳代以上」は「活動が身近にない」が 33.6% と 22.0% である。「30 歳代以下」, 「40-50 歳代」, 「60 歳代以上」のそれぞれで, 地域活動に参加する (「活動が身近にない」と「全くない」以外の) 割合の合計を見ると, それぞれ 19.3%, 32.2%, 52.3% を占めており, 参加の程度は, 年齢の上昇と共に高くなることが確認できる。

(b) 感染症拡大後 (2022 年) を見ると, 「30 歳代以下」の最頻値は「活動が身近にない」で 49.2%, 「40-50 歳代」と「60 歳代以上」の最頻値は「全くない」で 40.5% と 36.3% である。ついで, 「30 歳代以下」は「全くない」が 39.2%, 「40-50 歳代」と「60 歳代以上」は「活動が身近にない」が 37.7% と 28.3% である。「30 歳代以下」, 「40-50 歳代」, 「60 歳代以上」のそれぞれで, 地域活動に参加する (「活動が身近にない」と「全くない」以外の) 割合の合計を見ると, それぞれ 11.6%, 21.8%, 35.4% を占めており, 参加の程度は, 年齢の上昇と共に高くなることが確認できる。コロナ禍前後で比較すると, 同割合はそれぞれ 7.7 ポイント, 10.3 ポイント, 16.9 ポイント減少した。コロナ禍で地域活動自体も, 参加の機会も失われ, 特に「60 歳代以上」で影響が大きいことが明らかになった。

②ボランティア活動や市民活動への参加

表 4-24 には, ボランティア活動や市民活動への参加の程度が年齢階級別に示されている。(a) 感染症拡大前 (2019 年) を見ると, 「30 歳代以下」の最頻値は「活動が身近にない」で 42.8%, 「40-50 歳代」と「60 歳代以上」の最頻値は「全くない」で 48.0% と 44.4% である。

ついで、「30 歳代以下」は「全くない」が 42.4%、「40-50 歳代」と「60 歳代以上」は「活動が身近にない」が 34.5%と 26.7%である。「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のそれぞれで、ボランティア活動や市民活動に（「活動が身近にない」と「全くない」以外の）参加する割合の合計を見ると、それぞれ 14.8%、17.5%、28.9%を占めており、参加の程度は、年齢の上昇と共に高くなることが確認できる。

（b）感染症拡大後（2022 年）を見ると、「30 歳代以下」の最頻値は「活動が身近にない」で 47.1%、「40-50 歳代」と「60 歳代以上」の最頻値は「全くない」が 51.0%と 50.2%である。ついで、「30 歳代以下」は「全くない」が 43.9%、「40-50 歳代」と「60 歳代以上」は「活動が身近にない」が 36.8%と 31.3%である。「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のそれぞれで、地域活動に参加する（「活動が身近にない」と「全くない」以外の）割合の合計を見ると、それぞれ 9.0%、12.2%、18.6%を占めており、参加の程度は、年齢の上昇と共に高くなることが確認できる。コロナ禍前後で比較すると、同割合はそれぞれ 5.8 ポイント、5.3 ポイント、10.3 ポイント減少した。コロナ禍でボランティア活動や市民活動自体も、参加の機会も失われたことが、特に「60 歳代以上」で影響が大きいことが明らかになった。

（4）地域への愛着

表 4-25 には、地域への愛着が年齢階級別に示されている。「30 歳代以下」の最頻値は「少しは愛着がある」で 38.2%であるのに対して、「40-50 歳代」と「60 歳代以上」の最頻値は「愛着がある」でそれぞれ 39.1%と 50.0%である。ついで、「30 歳代以下」は「愛着がある」が 30.3%、「40-50 歳代」と「60 歳代以上」は「少しは愛着がある」がそれぞれ 35.2%と 27.7%である。「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のそれぞれで、愛着がある（「愛着がある」と「少しは愛着がある」）割合の合計を見ると、それぞれ 68.5%、74.4%、77.7%を占めており、どの年齢階級でも同割合は高いが、年齢の上昇と共に高まることが確認できる。

（5）QOL

生活満足度と健康満足度について年齢階級別にまとめると以下の通りである。

①生活満足度

表 4-26 には、生活全般についての満足度が年齢階級別に示されている。生活全般についての満足度は、0 を最も不満足な状態、10 を最も満足な状態とした、11 段階で評価されている。（a）感染症拡大前（2019 年）を見ると、「5」が最も多く、「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のそれぞれで 41.9%、42.3%、43.4%である。ついで、「8」が共に高く、16.6%、13.7%、12.7%である。

（b）感染症拡大後（2022 年）を見ると、「5」が最も多く、「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のそれぞれで 32.4%、28.4%、28.9%である。ついで、「30 歳代以下」と「40-50 歳代」は「3」が共に 16.7%、18.6%と高く、「60 歳代以上」は「4」が高く 16.5%である。

感染症拡大後は、拡大前と比較して、「5」の選択割合は「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のそれぞれで 9.5 ポイント、14.0 ポイント、14.4 ポイント低下し、「3」の選択割合は 14.4 ポイント、15.1 ポイント、10.5 ポイント増加した。さらに、「5」以上を選択する割合が 34.4 ポイント、38.6 ポイント、33.3 ポイント減少し、「4」以下を選択する割合が同じだけ上昇した。このように、コロナ禍ではすべての年齢階級で生活満足度が大きく低下したことが明らかになった。

②健康満足度

表 4-27 には、健康状態についての満足度が年齢階級別に示されている。健康満足度も同様に、0 を最も不満足な状態、10 を最も満足な状態とした、11 段階で評価されている。(a) 感染症拡大前（2019 年）を見ると、「5」が最も多く、「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のそれぞれで 44.1%、44.4%、41.5% である。ついで、「8」が共に高く、16.7%、12.1%、13.0% である。

(b) 感染症拡大後（2022 年）を見ると、「5」が最も多く、「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のそれぞれで 38.6%、37.4%、33.1% である。ついで、「30 歳代以下」は「7」が高く 9.2% であり、「40-50 歳代」と「60 歳代以上」は「4」が高く 13.3% と 14.5% である。感染症拡大後は、拡大前と比較して、「5」の選択割合は「30 歳代以下」、「40-50 歳代」、「60 歳代以上」のそれぞれで 5.6 ポイント、7.0 ポイント、8.3 ポイント低下し、「3」の選択割合は 5.6 ポイント、5.8 ポイント、6.9 ポイント増加した。さらに、「5」以上を選択する割合が 13.7 ポイント、17.9 ポイント、23.0 ポイント減少し、「4」以下を選択する割合が同じだけ上昇した。このように、コロナ禍ではすべての年齢階級で生活満足度ほど大きくないが健康満足度が低下したことが明らかになった。

表 4-15. 家族と出かける頻度

(a) 感染症拡大前（2019 年）

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
週に1回以上	145	175	104	424	46.6%	39.9%	32.1%	39.5%
月に数回程度	106	157	121	384	34.1%	35.8%	37.3%	35.8%
半年に数回程度	29	40	45	114	9.3%	9.1%	13.9%	10.6%
年に数回程度	14	30	23	67	4.5%	6.8%	7.1%	6.2%
数年に数回程度	7	15	7	29	2.3%	3.4%	2.2%	2.7%
全くない	10	22	24	56	3.2%	5.0%	7.4%	5.2%
計	311	439	324	1074	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後（2022 年）

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
週に1回以上	103	98	74	275	33.1%	22.5%	23.9%	26.0%
月に数回程度	113	178	94	385	36.3%	40.9%	30.3%	36.5%
半年に数回程度	43	62	49	154	13.8%	14.3%	15.8%	14.6%
年に数回程度	25	41	41	107	8.0%	9.4%	13.2%	10.1%
数年に数回程度	11	10	10	31	3.5%	2.3%	3.2%	2.9%
全くない	16	46	42	104	5.1%	10.6%	13.5%	9.8%
計	311	435	310	1056	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-16. 友人と出かける頻度

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
週に1回以上	71	43	50	164	22.9%	9.8%	15.8%	15.4%
月に数回程度	123	156	109	388	39.7%	35.7%	34.5%	36.5%
半年に数回程度	56	100	57	213	18.1%	22.9%	18.0%	20.0%
年に数回程度	26	54	39	119	8.4%	12.4%	12.3%	11.2%
数年に数回程度	6	28	21	55	1.9%	6.4%	6.6%	5.2%
全くない	28	56	40	124	9.0%	12.8%	12.7%	11.7%
計	310	437	316	1063	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
週に1回以上	39	20	26	85	12.6%	4.6%	8.5%	8.1%
月に数回程度	75	76	70	221	24.3%	17.5%	22.8%	21.0%
半年に数回程度	76	93	47	216	24.6%	21.4%	15.3%	20.6%
年に数回程度	53	91	61	205	17.2%	21.0%	19.9%	19.5%
数年に数回程度	22	34	30	86	7.1%	7.8%	9.8%	8.2%
全くない	44	120	73	237	14.2%	27.6%	23.8%	22.6%
計	309	434	307	1050	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-17. 近所の人との付き合い

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
家族と同じような付き合い	1	0	6	7	0.3%	0.0%	1.8%	0.6%
相談したり、生活面でも協力	6	8	22	36	1.9%	1.8%	6.7%	3.3%
日常的に立ち話をする	30	76	109	215	9.6%	17.4%	33.2%	19.9%
あいさつ程度の付き合い	194	298	172	664	62.0%	68.2%	52.4%	61.6%
全く付き合いっていない	82	55	19	156	26.2%	12.6%	5.8%	14.5%
計	313	437	328	1078	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
家族と同じような付き合い	1	0	6	7	0.3%	0.0%	1.9%	0.1%
相談したり、生活面でも協力	5	10	13	28	1.6%	2.3%	4.0%	2.6%
日常的に立ち話をする	21	47	68	136	6.7%	10.8%	21.0%	12.7%
あいさつ程度の付き合い	193	306	209	708	61.5%	70.2%	64.5%	65.9%
全く付き合いっていない	94	73	28	195	29.9%	16.7%	8.6%	18.2%
計	314	436	324	1074	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-18. 学校や職場の人との付き合い

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
家族と同じような付き合い	9	9	6	24	2.9%	2.1%	2.2%	2.4%
相談したり、生活面でも協力	95	103	53	251	30.7%	24.2%	19.5%	24.9%
日常的に立ち話をする	135	232	97	464	43.7%	54.5%	35.7%	46.1%
あいさつ程度の付き合い	47	63	54	164	15.2%	14.8%	19.9%	16.3%
全く付き合いっていない	23	19	62	104	7.4%	4.5%	22.8%	10.3%
計	309	426	272	1007	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
家族と同じような付き合い	10	7	4	21	3.2%	1.6%	1.5%	2.1%
相談したり、生活面でも協力	71	84	40	195	22.9%	19.7%	14.7%	19.3%
日常的に立ち話をする	137	222	80	439	44.2%	52.0%	29.4%	43.5%
あいさつ程度の付き合い	60	82	76	218	19.4%	19.2%	27.9%	21.6%
全く付き合いっていない	32	32	72	136	10.3%	7.5%	26.5%	13.5%
計	310	427	272	1009	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-19. スポーツや趣味、学習等の活動への参加の程度

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
週に1回以上	45	46	48	139	14.5%	10.6%	14.8%	13.0%
月に数回程度	46	69	54	169	14.8%	15.9%	16.6%	15.8%
半年に数回程度	8	27	10	45	2.6%	6.2%	3.1%	4.2%
年に数回程度	19	27	25	71	6.1%	6.2%	7.7%	6.6%
数年に数回程度	14	24	19	57	4.5%	5.5%	5.8%	5.3%
全くない	92	146	110	348	29.6%	33.6%	33.8%	32.5%
活動が身近にない	87	95	59	241	28.0%	21.9%	18.2%	22.5%
計	311	434	325	1070	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
週に1回以上	37	42	35	114	11.9%	9.7%	10.8%	10.6%
月に数回程度	33	45	44	122	10.6%	10.3%	13.6%	11.4%
半年に数回程度	15	24	15	54	4.8%	5.5%	4.6%	5.0%
年に数回程度	12	27	22	61	3.8%	6.2%	6.8%	5.7%
数年に数回程度	13	18	9	40	4.2%	4.1%	2.8%	3.7%
全くない	109	177	133	419	34.9%	40.7%	41.0%	39.1%
活動が身近にない	93	102	66	261	29.8%	23.4%	20.4%	24.4%
計	312	435	324	1071	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-20. 同じ地域・町内の顔見知りの人への信頼

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
とても信頼できる	7	7	5	19	2.3%	1.6%	1.5%	1.8%
信頼できる	26	54	69	149	8.4%	12.4%	21.3%	13.9%
ある程度信頼	151	265	206	622	48.6%	60.8%	63.6%	58.1%
ほとんど信頼できない	75	72	32	179	24.1%	16.5%	9.9%	16.7%
まったく信頼できない	52	38	12	102	16.7%	8.7%	3.7%	9.5%
計	311	436	324	1071	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
とても信頼できる	8	6	5	19	2.6%	1.4%	1.5%	1.8%
信頼できる	26	59	69	154	8.3%	13.6%	21.3%	14.4%
ある程度信頼	146	251	201	598	46.8%	57.8%	62.0%	55.9%
ほとんど信頼できない	79	75	33	187	25.3%	17.3%	10.2%	17.5%
まったく信頼できない	53	43	16	112	17.0%	9.9%	4.9%	10.5%
計	312	434	324	1070	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-21. 同じ地域・町内の他人で知らない人への信頼

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
とても信頼できる	1	0	0	1	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
信頼できる	2	4	1	7	0.6%	0.9%	0.3%	0.7%
ある程度信頼	41	91	113	245	13.1%	21.0%	35.5%	23.0%
ほとんど信頼できない	122	191	137	450	39.0%	44.1%	43.1%	42.3%
まったく信頼できない	147	147	67	361	47.0%	33.9%	21.1%	33.9%
計	313	433	318	1064	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計	30歳以下	40-50歳代	60歳以上	計
とても信頼できる	1	0	0	1	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
信頼できる	3	3	2	8	1.0%	0.7%	0.6%	0.8%
ある程度信頼	39	87	104	230	12.4%	20.1%	32.6%	21.6%
ほとんど信頼できない	120	191	139	450	38.2%	44.2%	43.6%	42.3%
まったく信頼できない	151	151	74	376	48.1%	35.0%	23.2%	35.3%
計	314	432	319	1065	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-22. 地域外・町外の他人で知らない人への信頼

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
とても信頼できる	2	0	0	2	0.6%	0.0%	0.0%	0.2%
信頼できる	1	3	0	4	0.3%	0.7%	0.0%	0.4%
ある程度信頼	27	56	68	151	8.6%	12.9%	21.4%	14.2%
ほとんど信頼できない	104	161	133	398	33.2%	37.2%	41.8%	37.4%
まったく信頼できない	179	213	117	509	57.2%	49.2%	36.8%	47.8%
計	313	433	318	1064	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
とても信頼できる	3	0	0	3	1.0%	0.0%	0.0%	0.3%
信頼できる	1	2	0	3	0.3%	0.5%	0.0%	0.3%
ある程度信頼	25	53	66	144	8.0%	12.3%	20.7%	13.5%
ほとんど信頼できない	97	159	129	385	30.9%	36.8%	40.4%	36.2%
まったく信頼できない	188	218	124	530	59.9%	50.5%	38.9%	49.8%
計	314	432	319	1065	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-23. 地域活動への参加の程度

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
週に1回以上	0	1	4	5	0.0%	0.2%	1.2%	0.5%
月に数回程度	5	12	13	30	1.6%	2.8%	4.0%	2.8%
半年に数回程度	10	22	39	71	3.2%	5.1%	12.1%	6.6%
年に数回程度	26	60	76	162	8.4%	13.8%	23.5%	15.2%
数年に数回程度	19	45	37	101	6.1%	10.3%	11.5%	9.4%
全くない	108	149	83	340	34.7%	34.3%	25.7%	31.8%
活動が身近にない	143	146	71	360	46.0%	33.6%	22.0%	33.7%
計	311	435	323	1069	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
週に1回以上	0	1	2	3	0.0%	0.2%	0.6%	0.3%
月に数回程度	3	7	14	24	1.0%	1.6%	4.3%	2.2%
半年に数回程度	3	12	21	36	1.0%	2.8%	6.5%	3.4%
年に数回程度	14	43	46	103	4.5%	9.9%	14.3%	9.6%
数年に数回程度	16	32	31	79	5.1%	7.4%	9.6%	7.4%
全くない	122	176	117	415	39.2%	40.5%	36.3%	38.9%
活動が身近にない	153	164	91	408	49.2%	37.7%	28.3%	38.2%
計	311	435	322	1068	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-24. ボランティア活動や市民活動への参加の程度

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
週に1回以上	1	3	7	11	0.3%	0.7%	2.2%	1.0%
月に数回程度	4	12	21	37	1.3%	2.8%	6.5%	3.5%
半年に数回程度	8	10	13	31	2.6%	2.3%	4.0%	2.9%
年に数回程度	21	27	24	72	6.8%	6.2%	7.5%	6.7%
数年に数回程度	12	24	28	64	3.9%	5.5%	8.7%	6.0%
全くない	132	209	143	484	42.4%	48.0%	44.4%	45.3%
活動が身近にない	133	150	86	369	42.8%	34.5%	26.7%	34.6%
計	311	435	322	1068	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
週に1回以上	1	3	4	8	0.3%	0.7%	1.2%	0.7%
月に数回程度	4	8	14	26	1.3%	1.8%	4.3%	2.4%
半年に数回程度	5	10	12	27	1.6%	2.3%	3.7%	2.5%
年に数回程度	3	15	18	36	1.0%	3.4%	5.6%	3.4%
数年に数回程度	15	17	12	44	4.8%	3.9%	3.7%	4.1%
全くない	137	222	162	521	43.9%	51.0%	50.2%	48.7%
活動が身近にない	147	160	101	408	47.1%	36.8%	31.3%	38.1%
計	312	435	323	1070	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-25. 地域への愛着

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
愛着がある	95	171	164	430	30.3%	39.1%	50.0%	39.9%
少しは愛着がある	120	154	91	365	38.2%	35.2%	27.7%	33.8%
どちらともいえない	47	68	47	162	15.0%	15.6%	14.3%	15.0%
あまり愛着感じていない	30	21	18	69	9.6%	4.8%	5.5%	6.4%
愛着を感じていない	22	23	8	53	7.0%	5.3%	2.4%	4.9%
計	314	437	328	1079	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-26. 生活全般についての満足度

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
0 最も不満足	4	7	5	16	1.3%	1.6%	1.6%	1.5%
1	1	5	4	10	0.3%	1.2%	1.3%	1.0%
2	4	6	7	17	1.3%	1.4%	2.2%	1.6%
3	7	15	10	32	2.3%	3.5%	3.2%	3.0%
4	11	20	11	42	3.6%	4.7%	3.5%	4.0%
5	129	182	136	447	41.9%	42.3%	43.3%	42.5%
6	26	43	35	104	8.4%	10.0%	11.1%	9.9%
7	33	54	34	121	10.7%	12.6%	10.8%	11.5%
8	51	59	40	150	16.6%	13.7%	12.7%	14.3%
9	24	16	23	63	7.8%	3.7%	7.3%	6.0%
10 最も満足	18	23	9	50	5.8%	5.3%	2.9%	4.8%
計	308	430	314	1052	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後 (2022 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
0 最も不満足	13	22	13	48	4.2%	5.1%	4.1%	4.6%
1	7	20	13	40	2.3%	4.7%	4.1%	3.8%
2	28	24	21	73	9.2%	5.6%	6.7%	6.9%
3	51	80	43	174	16.7%	18.6%	13.7%	16.6%
4	33	73	52	158	10.8%	17.0%	16.5%	15.0%
5	99	122	91	312	32.4%	28.4%	28.9%	29.7%
6	23	30	24	77	7.5%	7.0%	7.6%	7.3%
7	19	29	27	75	6.2%	6.7%	8.6%	7.1%
8	17	17	20	54	5.6%	4.0%	6.3%	5.1%
9	6	6	7	19	2.0%	1.4%	2.2%	1.8%
10 最も満足	10	7	4	21	3.3%	1.6%	1.3%	2.0%
計	306	430	315	1051	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-27. 健康状態についての満足度

(a) 感染症拡大前 (2019 年)

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
0 最も不満足	2	6	5	13	0.7%	1.4%	1.6%	1.2%
1	1	3	2	6	0.3%	0.7%	0.6%	0.6%
2	5	2	2	9	1.6%	0.5%	0.6%	0.9%
3	5	20	14	39	1.6%	4.7%	4.4%	3.7%
4	14	24	19	57	4.6%	5.6%	6.0%	5.4%
5	135	191	131	457	44.1%	44.4%	41.5%	43.4%
6	20	33	32	85	6.5%	7.7%	10.1%	8.1%
7	20	47	33	100	6.5%	10.9%	10.4%	9.5%
8	51	52	41	144	16.7%	12.1%	13.0%	13.7%
9	23	29	20	72	7.5%	6.7%	6.3%	6.8%
10 最も満足	30	23	17	70	9.8%	5.3%	5.4%	6.7%
計	306	430	316	1052	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(b) 感染症拡大後（2022 年）

	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計	30歳代以下	40-50歳代	60歳代以上	計
0 最も不満足	6	11	16	33	2.0%	2.6%	5.0%	3.1%
1	5	6	8	19	1.6%	1.4%	2.5%	1.8%
2	12	13	9	34	3.9%	3.0%	2.8%	3.2%
3	22	45	36	103	7.2%	10.5%	11.4%	9.8%
4	24	57	46	127	7.8%	13.3%	14.5%	12.1%
5	118	161	105	384	38.6%	37.4%	33.1%	36.5%
6	23	42	28	93	7.5%	9.8%	8.8%	8.8%
7	28	26	21	75	9.2%	6.0%	6.6%	7.1%
8	26	34	22	82	8.5%	7.9%	6.9%	7.8%
9	16	22	15	53	5.2%	5.1%	4.7%	5.0%
10 最も満足	26	13	11	50	8.5%	3.0%	3.5%	4.7%
計	306	430	317	1053	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4-4. ソーシャル・キャピタルのまとめ

コロナ禍前後のソーシャル・キャピタルの実態の主な特徴をまとめると、以下の通りである。

(1) 付き合い・交流

徳島市民の家族と出かける頻度は高く、コロナ禍前には家族関係が密であった。しかし、コロナ禍では家族でさえも男女共に出かける機会が減少した。家族と月に数回程度以上出かける割合は、コロナ禍では男性で 60.0%、女性で 63.9% であり、コロナ禍以前よりも、それぞれ 11.6 ポイント、13.6 ポイント低下した（表 4-2）。また、どの年齢階級でも同様に減少した（表 4-15）。また、友人と出かける機会、近所の人との付き合い、学校や職場の人との付き合いもコロナ禍では男女共に大きく減少し、希薄化した（表 4-3, 4-4, 4-5）。年齢階級別に見た特徴は、「友人と出かける機会」は 40 歳代以上で大きく減少した（表 4-16）。「近所の人との付き合い」は年齢の上昇と共に密になるが、元々高水準であった「60 歳代以上」で付き合いが顕著に低下したことが確認された（表 4-17）。このように、コロナ禍において結束型ソーシャル・キャピタルである、つながりの毀損が確認された。他方で、スポーツや趣味、学習等の活動は高い頻度で実施されていたが、性・年齢に関係なくコロナ禍で減少したものの、比較的高水準が維持された（表 4-6, 4-19）。

(2) 信頼

新型コロナウイルスは人と人との接触を介して感染するため、他者への不信感を生み出し、特に見ず知らずの他人への信頼を毀損することが予想されたが、同じ地域・町内の顔見知りの人（特定信頼）、同じ地域・町内の他人で知らない人（一般信頼）、地域外・町外の他人で知らない人（一般信頼）に対する信頼のすべてで、男女共に、またどの年齢階級でも低下したものの、コロナ禍前後で顕著な低下は確認されなかった（表 4-7, 4-8, 4-9, 4-20, 4-21, 4-22）。

(3) 社会参加

まず、地域活動は、コロナ禍ではその活動自体も参加の機会も失われた（表 4-10）。つぎに、ボランティア等の活動はコロナ禍前から多くの市民によって活発に行われていたわけではないが、コロナ禍でその活動自体も参加の機会も失われた（表 4-11）。

年齢階級別に見た特徴は、地域活動とボランティア活動の頻度は、コロナ禍では特に「60歳代以上」での低下が大きいことが示された（表 4-23, 4-24）。

(4) 地域への愛着

居住地域について、「愛着がある」と「少しは愛着がある」を合わせたポジティブな回答をした割合は、男女共に 70% 超である（表 4-12）。年齢階級で見ると、どの年齢階級でも同割合は高いが、年齢の上昇と共に高まることが確認された（表 4-25）。

(5) QOL

コロナ禍では男女共に生活満足度が大きく低下し、健康満足度も生活満足度ほど大きくないが共に低下した。同じ傾向はどの年齢階級でも確認された（表 4-13, 4-14, 4-26, 4-27）。

5. まとめ

最後に、本質問紙調査の主な結果について、サンプル、市民の阿波おどりとの関わり、阿波おどりとの関わりの現在と過去の実態、コロナ禍における連の活動、ソーシャル・キャピタルの観点から整理すると以下の通りである。

① サンプル

- ・本調査のサンプルは、徳島市の地区別、年齢階級別の人口分布を反映したものである。ただ、性別では回答者が女性に偏ったが、回答者のその他の属性には、性差はほとんど見られないことが確認された。

② 阿波おどりとの関わり

- ・本調査からは、2022 年において、阿波おどりとの（観覧以外の）関わりを「現在」持つ市民が 5% 程度であると推定された。コロナ禍の影響で関わりを持たなくなった市民も一定割合で確認されたが、一時点で見れば、踊り手や連への協力、阿波おどりの運営のサポートで実際に関わりを持っている市民が多いわけではない。他方で、過去に関わりをもっていた市民は 23% いることから、（これらを合わせると）市民の 30% 弱が実際に（観覧以外の）関わりを持った経験がある。また、観覧というかたちで、阿波おどりに触れる市民は全体半分超にも上る。このことから、過去も含め、さらに観覧という広い意味で阿波おどりとの関係も捉えれば、実に市民の 80% がなんらかの形で阿波おどりとの関わりを持った経験があることが明らかになった。一方で、過去から何の関わりも持っていない市民はおよそ 20% にすぎない。

③ 阿波おどりとの現在と過去の関わり

- ・阿波おどりとの関わりは、「現在」も「過去」も、「連員」や「仕事」を通じた関わりが中心である。阿波おどりは、「地域や町内の活動」や「ボランティア活動」といった自発的な「社会的活動」とは多くの場合、切り離されており、「現在」でも「過去」でもこれら

の関わりを持つ市民は多くない。「連や連員に協力」している市民も同様である。他方で、「仕事」を通じた関わりが高いことから、企業のビジネス活動や商店等の家業、企業連や阿波おどり開催のスポンサーといった「経済的活動」では関わりがあり、地元の産業界が徳島市の阿波おどりを支えている側面が確認された。

- また、「現在」でも「過去」でも、市民が阿波おどりとの複数の関わり（たとえば、町内の活動と連や連員への協力の両立等）を持つというよりは、多くの場合、いずれか一つの関わりを持っている。

④ コロナ禍における連の活動

- 阿波おどりとの関わりは、コロナ禍でその頻度が低下しており、「連員」としての活動にも大きな影響をもたらした。コロナ禍では、練習場所が確保できなかったり、おどりを披露する機会が減少したほかに、連員を辞める人の増加も確認された。「30歳代以下」と「60歳代以上」では、連の活動に参加していない割合が顕著に増加したことから、コロナ禍では若年層と高齢層の活動が大きな影響を受けた可能性が示された。

⑤ ソーシャル・キャピタル

- 徳島市民の家族とのつながりは顕著に密であり、若年層は（近所とのつながりが希薄である一方で）学校や職場での人とのつながりが強く、高齢層は（学校や職場でのつながりが希薄である一方で）近所の人とのつながりが強いという特徴が確認された。
- コロナ禍の影響を見ると、まず、強い家族とのつながりにも負の影響を与えた。つぎに、近所付き合いは年齢の上昇と共に密になる傾向があるが、もともと希薄な若年層ではコロナ禍の影響は小さかった一方で、密であった高齢層ほど棄損されたことが明らかになった。さらに、学校や職場での人とのつながりは、近所の人とのつながりと比べると、顕著に密であり、また、若年層ほど密であったが、コロナ禍でも若年層のつながりが比較的維持された。そのため、コロナ禍では、近所の人とのつながりが希薄化した高齢層ほど、つながりというソーシャル・キャピタルが棄損した可能性が示された。
- 地域内の知人を信頼（特定信頼）するポジティブな割合は高いが、地域内外の知らない人への信頼（一般信頼）は低いことが確認されたが、知り合いであるかに関係なく他者への信頼は年齢の上昇と共に高まる傾向が見られた。しかし、特定信頼と一般信頼共に、コロナ禍で大きな信頼の低下は確認されなかった。
- 阿波おどり以外の活動のうち、地域活動への参加の程度は、どの年齢階級においても盛んではないが、年齢と共に高まる傾向がある。ボランティア活動や市民活動の参加についても同様の傾向が確認できる。コロナ禍はこれらの活動への参加の機会を妨げ、特に、これは高齢者の参加の程度が高い地域活動の停滞をもたらした。
- 地域への愛着は居住地域と居住者とのつながりを示すものであり、70%程度の住民が愛着があると回答しており、市民の居住継続意思が強いことが示された。
- コロナ禍では、QOLについても悪化し、特に生活満足度は大きく悪化した。

6. 参考文献

- 阿波おどり未来へつなぐ実行委員会「「2022 阿波おどり」の開催結果について」(https://www.awaodorimirai.com/_files/ugd/9a2496_b3e11e4b413c4fb38281c4ff988982e3.pdf)：閲覧日：2024 年 9 月 1 日)
- 厚生労働省「データからわかる—新型コロナウイルス感染症情報—」(<https://covid19.mhlw.go.jp/>)：閲覧日：2024 年 9 月 1 日)
- 徳島市「令和 4 年地区別・年齢別・年齢階層別住民基本台帳人口」(https://www.city.tokushima.tokushima.jp/shisei/toukei_johou/jinkousetaisu_tokei/tikubetu_jinkou/r4_nennreikaisou.html)：閲覧日：2024 年 9 月 1 日)
- 徳島市「「2021 阿波おどり～ニューノーマルモデル～」について」(<https://www.city.tokushima.tokushima.jp/kankou/awaodori/2021awa.html>)：閲覧日：2024 年 9 月 1 日)
- 内閣府 (2003)「ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」(<https://www.npo-homepage.go.jp/toukei/2009izen-chousa/2009izen-sonota/2002social-capital>)：閲覧日：2024 年 9 月 1 日)
- Putman, R. (1993) “Making Democracy Work: Civic Transitions in Modern Italy”, Princeton University Press (河田潤一訳 [2001]『哲学する民主主義』NTT 出版)